

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

平成 23 年度～平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」 研究成果報告書概要

- 1 学校法人名 順天堂 2 大学名 順天堂大学
- 3 研究組織名 アトピー疾患研究センター
- 4 プロジェクト所在地 東京都文京区本郷2-1-1
- 5 研究プロジェクト名 “バリア”に着目したアレルギー疾患の病態解明と治療のための研究
拠点の形成
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
池田 志孝	医学研究科皮膚科学・アレルギー学	教授

- 8 プロジェクト参加研究者数 60 名

- 9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
奥村 康	アトピー疾患研究センター・ センター長・特任教授	アレルギー疾患の病態解 明と治療法の開発	研究指導
池田 志孝	医学研究科皮膚科学・ アレルギー学・教授	皮膚アレルギー感受性遺 伝子の探索と皮膚上皮細 胞の機能解析	研究統括 アレルギー性皮膚疾患の 病態解明と遺伝子治療 法の開発
須藤 一	アトピー疾患研究センター、 皮膚科学・准教授	皮膚バリア機能の生化学 的解析およびそれに基づい たトランスレショナルリサ ーチのための基礎的検討	アレルギー性皮膚疾患の 病態解明と治療法の開発
高井 敏朗	アトピー疾患研究センター・ 准教授	環境アレルゲンの構造・生 化学的解析とアレルギー疾 患惹起における機能解析	アレルギー疾患の病態解 明および治療法の開発
西山 千春	アトピー疾患研究センター・ 准教授	アレルギー・自己免疫疾患 感受性遺伝子の探索と転 写調節因子の機能解析	アレルギー・自己免疫疾患 の遺伝子治療・予防法の 開発
ニヨンバ フランソワ	アトピー疾患研究センター・ 准教授	抗菌ペプチドによる免疫細 胞賦括作用の検討	アレルギー疾患の病態解 明
牛尾 博子	アトピー疾患研究センター・ 准教授	マスト細胞の機能解析によ るアレルギー制御機構の解 析	マスト細胞の新機能を標 的とするアレルギー治療薬 の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
中野 信浩	アトピー疾患研究センター・助教	マスト細胞の機能解析によるアレルギー制御機構の解析および食物アレルギーモデルの解析	マスト細胞の新機能を標的とするアレルギー治療薬の開発
前田 啓子	アトピー疾患研究センター・助教	マスト細胞の分化制御機構とアレルギー疾患における役割の解明	マスト細胞の新機能を標的とするアレルギー治療薬の開発
上條 清嗣	アトピー疾患研究センター・助教	環境アレルゲン・ダメージ関連分子による免疫細胞賦括作用の検討	アレルギー疾患の病態解明および治療法の開発
清水 俊明	医学研究科小児思春期発達病態学・教授	小児アレルギー疾患感受性遺伝子の探索と機能解析	小児アレルギーの病態解明と治療法の開発
村上 晶	医学研究科眼科学・教授	アレルギー性眼疾患感受性遺伝子の探索と機能解析	アレルギー性眼疾患の遺伝子治療法の開発
海老原 伸行	医学研究科眼科学・先任准教授	アレルギー性眼疾患の上皮細胞の機能解析	アレルギー性眼疾患の病態解明と治療法の開発
松田 彰	医学研究科眼科学・准教授	アレルギー性眼疾患におけるマスト細胞の機能解析	アレルギー性眼疾患の病態解明と治療法の開発
高橋 和久	医学研究科呼吸器内科学・教授	呼吸器アレルギー疾患感受性遺伝子の探索と機能解析	呼吸器アレルギーの病態解明と治療法の開発
高崎 芳成	医学研究科膠原病リウマチ内科学・教授	自己免疫疾患の感受性遺伝子の探索と機能解析	自己免疫疾患の病態解明と遺伝子治療法の開発
垣生 園子	医学研究科免疫学・客員教授	霊長類を用いたアレルギーモデルの確立のための基礎的検討	アレルギー疾患トランレショナルリサーチのための基礎的検討
八木田 秀雄	医学研究科免疫学・先任准教授	霊長類を用いたアレルギーモデルの確立のための基礎的検討	アレルギー疾患トランレショナルリサーチのための基礎的検討
(共同研究機関等)			
中尾 篤人	山梨大学医学工学総合研究部・教授	環境因子によるアレルギー発症機構の解明	アレルギー疾患の病態解明および治療法の開発
斎藤 博久	(独)国立成育医療研究センター・副研究所長	マスト細胞や抑制性 T 細胞に着目したアレルギー抑制機構の解明と治療法の開発	抑制性 T 細胞によるアレルギー疾患の治療、予防法の開発
山口 正雄	帝京大学医学部内科学講座・准教授	好塩基球によるアレルギー・免疫応答修飾機構の解析	好塩基球の新機能を標的とするアレルギー治療薬の開発
中江 進	東京大学医科学研究所フロンティア研究拠点・特任准教授	マスト細胞や抑制性 T 細胞に着目したアレルギー抑制機構の解明と治療法の開発	抑制性 T 細胞によるアレルギー疾患の治療、予防法の開発

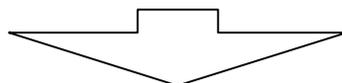
法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
好塩基球によるアレルギー・免疫応答修飾機構の解析	帝京大学医学部内科学講座・准教授	山口 正雄	好塩基球の新機能を標的とするアレルギー治療薬の開発

(変更の時期:平成 23 年 11 月 1 日)



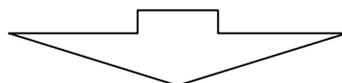
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
帝京大学医学部内科学講座・准教授	帝京大学医学部内科学講座・教授	山口 正雄	好塩基球の新機能を標的とするアレルギー治療薬の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
皮膚バリア機能の生化学的解析およびそれに基づいたトランスレーショナルリサーチのための基礎的検討	アトピー疾患研究センター、皮膚科学・准教授	須藤 一	アレルギー性皮膚疾患の病態解明と治療法の開発

(変更の時期:平成 24 年 5 月 1 日)



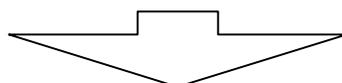
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
アトピー疾患研究センター、皮膚科学・准教授	アトピー疾患研究センター・非常勤講師	須藤 一	アレルギー性皮膚疾患の病態解明と治療法の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
アレルギー性眼疾患感受性遺伝子の探索と機能解析	大学院医学研究科眼科学・先任准教授	海老原 伸行	アレルギー性眼疾患の病態解明と治療法の開発

(変更の時期:平成 24 年 7 月 1 日)



新

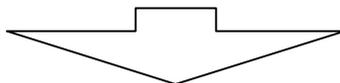
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大学院医学研究科眼科学・先任准教授	大学院医学研究科眼科学・教授	海老原 伸行	アレルギー性眼疾患の病態解明と治療法の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
アレルギー・自己免疫疾患感受性遺伝子の探索と転写調節因子の機能解析	アトピー疾患研究センター・准教授	西山 千春	アレルギー・自己免疫疾患の遺伝子治療・予防法の開発

(変更の時期:平成 25 年 9 月 1 日)



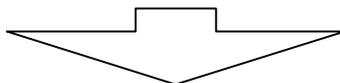
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
アトピー疾患研究センター・准教授	東京理科大学基礎工学部・教授	西山 千春	アレルギー・自己免疫疾患の遺伝子治療・予防法の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
なし	東京大学医科学研究所・准教授	北浦 次郎	なし

(変更の時期:平成 26 年 8 月 1 日)



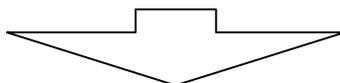
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東京大学医科学研究所・准教授	アトピー疾患研究センター・先任准教授	北浦 次郎	アレルギー疾患の病態解明と治療法の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
マスト細胞の機能解析によるアレルギー制御機構の解析	アトピー疾患研究センター・准教授	牛尾 博子	マスト細胞の新機能を標的とするアレルギー治療薬の開発

(変更の時期:平成 27 年 3 月 31 日)



新

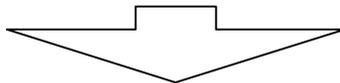
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
アトピー疾患研究センター・准教授	退職	牛尾 博子	なし

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
なし	東京大学医科学研究所・ 助教	伊沢 久未	なし

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



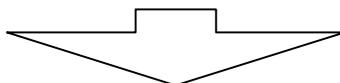
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東京大学医科学研究所・ 助教	アトピー疾患研究センター・ 助教	伊沢 久未	アレルギー疾患の病態解 明と治療法の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
霊長類を用いたアレルギー モデルの確立のための基 礎的検討	医学研究科免疫学・ 客員教授	垣生 園子	アレルギー疾患トランレー ショナルリサーチのための 基礎検討

(変更の時期:平成 27 年 7 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
医学研究科免疫学・ 客員教授	アトピー疾患研究センター・ 客員教授	垣生 園子	アレルギー疾患トランレー ショナルリサーチのための 基礎検討

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

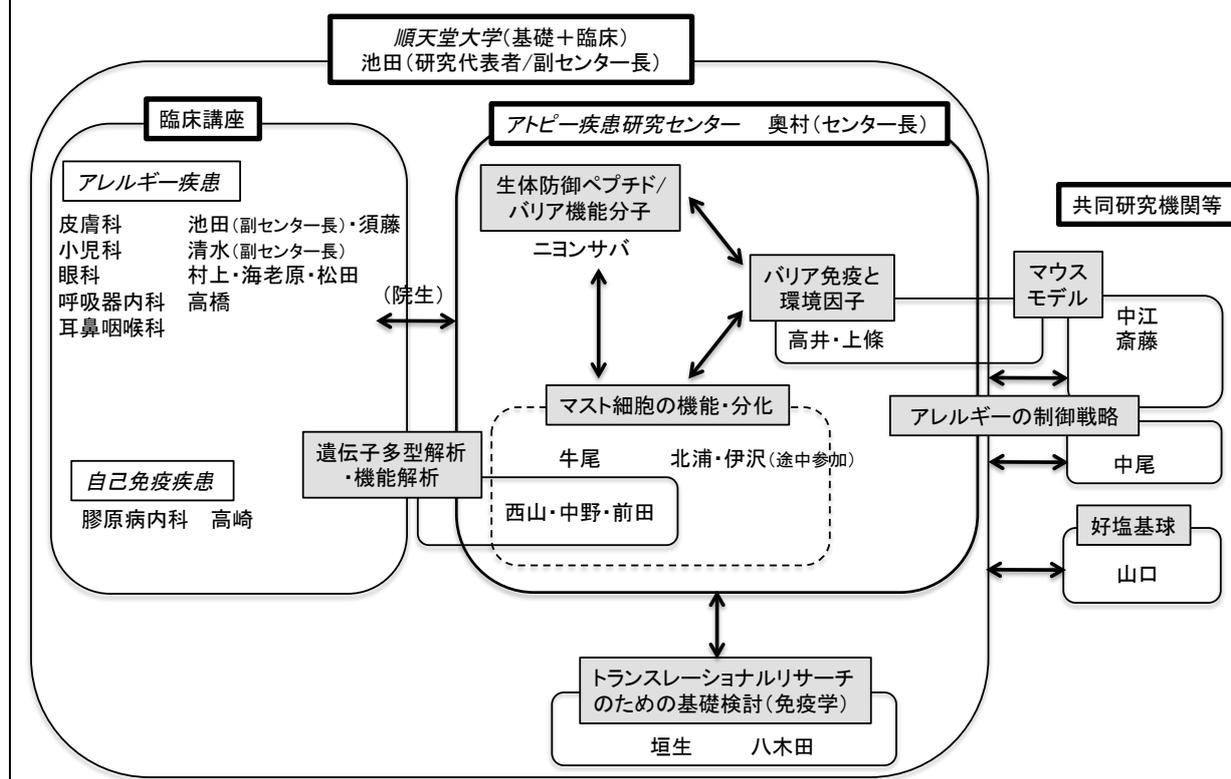
(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【目的・意義】 アレルギー疾患の発症・病態に關与する環境要因と遺伝的要因を、我々の体の内外を隔てる上皮細胞とそれによって修飾される細胞により構成される“バリア”に着目して解析する。これにより、アレルギー疾患の新たな病因・病態を解明し、治療・予防につながる知見を得ることを目的とする。

【計画の概要】 ●環境要因およびバリア表面機能分子に着目し、[1] 環境アレルゲン、病原体関連分子、ダメージ関連分子による上皮細胞などの自然免疫応答の解析と [2] 環境アレルゲンによるマウスアレルギーモデルの作製により、バリア組織におけるアレルギー性炎症応答のイニシエーションと増悪化に関する理解を深めるとともに、[3] 上皮バリア機能分子に関する解析とその新機能の探索を行う。●遺伝的要因およびマスト細胞応答の機序などに着目し、[4] アレルギー関連細胞の機能制御に関わる解析、および [5] アレルギー・自己免疫疾患関連遺伝子の転写調節機構の解析と [6] 遺伝子多型(SNP)の探索を行う。●得られた知見を活用し、[7]アレルギー疾患の治療・予防への臨床応用の可能性を検討する。

(2) 研究組織

本事業の中心となるアトピー疾患研究センターのアレルギー・免疫学を専門とする専任の研究者を中心に、複数の臓器で違った病態を示す各アレルギー疾患に関連した臨床各科(皮膚科、小児科、眼科、呼吸器内科、膠原病内科、耳鼻咽喉科)の研究者が協力し、的を絞った研究目的を共有して研究を進める体制が整っている。外部共同研究者として、アレルギー反応のエフェクター細胞として注目を集めている好塩基球や制御性 T 細胞の研究者を加え、アレルギー疾患の病態と治療法を多角的に研究する体制をとる。また、研究の進捗状況や妥当性を評価する評価委員会を設置し、評価会議(年1回)での討議にてプロジェクトの有効な進展を図る。リサーチアシスタント、ポストドクターの活用状況については「18 研究費の支出状況」の各年度の「研究スタッフ関連支出」の欄を参照されたい。参加する主な研究者の実質的な組織関係図を下記に示す。



法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

(3) 研究施設・設備等

本事業の中心となるアトピー疾患研究センターは学術フロンティア推進事業(平成 10-19 年)において整備され、遺伝学的・分子生物学的な基礎研究を遂行する基盤が整っている。また前事業で整備された SPF 動物施設を併設し、動物実験のための設備も整っている。本事業では、当該研究の遂行にあたり必要な遺伝子解析や細胞イメージングのための設備を新たに追加整備した。施設、使用者数、装置設備とその利用状況については「17 施設・装置・設備の整備状況」を参照されたい。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

達成事項を【Ⅰ】環境要因、【Ⅱ】遺伝的要因と細胞応答、【Ⅲ】治療・予防との関連、という3つの観点で分類集約して、以下に記載する。

「13 研究発表の状況」中の<雑誌論文>との対応を*および番号で示した。雑誌論文に未掲載の場合に限り「13」中の<学会発表>との対応を**で示した。「13」中の<学会発表>欄には、本欄で言及した成果に関連するもの全てに**を付した。

【Ⅰ】環境要因およびバリア表面機能分子に着目したアプローチ

[1] 外来刺激に対する上皮細胞などの自然免疫応答の解析

- a) (皮膚ケラチノサイト:TSLP 産生など) さまざまな病原体関連分子がヒト皮膚ケラチノサイトを刺激し、Th2 細胞の分化誘導に働くために重要なサイトカインである thymic stromal lymphopoietin (TSLP)の産生を誘導することを明らかにした(*197)。特に、ウィルス由来成分のひとつである二本鎖RNA、バクテリアの鞭毛成分であるフラジリン(ハウスダスト中にも存在)、バクテリアの細胞壁成分であるリポペプチド(アトピー性皮膚炎患者皮膚で増殖する黄色ブドウ球菌にも存在)がそれぞれ Toll-like receptor (TLR) 3, 5, 2/6 を介して、TSLP の誘導に働くことを明らかにした(*129,279,261,151)。2 種類のヒト TSLP 遺伝子転写産物のうち、TLR 刺激あるいは炎症性サイトカインによる刺激によってケラチノサイトに発現誘導されるのは長鎖型転写産物であることを明らかにした(*221)。生きたウィルスでは、ケラチノサイトによる TSLP 産生と抗ウィルス性サイトカイン産生において、寄与する受容体が異なることが示唆された(*273)。またタクロリムス(FK506)による角膜筋線維芽細胞からの TLR リガンドによるサイトカイン産生の抑制は、TLR リガンドにより違いのあることが明らかとなった(*255)。これらの知見は、病原体によるアレルギー疾患のイニシエーション、増悪化のメカニズムの解明に非常に重要である。
- b) (マスト細胞:ウィルスに対する応答) ウィルス由来分子および生きたウィルスによって刺激したマスト細胞(ヒトおよびマウス)の活性化機構を解析し、マスト細胞が上皮系細胞とは異なる受容体を利用し、抗ウィルス活性を有する分子群を発現してウィルス増殖を抑制することを明らかにした(*49,179)。
- c) (好塩基球:プロテアーゼ抗原および花粉に対する応答) ダニ主要グループ 1 アレルゲン(Der f 1, Der p 1)およびアレルギーの原因となる花粉粒子(スギ・ヒノキ・ブタクサ・イネ科)が in vitro でマウス好塩基球を活性化し、IL-4 などのサイトカイン放出を誘導することを見いだした(*176,2)。Der f 1, Der p 1 および パパインによるサイトカイン産生はプロテアーゼ活性依存的であった。プロテアーゼ抗原、花粉、エンドキシン、IL-18、IL-33

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

による IL-4 放出は、FcR γ 鎖を欠損した好塩基球では観察されず Syk キナーゼ阻害剤によって阻害されることから、FcR γ 鎖-Syk 経路が関与すると考えられた。IL-3 シグナルは好塩基球活性化に必須であるが、パパインおよびブロメラインがマウス好塩基球の IL-3 受容体サブユニットを切断することも見いだした(*35)。

- d) (ヒト角膜上皮細胞: アラーミン放出と他細胞種との相互作用) ヒト角膜上皮細胞に凍結融解ダメージを与えて得られる上清液は、IL-4 または IL-13 存在下でヒト線維芽細胞に CCL11 と VCAM1 発現を誘導した。すなわちアレルギー疾患で実現される Th2 サイトカイン環境で作用するアラーミン物質を含有することを見いだした(*170)。また、ヒト角膜上皮細胞とマスト細胞の接触により緩慢なマスト細胞脱顆粒が誘導されることも明らかにした(*172)。

[2] 環境アレルゲン等によるアレルギーモデルの作製

- a) (プロテアーゼ経気道感作) プロテアーゼアレルゲン(*243,262)であるダニ抗原 Der f 1、Der p 1、およびパパインの経鼻投与による気道炎症モデルを作製し、これらのアレルゲンによる気道炎症に関わる T 細胞、サイトカイン、マスト細胞、好塩基球の役割について検討した。その結果、プロテアーゼ抗原の経鼻投与による抗体産生および好酸球浸潤にはプロテアーゼ活性が必須であり、上皮のダメージに伴って分泌される IL-33 が好酸球浸潤だけでなく IgE 抗体産生にも関与していることを明らかにした(*176)。
- b) (プロテアーゼ経皮感作およびアレルギーマーチ) プロテアーゼ抗原をマウスの耳介皮膚に繰り返し塗布することにより、IgE/IgG1 抗体産生が惹起されることを見いだした(*87)。さらに、表皮肥厚および好酸球性炎症を伴う皮膚炎症が誘導され、引っ掻き行動を模したテープストリッピングにより皮膚バリアにダメージを与えると、応答が促進増強された(*7)。これらの現象は、抗原の酵素活性に依存적であったが、IL-33 非依存的であり、その機序は先に明らかにした IL-33 依存的気道炎症とは異なることが示唆された。経皮的感作成立後に、炎症を誘導しないレベルの少量のプロテアーゼ抗原の経鼻投与を行うと(「アレルギーマーチ」のモデル)、好酸球性気道炎症誘導と抗原特異的 IgE のブースト効果が観察され、この応答は IL-33 依存的であった。
- c) (プロテアーゼ皮下感作) プロテアーゼ抗原を耳介皮下に注射した場合にも、塗布した場合と同様に、酵素活性依存的、IL-33 非依存的に皮膚炎症や IgE/IgG1 抗体産生が惹起された。この系において、マスト細胞が 抗原特異的 Th2 分化、IgE/IgG1 産生、皮膚炎誘導の責任細胞のひとつであること明らかにした(*6)。
- e) (プロテアーゼによる自然型アレルギー性気道炎症) 上記 a)-c)はいずれも Th 分化および IgE 誘導までの感作過程を含むモデルであるが、より高用量のプロテアーゼ抗原の短期経鼻投与は獲得免疫の関与なしに、IL-33 で刺激されたグループ2自然型リンパ球(ILC2)からの大量の Th2 サイトカイン放出を介して、好酸球性気道炎症を誘導することができる。この自然型の呼吸器アレルギーモデルにおいては、IL-33 に刺激されたマスト細胞が抑制的な役割を果たしていることがわかった(学外共同研究)(*48)。
- f) (その他のモデル) プロテアーゼ、ダニ、花粉などの環境アレルゲンを抗原としたモデル、および卵白アルブミンをモデル抗原とした系も用いて解析を行った。欠損マウスを用いた解析を行い、鼻炎モデル(ダニ)(*191)と結膜炎モデル(ブタクサ花粉)(*54)における IL-33 の関与、および気道炎症モデル(卵白アルブミン)(*78,196,223)における IL-33

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

とIL-25の関与を明らかにした(学外共同研究)。アレルギー性気道炎症におけるマクロファージやCD8(-)樹状細胞の役割を解析した(*43,98)。アジュバントを用いないスギ花粉症モデルを構築し、舌下免疫療法の作用機序を解析した(学外共同研究)(*145)。寄生虫とダニの抗原間の交差反応性を動物モデルで解析し、寄生虫抗原によって前感作した後のダニ抗原吸入がダニ特異的IgEを誘導しやすいことを示し、新しい形の感作促進機序として提唱した(*13,152)。

[3] バリア表面機能分子(生体防御ペプチド、バリア関連分子等)に関する解析

a) (生体防御/抗菌ペプチドと炎症) 各種生体防御ペプチド(殺菌ペプチド、抗菌ペプチドとも呼ばれる)は、炎症や感染によって上皮から産生されるが、アレルギー疾患や種々の皮膚疾患で増減しており、疾患への関与が示唆されている。その中でもLL-37、 β -defensin類はさまざまな刺激で誘導され、好中球、樹状細胞、マスト細胞に働いて炎症を惹起することを報告してきた(*181,215)。さらに、抗菌ペプチドCatestatin、Elafin、AMP-1BP5がマスト細胞やケラチノサイトの遊走や、サイトカインやケモカインの産生を誘導することを見いだした(*260,271,272,274)。

b) (生体防御/抗菌ペプチドによるバリア機能保持) 抗菌ペプチドS100A7/Psoriasin、LL-37、 β -defensinsが、ケラチノサイトにオートクラインに働き、タイトジャンクション分子の発現を増強してバリア機能を増強することを明らかにした(*101,124,126)。また、LL-37がケラチノサイトのSemaphorin 3A(神経反発分子であり、かゆみ抑制作用をもつ)の発現を増強することを明らかにした(*65)。バリア機能の低下、かゆみ、黄色ブドウ球菌感染はアトピー性皮膚炎の特徴であり、これらに対する拮抗作用を有する抗菌ペプチドは、アトピー性皮膚炎の抑制に働く可能性が示唆された。

c) (生体防御/抗菌ペプチドと乾癬) 乾癬やさまざまな皮膚疾患において皮膚に増加するIL-1ファミリーのサイトカイン、IL-36が乾癬において増加している抗菌ペプチドS100A7/PsoriasinやLL-37の産生に関与することを明らかにした(*222)。さらにLL-37は種々の刺激に対する応答を正または負に修飾し、例えばIL-17A刺激と相乗的に働いてIL-6産生を増強した(IL-17A、IL-6ともに乾癬での発現が知られている)(*151)。これらの抗菌ペプチドはさらに他の免疫細胞に働いて炎症に関わることをすでに明らかにしているが、乾癬という皮膚疾患で新たなオートクラインのルートが明らかになった。

このように、感染やさまざまな刺激によって皮膚上皮から産生される生体防御/抗菌ペプチドは、抗菌作用だけではなく、バリアの維持、炎症惹起、神経伸長制御などの作用をもち、恒常性の維持にとどまらず、種々の皮膚疾患に関与している可能性がある。

d) (生体防御/抗菌ペプチドによる細胞刺激のメカニズム) 抗菌ペプチドAMP-1BP5がMrgX2受容体を介して(投稿準備中; **9,13)、そして天然抗菌ペプチドの特徴を元に人工設計された抗菌ペプチドAG-30/5CがMrgX1-4の複数の受容体を介してヒト・マスト細胞(投稿準備中: **22,33)あるいはヒト・ケラチノサイト(*5)を刺激することを明らかにした。ケモカイン受容体CCR6を介した機序により、 β -defensin 3刺激によるケラチノサイトのIL-37産生、およびタイトジャンクション分子発現亢進によるバリア機能増強が誘導されることを明らかにした(*60)。

e) (フィラグリン) 皮膚上皮細胞のバリア構成成分であるフィラグリンの変異がアトピー性皮膚炎と関連のあることが注目されている。フィラグリン変異とアレルギー性結膜炎発症

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

との関連はみられなかった(*202)。一方、ヒト鼻粘膜上皮組織および培養細胞にフィラグリンが発現していることを見だし、炎症や感染を模した刺激によってヒト鼻粘膜上皮細胞のフィラグリン発現が低下することを明らかにした(投稿中; **68,225)。

【Ⅱ】 遺伝的要因およびマスト細胞等に着目したアプローチ

[4] アレルギー関連細胞の機能制御に関わる解析

- a) (オートファジー) アレルギー応答の中心的役割を演じるマスト細胞の顆粒形成機構について、顆粒形成の過程でオートファゴソーム膜成分が関与することを明らかにした(*249,266)。まだ詳細がわかっていないマスト細胞の顆粒形成のメカニズム解明の糸口となる知見である。
- b) (Notch シグナル) マスト細胞が Notch 受容体を恒常的に発現していることから、Notch リガンドによるマウス骨髄由来培養マスト細胞の分化や機能制御について検討した。Notch リガンドによる刺激により、マスト細胞が抗原提示能を発揮できるようになること、粘膜型に近いマスト細胞に分化すること、などを見いだした(*268)。また Notch リガンドによる刺激はマスト細胞からの IL-4 等のサイトカイン産生を増強した。その機序はシグナル抑制因子 SHIP-1 の発現低下の誘導によるものであることを明らかにした(*64)。Notch リガンドの発現は小腸粘膜上皮細胞や血管内皮細胞に認められることから、腸管粘膜におけるマスト細胞の分化や機能に影響を与える分子であることが示唆された。
- c) (CD300f) マスト細胞に発現する CD300f は細胞内シグナルの抑制に関与する受容体であり、そのリガンドはセラミド脂質である。セラミドの CD300f への結合が、IgE 架橋刺激に限らず ATP 刺激によるマスト細胞活性化を抑制することを見いだした(中間報告後の新規テーマ)(*16)。
- d) (体内時計) マスト細胞が中心となっておこる I 型アレルギー反応が日内変動を示すこと、その現象は時計遺伝子 *Period2 (Per2)* を欠損したマウスでは生じないことを見いだした(学外共同研究)(*32,111,20)。また *Per2* 欠損マウスではデキサメサゾンによる免疫抑制作用を受けにくかった。時計遺伝子は生体内だけでなく、マスト細胞自身にも存在することが示唆された。これらの知見は、アレルギー発作が特定の時間に起こりやすいという現象の背後にある機序をはじめ明らかにしたものである。さらに、同様の体内時計遺伝子にもとづく日内変動が、スギ花粉症患者好塩基球の応答性、マウス大腸上皮タイトジャンクション分子発現、などにおいても存在することを明らかにした(学外共同研究)(*31142,66,123,122,83)。
- e) (ペリオスチン) アレルギー性喘息およびアトピー性皮膚炎で発現亢進し、アレルギー慢性炎症のキーとなる細胞外マトリックス分子として注目されているペリオスチンが、乾癬患者でも発現が亢進していることを明らかにした(学外共同研究)(*27)。

[5] アレルギー関連遺伝子の転写調節に関する解析

- a) (IL-33 受容体遺伝子の転写調節) IL-33 はマスト細胞、好塩基球、ILC2 などに働き、アレルギー応答の促進や制御に関与することが注目されている。マスト細胞での IL-33 受容体(IL-1RL1/ST2)の遺伝子発現において、GATA-2 が転写活性化に、GATA1

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

が転写抑制にはたらくことを見いだした(*195,218,46)。

- b) (高親和性 IgE 受容体 $Fc\epsilon RI$ 遺伝子の転写調節) サブユニット α 鎖および β 鎖の血球特異的転写調節因子について、ヒトマスト細胞株 LAD2 を用いて確認し、PU.1、GATA1 が α 鎖の、GATA2 は α 鎖、 β 鎖双方の転写を活性化することにより、細胞表面の $Fc\epsilon RI$ の発現を調節していることを確認した(*121)。
- c) (抑制性サイトカイン $TGF-\beta$ による遺伝子発現制御) $TGF-\beta$ は、マウス骨髄由来培養マスト細胞の $Fc\epsilon RI$ および $c-kit$ の発現を抑制し IgE 架橋による細胞活性化を抑制する。 $TGF-\beta$ 刺激により誘導される転写因子 Ehf が $Fc\epsilon RI \alpha$ 鎖、 $Fc\epsilon RI \beta$ 鎖、 $c-Kit$ 、STAT5 遺伝子の転写を抑制することが、その機序であることを明らかにした(*62)。
- d) (転写因子 PU.1 による遺伝子発現制御) PU.1 はマスト細胞の分化も制御する転写因子であるが、樹状細胞において抗原提示機能に関与する MHC II や CD80、CD86 の発現を誘導し Th2 サイトカインの発現を抑制することを明らかにした(*79,216,252)。また CD11c の発現が JunD/Fra2 の AP-1 複合体により制御されることを見いだした(*184)。さらに PU.1 が破骨細胞においてマスターレギュレーター NFATc1 の発現を制御することを見いだした(*25)。
- e) (乳酸菌によるマスト細胞機能の抑制) 乳酸菌でマスト細胞を刺激すると転写因子 C/EBP α 発現が上昇し、マスト細胞機能が抑制されることを見いだした(*107.100)。

[6] アレルギー・自己免疫疾患関連遺伝子の SNP 解析

- a) (アトピー性皮膚炎の GWAS 解析) 本邦で行われた大規模な genome-wide-association study (GWAS) 解析には、当研究拠点(順天堂大学)で集積したアトピー性皮膚炎患者のデータも含まれ、先に述べた IL-33 の受容体 IL1RL1/ST2 も含めたいくつかの遺伝子にアトピー性皮膚炎との相関が見いだされた(学外共同研究)(*228)。IL-33 がアレルギー疾患の新たなターゲットと成りうることが判明した。
- b) ($Fc\epsilon RI \alpha$ 鎖の SNP とアレルギー) マスト細胞における $Fc\epsilon RI$ サブユニット α 鎖の SNP のうち、+5650A>G と +5714G>A について転写活性を調べたが、転写に影響する SNP でないことが判明した(*227)。また、アトピー性皮膚炎患者では $Fc\epsilon RI \alpha$ 鎖の SNP に加えて、TLR2-16934A >T で重症度と相関のあることを見いだしている(*275)。
- c) (自己免疫疾患の GWAS 解析) 自己免疫疾患関連遺伝子についても GWAS 解析チームへ参加し、感受性遺伝子座や関連遺伝子の同定を行った(膠原病内科・学外共同研究)(*232)。
- d) (IL12B および IL23R の SNP と乾癬) IL12B(IL-23 サブユニットの遺伝子)および IL23R の SNP と日本人の乾癬の関連を示した(*163)。

【Ⅲ】治療・予防へ向けたアプローチ

[7] 治療・予防への臨床応用の可能性と、それへ向けた研究基盤づくり

a) ダメージ関連分子等

(IL-33): ダメージ関連分子として生体が傷ついた時に放出される上皮由来サイトカイン

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

の寄与を、気道炎症、花粉症、アトピー性皮膚炎などの実験モデルで遺伝子欠損マウスを用いて検討した。その結果、特に IL-33 が気道炎症とそれに伴う IgE 産生、鼻炎、結膜炎の誘導に重要であることが明らかとなり、治療標的として有望であることが示唆された(*176,7,54) (および学外共同研究*191)。

(酸化ストレス): 酸化ストレスによる腸炎モデルにおいて、IL-11 分子が重要な役割を演じていることを明らかにした(*236,237)。抗酸化機能をもつポリフェノール的一种であるレスベラトールが、マウス食物アレルギーモデルにおいて樹状細胞の成熟や T 細胞機能を抑制してアレルギー反応を抑制する可能性を示した(学外共同研究 *233)。レスベラトールはヒト好塩基球のメディエーター放出も抑制した(学外共同研究 *28)。

(神経興奮): アトピー性皮膚炎自然発症マウス NC/Nga マウスに、神経の高まりを抑える作用が知られている漢方薬、抑肝散を投与することにより、引っ掻き行動が抑制され、病態が軽減することを明らかにした*247。

b) マスト細胞

腸管のマスト細胞の分化や機能に影響する新たな分子の解明により、アレルギー応答を制御できる可能性が示唆された。

(Notch シグナル): Notch シグナルは γ -secretase を介する。 γ -secretase 阻害剤を投与して Notch シグナルを阻害することにより、食物アレルギーモデルにおける下痢を抑制することができた(*64)。

(CD300f シグナル): デキストラン硫酸ナトリウム経口投与による実験的腸炎モデルにおいて、セラミドを含むリポソームを投与し、CD300f による抑制性シグナルを増強することにより、腸炎を改善することができた(中間報告以後の新規テーマ)(*16)。

(体内時計): 体内時計をリセットする薬剤の投与により、*in vitro* でのマスト細胞と好塩基球応答および *in vivo* (マウス)での即時型アレルギー反応(PCA 反応)およびアレルギー一性鼻炎モデルの応答を抑制する事ができた(学外共同研究)(*20)。

c) 転写因子およびエピジェネティクス

転写調節因子 PU.1 は抗原提示細胞の MHC class II, CD80, CD86 などの遺伝子発現を、ヒストンアセチル化なども介して、直接および間接的に活性化している。接触性皮膚炎モデルにおいて PU.1 siRNA の塗布によって病態が改善された(*252)。

d) 遺伝子治療

視神経炎モデルにおいて、CGRP または IL-10 の遺伝子を導入した樹状細胞を移入することにより改善がみられた(*211,212)。

e) アレルゲン免疫療法(次世代型アレルゲンワクチンなど)

(トランスジェニックライス): ダニアレルゲン Der p 1 の T 細胞エпитープを遺伝子組換技術で米に発現させ経口投与すると、抗原特異的な Th2 応答が抑制されることを *in vivo* のマウス喘息モデルで証明してきたが、さらに経口投与量を下げても同様の抑制が得られることを報告した(学外共同研究)(*209,289)。

(修飾アレルゲン): 酵素活性を消失したプロテアーゼアレルゲンは好塩基球刺激活性を消失しており、腹腔、経気道、経皮、皮下のいずれの投与ルートにおいても炎症や IgE

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

産生を誘導しないことから(*176,87,6,7)、新規なアレルゲンワクチンとして有望かも知れない。

(アレルゲン標準化):アレルゲンワクチンの標準化は治療(アレルゲン特異的免疫療法)および診断において重要である。日本アレルギー学会が主導したダニアレルゲン標準化のためのタスクフォースに参加し、主に *in vitro* 試験および標準化法妥当性の評価において主要な貢献を果たした(学外共同研究)(*30)。

f) 霊長類を用いたアレルギーモデル確立のための基礎的検討等

ヒトに近い実験動物コモンマーモセットを用いた試験の実用化に向けて、解析ツールの構築・評価を行っている。マーモセット骨髄の CC34+CD117+の細胞から、マスト細胞を *in vitro* あるいは NOD/SCID/IL-2R γ 欠損(NOG)マウス中で誘導することに成功した(学外共同研究)(*210,52,84)。IL-4、IFN γ に対する抗体の作成を行った。CD4、CD8の抗体が FACS に加えて免疫染色で使用可能であることを確認した。CD80、CD86の抗体が混合リンパ球反応を阻害することを確認した。また、ヒト細胞の移入実験(*106)やヒトにおける生体肝移植における制御性T細胞移入の試み(*2)は、将来のヒトにおけるアレルギー疾患の病態解析や治療の新しい手法開発につながると期待される。

<優れた成果が上がった点>

(1. 環境由来刺激とバリア免疫) ダニアレルゲンなどの酵素活性と気道における IL-33 産生、気道炎症および IgE 産生の関連を示した。今後プロテアーゼ抗原による IL-33 誘導にターゲットを絞った予防法や抗原特異的免疫療法の開発などに役立つ。プロテアーゼ活性に依存したバリアを経由した(自然に近い)感作ルートによるモデルは新規であり、特に経皮感作と経気道感作との機序の違いは興味深い。バリア障害と自然免疫の2つの視点から解析を進めた(*176,6,7,87)。TLR リガンドによるヒト・ケラチノサイトの TSLP 発現についても先駆的な成果をあげることができた(*221,129,279,261,151)。

(2. バリア関連分子) アトピー性皮膚炎や乾癬で発現上昇する生体防御/抗菌ペプチドによって、タイトジャンクション分子の発現が亢進しバリア機能が増強され(*101,124,126)、かゆみ抑制分子の発現が抑制される(*65)ことを明らかにした。これも疾患のイニシエーションや重症度との関連を考える上で重要な知見である。

(3. マスト細胞研究) バリア直下でアレルゲンに遭遇し活性化するマスト細胞について、分化および機能制御メカニズムを活性化シグナル(Notch)、抑制性シグナル(CD300f, TGF- β)、遺伝子転写制御、の各レベルで明らかにした。さらに、これらの経路が複数のアレルギー疾患モデルにおいて新しい治療・予防の標的となり得ることを示した(*16,20,62,64,252)。

(4. アレルギー原因遺伝子の探索) 理化学研究所と共同で行った大規模アレルギー患者の GWAS で、バリア組織の損傷により放出されるサイトカイン IL-33 の受容体遺伝子がアトピー性皮膚炎の候補遺伝子であることが明らかとなった点は、当方の研究成果と合わせても興味深く、今後アレルギー疾患治療のターゲットなる可能性がある(学外共同研究)(*228)。

(5. まとめ) 各研究課題から得られた知見は互いに補完し、共通する機序や類似の現象も関与しており、様々な組み合わせで相互支援および情報交換を行うことによりプロジェクトが発展した。論文報告だけでなく、“バリア”をめぐる各研究者の視野拡大と研究手法の共有という成果も大きく、今後に生かされるものと考えている。“バリア”に着目したアレルギー疾患の病態解明と治療のための研究拠点としての目的を十分に達成できたと考えている。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

＜課題となった点＞

特に大きな問題点はないが、途中で大きな技術的ハードルに直面したり、研究者の移動が生じた研究テーマに関しては、研究資源を他のプロジェクトに有効にシフトするとともに、新しい参加者による新規テーマを加えた。これにより、プロジェクト全体としては相当以上の成果を得ることができたと考えている。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

本プロジェクトの研究成果は査読のある国際雑誌への投稿をもって適正にその評価を受けている。この間の業績から、研究費等の資源配分は費用対効果の観点からも適正になされたとして自己評価している。本プロジェクトに参加する研究者には、毎年の研究評価会議への出席、成果発表ならびに成果報告書の提出を義務づけている。当会議では、当プロジェクトに係る学内の研究者だけでなく学外の共同研究者も参加し、個々のプロジェクトの厳正な評価を行い、プロダクティブな討議をしている。ポスドク、リサーチアシスタントに関しては、半年に1度の研究進捗状況の報告を義務づけ、成果の満たないものに関してはプロジェクトの中止、変更を勧告している。

＜外部(第三者)評価の実施結果と対応状況＞

査読のある国際雑誌への個々の研究成果の投稿をもって第三者からその評価を受けるとともに、中間報告書の提出により事業全体の評価を受けている。論文の質と量からは、個々の成果は高い評価を得たと判断される。中間報告書の審査員からは「多人数の成果の集合体としては評価に値する」との評価を得たが、同時に「研究成果の集約に留意すべき」との指摘を受けた。これに対応し、研究の多様性を保持しつつも互いの連携を密接に強めることによって研究テーマの集約に努めた。環境因子側からと生体側(遺伝子、細胞機能)からの2つのアプローチで共通して重要性が明らかとなったターゲットについて、より集中して解析を行った。例えば IL-33, TSLP などの Th2 誘導性サイトカインまたはその受容体について、環境アレルゲン感作モデル(マウス)、in vitro 解析、ヒト GWAS、遺伝子発現制御機構、のいずれにおいてもインパクトのある新規知見を得ることができ、アレルギー疾患におけるそれらの役割を複数方向から明らかにすることができた。これにより、下半期には上半期以上にインパクトの高い成果をあげることができた。

＜研究期間終了後の展望＞

本プロジェクト終了後においても当センターにおける研究は継続される。これまでの研究成果を整理し、最新の研究的視座・研究手法を取り入れ、再編成された形でのプロジェクトをすすめる計画である。今後の方針の概略は下記の通りである

1. **アレルギー応答のメカニズム解明**: 臨床上重要な現象を取り入れた修飾や、遺伝的なバリア欠損の影響についても検討を行う。各臓器(皮膚、下気道、上気道、消化器)に特異的な抗原や感作メカニズムを明らかにする。
2. **アレルギー疾患における脂質の新規な役割**: 新しい形での炎症性脂質の関与やセラミドの新規な機能などが新たに示唆されており、今後、研究体制を整えたい。
3. **アレルギー疾患におけるアレルゲンの生化学的活性の役割**: 当センターのユニークな研究テーマであり、メカニズム解析を中心にさらに深める。
4. **生体防御/抗菌ペプチド**: 抗菌作用だけではなくバリア維持、炎症惹起、神経伸長制御などの作用をもち、恒常性の維持にとどまらず、種々の疾患に関与している可能性がある

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

- る。様々な生体防御ペプチドについて、新機能の探索と未知の作用機序の探索を行う。
- アレルギー関連細胞の機能制御および遺伝子発現解析：組織ごとに異なる分化を遂げるマスト細胞の役割を中心として解析し、炎症性疾患疾患の制御の可能性を検討する。IL-33 受容体等の発現調節を中心に転写調節因子の解析を中心に行う。
 - 免疫寛容および細胞活性化抑制機構：機序解明と、それによるアレルギー反応抑制の可能性を抗原の修飾や投与ルートを検討を含めて検討する。

<研究成果の副次的効果>

●当研究拠点(順天堂大学)で集積したアトピー性皮膚炎患者のデータを含む、理化学研究所が行った大規模な genome-wide-association study では、アトピー性皮膚炎発症に関連する8つのゲノム領域が明らかにされている(*228)。その中には我々も解析を進めている IL-33 の受容体に加えて、皮膚のバリア機能に働く遺伝子、気管支喘息に共通の遺伝子なども含まれ、今後、アトピー性皮膚炎だけでなく、アレルギー疾患をバリア機能異常の面から病態解明する上で非常に有用である。これに関し、下記の特許が出願・公開されている。

「一塩基多型に基づくアトピー性皮膚炎の検査法」。出願人：独立行政法人理化学研究所，学校法人岩手医科大学，学校法人日本医科大学，学校法人順天堂，一般社団法人徳洲会。発明者：玉利真由美他。特許公開：特開 2011-195521，出願：平成 24 年 8 月 30 日，公開：平成 26 年 3 月 17 日

●他の特許の申請状況：本報告書概要に記載した研究成果に関連して、研究期間内に下記の特許出願が行われた(*101,124,126,65)。

- 「皮膚外用剤、皮膚角化促進剤、タイトジャンクション強化剤、皮膚バリア機能強化剤、トランスグルタミナーゼ遺伝子発現促進剤、ロリクリン遺伝子発現促進剤、フィラグリン遺伝子発現促進剤、インボルクリン遺伝子発現促進剤、ケラチン遺伝子発現促進剤、クローディン遺伝子発現促進剤、オクルディン遺伝子発現促進剤」。出願人：御木本製薬株式会社，学校法人順天堂。発明者：ニヨンサバ・フランソワ，服部文弘，小川秀興，池田志孝，岡本暉公彦。出願番号：特願 2014-192285（出願日：2014年9月22日）
- 「抗菌ペプチドによるセマフォリン3Aの発現調節法」。出願人：東レ株式会社。発明者：梅原芳恵，蒲田弥生，富永光俊，フランソワ・ニヨンサバ，高森健二。出願番号：特願 2014-177778(出願日：平成26年9月)
- 「アレルギー性鼻炎の判定法」。出願人：学校法人順天堂。発明者：三輪正人。特許公開：特開 2014-76009，出願：平成 24 年 10 月 11 日，公開：平成 26 年 5 月 1 日

●日本アレルギー学会が主導するタスクフォースに参加し、我が国におけるダニアレルゲン標準化作業に協力した(*30,67)。このタスクフォースが策定した方法に基づいて、我が国のアレルギー免疫療法で用いられるダニアレルゲンエキスの力価表示が行われる。実際の臨床・診断現場へ波及する重要な貢献である。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|------------------------|--------------------|---------------------|
| (1) <u>バリア</u> | (2) <u>環境由来刺激</u> | (3) <u>上皮・表皮細胞</u> |
| (4) <u>マスト細胞</u> | (5) <u>IgE 受容体</u> | (6) <u>生体防御ペプチド</u> |
| (7) <u>プロテアーゼアレルゲン</u> | (8) <u>動物モデル</u> | |

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

- 13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)
 上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
1		Starkey MR, Nguyen DH, Brown AC, Essifie AT, Kim RY, <u>Yagita H</u> , Horvat JC, Hansbro PM.	PD-L1 promotes early-life Chlamydia respiratory infection-induced severe allergic airway disease.	Am J Respir Cell Mol Biol			in press	有
2	*	Todo S, Yamashita K, Goto R, Zaitzu M, Nagatsu A, Oura T, Watanabe M, Aoyagi T, Suzuki T, Shimamura T, Kamiyama T, Sato N, Sugita J, Hatanaka K, Bashuda H, Habu S, Demetris AJ, Okumura K.	<u>A Pilot Study of Operational Tolerance with a Regulatory T Cell-Based Cell Therapy in Living Donor Liver Transplantation.</u>	Hepatology			in press	有
3		Okuno H, Satoh M, Takeuchi E, Eshima K, Terashima M, Komotori J, Habu S, Tamauchi H, Iwabuchi K.	Inhibitory function of NKT cells during early induction phase of nickel allergy.	Immunobiology			in press	有
4	*	<u>Kamijo S</u> , Nunomura S, Ra C, Kanaguchi Y, Suzuki Y, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , <u>Takai T</u> .	<u>Innate basophil IL-4 responses against allergens, endotoxin, and cytokines require the Fc receptor gamma-chain.</u>	J Allergy Clin Immunol			in press	有
5	*	Kiatsurayanon C, <u>Niyonsaba F</u> , Chieosilapatham P, Okumura K, <u>Ikeda S</u> , Ogawa H.	<u>Angiogenic peptide (AG)-30/5C activates human keratinocytes to produce cytokines/chemokines and to migrate and proliferate via MrgX receptors.</u>	J Dermatol Sci			in press	有
6	*	<u>Kamijo S</u> , Suzuki M, Hara M, Shimura S, Ochi H, Maruyama N, <u>Matsuda A</u> , <u>Saito H</u> , Nakae S, Suto H, Ichikawa S, Ikeda S, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , <u>Takai T</u> .	<u>Subcutaneous Allergic Sensitization to Protease Allergen Is Dependent on Mast Cells but Not IL-33: Distinct Mechanisms between Subcutaneous and Intranasal Routes.</u>	J Immunol			in press	有
7	*	Shimura S, Takai T, Iida H, Maruyama N, Ochi H, <u>Kamijo S</u> , Nishioka I, Hara M, <u>Matsuda A</u> , <u>Saito H</u> , <u>Nakae S</u> , Ogawa H, <u>Okumura K</u> , <u>Ikeda S</u> .	<u>Epicutaneous Allergic Sensitization by Cooperation between Allergen Protease Activity and Mechanical Skin Barrier Damage in Mice.</u>	J Invest Dermatol			in press	有
8		Aoki R, Kawamura T, Goshima F, Ogawa Y, <u>Nakae S</u> , Moriishi K, <u>Nakao A</u> , Shimada S.	The alarmin IL-33 derived from HSV-2-infected keratinocytes triggers mast cell-mediated antiviral innate immunity.	J Invest Dermatol			in press	有
9		Hanihara M, Kawataki T, Oh-oka K, Mitsuka K, <u>Nakao A</u> , Kinouchi H.	Synergistic anti-tumor effect with indoleamine 2,3-dioxygenase inhibition and temozolomide in a murine glioma model.	J Neurosurg			in press	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
10		Haw TJ, Starkey MR, Nair PM, Pavlidis S, Liu G, Nguyen DH, Hsu AC, Hanish I, Kim RY, Collison AM, Inman MD, Wark PA, Foster PS, Knight DA, Mattes J, <u>Yagita H</u> , Adcock IM, Horvat JC, Hansbro PM.	A pathogenic role for tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand in chronic obstructive pulmonary disease.	Mucosal Immunol			in press	有
11		Yamazaki S, Ohtsuka Y, Yokokura T, Yokota R, Honjo A, Inage E, Baba Y, Mori M, Suzuki R, Iwata T, Shimizu T.	Eosinophilic gastroenteritis in a patient with Bruton's tyrosine kinase deficiency.	Pediatr Int			in press	有
12		Matsuoka S, Ishii Y, <u>Nakao A</u> , Abe M, Ohtsuji N, Momose S, Jin H, Arase H, Sugimoto K, Nakauchi Y, Masutani H, Maeda M, <u>Yagita H</u> , Komatsu N, Hino O.	Establishment of a therapeutic anti-pan HLA-class II monoclonal antibody that directly induces lymphoma cell death via large pore formation.	PLoS One			in press	有
13	*	Suzuki M, Hara M, Ichikawa S, <u>Kamijo S</u> , Nakazawa T, Hatanaka H, Akiyama K, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , Takai T.	<u>Presensitization to Ascaris antigens promotes induction of mite-specific IgE upon mite antigen inhalation in mice.</u>	Allergol Int	65	44-51	2016	有
14		Shibui A, Takamori A, Tolba EMT, Nambu A, Shimura E, Yamaguchi S, Sanjoba C, <u>Suto H</u> , Sudo K, <u>Okumura K</u> , Sugano S, Morita H, <u>Saito H</u> , Matsumoto K & <u>Nakae S</u> .	IL-25, IL-33 and TSLP receptor are not critical for development of experimental murine malaria.	Biochem Biophys Rep	5	191-195	2016	有
15		Akimoto M, Hayashi JI, <u>Nakae S</u> , <u>Saito H</u> , Takenaga K.	Interleukin-33 enhances programmed oncosis of ST2L-positive low-metastatic cells in the tumour microenvironment of lung cancer.	Cell Death Dis	7	e2057	2016	有
16	*	Matsukawa T, <u>Izawa K</u> , Isobe M, Takahashi M, Maehara A, Yamanishi Y, Kaitani A, <u>Okumura K</u> , Teshima T, Kitamura T, <u>Kitaura J</u> .	<u>Ceramide-CD300f binding suppresses experimental colitis by inhibiting ATP-mediated mast cell activation.</u>	Gut	65	777-787	2016	有
17		Yamanaka T, Tamauchi H, Suzuki Y, Suzuki H, Horikoshi S, Terashima M, Iwabuchi K, <u>Habu S</u> , <u>Okumura K</u> , Tomino Y.	Release from Th1-type immune tolerance in spleen and enhanced production of IL-5 in Peyer's patch by cholera toxin B induce the glomerular deposition of IgA.	Immunobiology	221	577-585	2016	有
18	*	Kanazawa K, <u>Okumura K</u> , Ogawa H, <u>Niyonsaba F</u> .	<u>An antimicrobial peptide with angiogenic properties, AG-30/5C, activates human mast cells through the MAPK and NF-kB pathways.</u>	Immunol Res	64	594-603	2016	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
19		Kudo F, Ikutani M, Seki Y, Otsubo T, Kawamura YI, Dohi T, Oshima K, Hattori M, <u>Nakae S</u> , Takatsu K, Takaki S.	Interferon- γ constrains cytokine production of group 2 innate lymphoid cells.	Immunology	147	21-29	2016	有
20	*	Nakamura Y, <u>Nakano N</u> , Ishimaru K, Ando N, Katoh R, Suzuki-Inoue K, Koyanagi S, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , Shibata S, <u>Nakao A</u> .	<u>Inhibition of IgE-mediated allergic reaction by pharmacologically targeting the circadian clock.</u>	J Allergy Clin Immunol	137	1226-1235	2016	有
21		Makino S, Sato A, Goto A, Nakamura M, Ogawa M, Chiba Y, Hemmi J, Kano H, Takeda K, <u>Okumura K</u> , Asami Y.	Enhanced natural killer cell activation by exopolysaccharides derived from yogurt fermented with <i>Lactobacillus delbrueckii</i> ssp. <i>bulgaricus</i> OLL1073R-1.	J Dairy Sci	99	915-923	2016	有
22		Kamijo M, Wada A, Mineki R, Sakanishi T, <u>Ikeda S</u> .	Prostaglandin E receptor 4 inhibition restores UVB-induced downregulation of ATP2A2/SERCA2 in cultured normal human keratinocytes.	J Dermatol Sci	81	69-71	2016	有
23		Furusawa JI, Mizoguchi I, Chiba Y, Hisada M, Kobayashi F, Yoshida H, <u>Nakae S</u> , Tsuchida A, Matsumoto T, Ema H, Mizuguchi J, Yoshimoto T.	Promotion of Expansion and Differentiation of Hematopoietic Stem Cells by Interleukin-27 into Myeloid Progenitors to Control Infection in Emergency Myelopoiesis.	PLoS Pathog	12	e1005507	2016	有
24		Oh JE, Kim BC, Chang DH, Kwon M, Lee SY, Kang D, Kim JY, Hwang I, Yu JW, <u>Nakae S</u> , Lee HK.	Dysbiosis-induced IL-33 contributes to impaired antiviral immunity in the genital mucosa.	Proc Natl Acad Sci USA	113	762-771	2016	有
25	*	Ishiyama K, Yashiro T, <u>Nakano N</u> , Kasakura K, Miura R, Hara M, Kawai F, <u>Maeda K</u> , Tamura N, <u>Okumura K</u> , Ogawa H, <u>Takasaki Y</u> , <u>Nishiyama C</u> .	<u>Involvement of PU.1 in NFATc1 promoter function in osteoclast development.</u>	Allergol Int	64	241-247	2015	有
26		<u>Takai T</u> , Izuhara K	Allergens in modern society: Updated catalogs and future prospects. [Editorial]	Allergol Int	64	293-294	2015	無
27	*	Arima K, Ohta S, Takagi A, Shiraishi H, Masuoka M, Ontsuka K, <u>Suto H</u> , Suzuki S, Yamamoto K, Ogawa M, Simmons O, Yamaguchi Y, Toda S, Aihara M, Conway SJ, <u>Ikeda S</u> , Izuhara K.	<u>Periostin contributes to epidermal hyperplasia in psoriasis common to atopic dermatitis.</u>	Allergol Int	64	41-48	2015	有
28		Tanaka Y, <u>Yamaguchi M</u> , Suzukawa M, Arai H, Nagase H, Ohta K.	<u>Modulation of human basophil activation by resveratrol.</u>	Allergol Int	64	S80-82	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
29		Nagase H, Takano H, Inoue K, <u>Yamaguchi M</u> , Ohta K.	Diesel exhaust particles suppress pathogen-associated molecular pattern-induced cytokine generation from bronchial epithelial cells.	Allergol Int	64	S74-76	2015	有
30	*	<u>Takai T</u> , Okamoto Y, Okubo K, Nagata M, Sakaguchi M, Fukutomi Y, Saito A, Yasueda H, Masuyama K.	<u>Japanese Society of Allergology task force report on standardization of house dust mite allergen vaccines—secondary publication.</u>	Allergol Int	64	181-186	2015	有
31	*	Ando N, Nakamura Y, Ishimaru K, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , Shimada S, <u>Nakao A</u> .	<u>Allergen-specific basophil reactivity exhibits daily variations in seasonal allergic rhinitis.</u>	Allergy	70	319-322	2015	有
32	*	<u>Nakao A</u> , Nakamura Y, Shibata S.	<u>The Circadian Clock Functions As A Potent Regulator of Allergic Reaction. [Review]</u>	Allergy	70	467-473	2015	有
33		Suzukawa M, Koketsu R, Baba S, Igarashi S, Nagase H, <u>Yamaguchi M</u> , Matsutani N, Kawamura M, Shoji S, Hebisawa A, Ohta K.	Leptin enhances ICAM-1 expression, induces migration and cytokine synthesis, and prolongs survival of human airway epithelial cells.	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol	309	L801-811	2015	有
34		Koga JI, Nakano T, Dahlman JE, Figueiredo JL, Zhang H, Decano J, Khan OF, Niida T, Iwata H, Aster JC, <u>Yagita H</u> .	Anderson DG, Ozaki CK, Aikawa M: Macrophage Notch ligand Delta-like 4 promotes vein graft lesion development: Implications for the treatment of vein graft failure.	Arterioscler Thromb Vasc Biol	35	2343-2353	2015	有
35	*	Nishikado H, Fujimura T, Taka H, Mineki R, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , <u>Takai T</u> .	<u>Cysteine protease antigens cleave CD123, the a subunit of murine IL-3 receptor, on basophils and suppress IL-3-mediated basophil expansion.</u>	Biochem Biophys Res Commun	460	261-266	2015	有
36		Reichenbach DK, Schwarze V, Matta BM, Tkachev V, Lieberknecht E, Liu Q, Koehn BH, Pfeifer D, Taylor PA, Prinz G, Dierbach H, Stickel N, Beck Y, Warncke M, Junt T, Schmitt-Graeff A, <u>Nakae S</u> , Follo M, Wertheimer T, Schwab L, Devlin J, Watkins SC, Duyster J, Ferrara JL, Turnquist HR, Zeiser R, Blazar BR.	The IL-33/ST2 axis augments effector T-cell responses during acute GVHD.	Blood	125	3183-92	2015	有
37		Koyama K, Ohba T, Haro H, <u>Nakao A</u> .	Positive Association of Serum Thymic Stromal Lymphopoietin with Anti-Citrullinated Peptide Antibody in Rheumatoid Arthritis.	Clin Exp Immunol	181	239-243	2015	有
38		<u>Nakao A</u> .	AhR We Ready for a New Cytokine to Fight Colitis?	Dig Dis Sci	60	1876-1877	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
39	*	Dhainaut M, Coquerelle C, Uzureau S, Denoeud J, Acolty V, Oldenhove G, Galuppo A, Sparwasser T, Tielemans K, Pays E, <u>Yagita H</u> , Borst J, Moser M.	<u>Thymus-derived regulatory T cells restrain pro-inflammatory Th1 responses by downregulating CD70 on dendritic cells.</u>	EMBO J	34	1336-1348	2015	有
40		Hirano K, Negishi N, Yazawa M, <u>Yagita H</u> , <u>Habu S</u> , Hozumi K.	Delta-like 4-mediated Notch signaling is required for early T-cell development in a three-dimensional thymic structure.	Eur J Immunol	45	2252-2262	2015	有
41		McAlees JW, Lajoie S, Dienger K, Sproles AA, Richgels PK, Yang Y, Khodoun M, Azuma M, <u>Yagita H</u> , Fulkerson PC, Wils-Karp M, Lewkowich IP.	Differential control of CD4+ T-cell subsets by the PD-1/PD-L1 axis in a mouse model of allergic asthma.	Eur J Immunol	45	1019-1029	2015	有
42		Takeda K, <u>Okumura K</u> .	Interferon- γ -Mediated Natural Killer Cell Activation by an Aqueous Panax ginseng Extract.	Evid Based Complement Alternat Med	2015	603198	2015	有
43	*	Katsura Y, Harada N, Harada S, Ishimori A, Makino F, Ito J, Kamachi F, <u>Okumura K</u> , Akiba H, Atsuta R, <u>Takahashi K</u> .	<u>Characteristics of alveolar macrophages from murine models of OVA-induced allergic airway inflammation and LPS-induced acute airway inflammation.</u>	Exp Lung Res	7	1-13	2015	有
44		Munakata S, Tashiro Y, Nishida C, Sato A, Komiyama H, Shimazu H, Dhahri D, Salama Y, Eiamboonsert S, Takeda K, <u>Yagita H</u> , Tsuda Y, Okada Y, Nakauchi H, Sakamoto K, Heissig B, Hattori K.	Inhibition of plasmin protects against colitis in mice by suppressing matrix metalloproteinase 9-mediated cytokine release from myeloid cells.	Gastroenterology	148	565-578	2015	有
45		Nakano Y, Negishi N, Gocho S, Mine T, Sakurai Y, Yazawa M, Abe K, <u>Yagita H</u> , <u>Habu S</u> , Kageyama R, Kawaguchi Y, Hozumi K.	Disappearance of centroacinar cells in the Notch ligand-deficient pancreas.	Genes Cells	20	500-511	2015	有
46	*	Ito T, Egusa C, Maeda T, Numata T, Nakano N, Nishiyama C, Tsuboi R.	<u>IL-33 promotes MHC class II expression in murine mast cells.</u>	Immun Inflamm Dis	3	196-208	2015	有
47		Endo Y, Hirahara K, Iinuma T, Shinoda K, Tumes DJ, Asou HK, Matsugae N, Obata-Ninomiya K, Yamamoto H, Motohashi S, Oboki K, <u>Nakae S</u> , <u>Saito H</u> , Okamoto Y, Nakayama T.	The Interleukin-33-p38 Kinase Axis Confers Memory T Helper 2 Cell Pathogenicity in the Airway.	Immunity	42	294-308	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
48	*	Morita H, Arae K, Unno H, Miyachi K, Toyama S, Nambu A, Oboki K, Ohno T, Motomura K, Matsuda A, Yamaguchi S, Narushima S, Kajiwara N, Iikura M, Suto H, McKenzie A, Takahashi T, Karasuyama H, Okumura K, Azuma M, Kazuyo Moro K, Akdis CA, Galli SJ, Koyasu S, Kubo M, Sudo K, Saito H, Matsumoto K, Nakae S.	An Interleukin-33-Mast Cell-Interleukin-2 Axis Suppresses Papain-Induced Allergic Inflammation by Promoting Regulatory T Cell Numbers.	Immunity	43	175-186	2015	有
49	*	Tsutsui-Takeuchi M, Ushio H, Fukuda M, Yamada T, Niyonsaba F, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S.	Roles of retinoic acid-inducible gene-1-like receptors (RLRs), Toll-like receptor (TLR) 3 and 2'-5' oligoadenylate synthetase as viral recognition receptors on human mast cells in response to viral infection.	Immunol Res	61	240-249	2015	有
50		Waddell A, Vallance JE, Moore PD, Hummel AT, Wu D, Shanmukhappa SK, Fei L, Washington MK, Minar P, Coburn LA, Nakae S, Wilson KT, Denson LA, Hogan SP, Rosen MJ.	IL-33 Signaling Protects from Murine Oxazolone Colitis by Supporting Intestinal Epithelial Function.	Inflamm Bowel Dis	21	2737-2746	2015	有
51		Yabe R, Shimizu K, Shimizu S, Azechi S, Choi BI, Sudo K, Kubo S, Nakae S, Ishigame H, Kakuta S, Iwakura Y.	CCR8 regulates contact hypersensitivity by restricting cutaneous dendritic cell migration to the draining lymph nodes.	Int Immunol	27	169-181	2015	有
52		Shimada S, Numorura S, Mori S, Suemizu H, Itoh T, Takabayashi S, Okada Y, Yahata T, Shiina T, Katoh H, Suzuki R, Tani K, Ando K, Yagita H, Habu S, Sasaki E, Kametani Y.	Common marmoset CD117-positive hematopoietic cells possess multipotency.	Int Immunol	27	567-577	2015	有
53		Matsuda A, Asada Y, Takakuwa K, Sugita J, Murakami A, Ebihara N.	DNA methylation analysis of human trabecular meshwork cells during dexamethasone stimulation.	Invest Ophthalmol Vis Sci	56	3801-3809	2015	有
54	*	Asada Y, Nakae S, Ishida W, Hori K, Sugita J, Sudo K, Fukuda K, Fukushima A, Suto H, Murakami A, Saito H, Ebihara N, Matsuda A.	The roles of epithelial cell-derived type 2 initiating cytokines in experimental allergic conjunctivitis.	Invest Ophthalmol Vis Sci	56	5194-5202	2015	有
55		Harada S, Harada N, Itoigawa Y, Katsura Y, Kasuga F, Ishimori A, Makino F, Ito J, Atsuta R, and Takahashi K.	Evaluation of switching low-dose inhaled corticosteroid to pranlukast for step-down therapy in well-controlled patients with mild persistent asthma.	J Asthma	53	207-212	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
56		Yoshida A, Tomita T, Fujimura T, Nishiyama C, Kuzuyama T, Nishiyama M.	Structure insight into amino group-carrier protein-mediated lysine biosynthesis: crystal structure of the LysZ-LysW complex from <i>Thermus thermophilus</i> .	J Biol Chem	290	435-447	2015	有
57		Mager LF, Riether C, Schürch CM, Banz Y, Wasmer MH, Stuber R, Theocharides AP, Li X, Xia Y, Saito H, Nakae S, Baerlocher GM, Manz MG, McCoy KD, Macpherson AJ, Ochsenbein AF, Beutler B, Krebs P.	IL-33 signaling contributes to the pathogenesis of myeloproliferative neoplasms.	J Clin Invest	125	2579-2591	2015	有
58		Li H, Fu YX, Wu Q, Zhou Y, Crossman DK, Li J, Luo B, Morel LM, Kabarowski JH, Yagita H, Ware CF, Hsu HC, Mounts JD.	Interferon-induced mechanosensing defects impede apoptotic cell clearance in lupus.	J Clin Invest	125	2877-2890	2015	有
59		Furusawa K, Hasegawa T, Hirasawa Y, Ikeda S.	Mucous membrane pemphigoid with esophageal stricture treated with balloon dilatation.	J Dermatol	42	325-326	2015	有
60	*	Smithrithee R, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H.	Human β -defensin-3 increases the expression of interleukin-37 through CCR6 in human keratinocytes.	J Dermatol Sci	77	46-53	2015	有
61		Takakuwa K, Hamanaka T, Mori K, Chin S, Shinmei Y, Funaki T, Ebihara N, Ono K, Murakami A, Matsuda A.	Atopic Glaucoma: Clinical and Pathophysiological Analysis.	J Glaucoma	24	662-668	2015	有
62	*	Yamazaki S, Nakano N, Honjo A, Hara M, Maeda K, Nishiyama C, Kitaura J, Ohtsuka Y, Okumura K, Ogawa H, Shimizu T.	The transcription factor Ehf is involved in TGF- β -induced suppression of Fc ϵ RI and c-Kit expression and Fc ϵ RI-mediated activation in mast cells.	J Immunol	195	3427-3435	2015	有
63		Wu J, Carlock C, Zhou C, Nakae S, Hicks J, Adams HP, Lou Y.	IL-33 Is Required for Disposal of Unnecessary Cells during Ovarian Atresia through Regulation of Autophagy and Macrophage Migration.	J Immunol	194	2140-2147	2015	有
64	*	Nakano N, Nishiyama C, Yagita H, Hara M, Motomura Y, Kubo M, Okumura K, Ogawa H.	Notch signaling enhances Fc ϵ RI-mediated cytokine production by mast cells through direct and indirect mechanisms.	J Immunol	194	4535-4544	2015	有
65	*	Umehara Y, Kamata Y, Tominaga M, Niyonsaba F, Ogawa H, Takamori K.	Cathelicidin LL-37 induces Semaphorin 3A expression in human epidermal keratinocytes: implications for possible application to pruritus.	J Invest Dermatol	135	2887-2890	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
66	*	Ando N, Nakamura Y, Aoki R, Ishimaru K, Ogawa H, Okumura K, Shibata S, Shimada S, Nakao A.	Circadian Gene Clock Regulates Psoriasis-like Skin Inflammation in Mice.	J Invest Dermatol	135	3001-3008	2015	有
67	*	Takai T.	Immunotherapy to treat allergies: Recent advances and future prospects. [Review]	Juntendo Med J	61	597-600	2015	有
68		Hasegawa T, Hirasawa Y, Nagasaka A, Miura N, Ikeda S.	Fourth Juntendo University-Hitachi Cooperative Research Workshop Clinical application of finger vein authentication technology for analysis veins in patients with various diseases.	Juntendo Med J	60	526	2015	有
69		Sato A, Nishida C, Sato-Kusubata K, Ishihara M, Tashiro Y, Gritli I, Shimazu H, Munakata S, Yagita H, Okumura K, Tsuda Y, Okada Y, Tojo A, Nakauchi H, Takahashi S, Heissig B, Hattori K.	Inhibition of plasmin attenuates murine graft-versus-host disease mortality by suppressing the matrix metalloproteinase-9-dependent inflammatory cytokine storm and effector cell trafficking.	Leukemia	29	145-156	2015	有
70		Yoon JH, Sudo K, Kuroda M, Kato M, Lee IK, Han JS, Nakae S, Imamura T, Kim J, Ju JH, Kim DK, Matsuzaki K, Weinstein M, Matsumoto I, Sumida T, Mamura M.	Phosphorylation status determines the opposing functions of Smad2/Smad3 as STAT3 cofactors in TH17 differentiation.	Nat Commun	6	7600	2015	有
71		Vasanthakumar A, Moro K, Xin A, Liao Y, Gloury R, Kawamoto S, Fagarasan S, Mielke LA, Afshar-Sterle S, Masters SL, Nakae S, Saito H, Wentworth JM, Li P, Liao W, Leonard WJ, Smyth GK, Shi W, Nutt SL, Koyasu S, Kallies A.	The transcriptional regulators IRF4, BATF and IL-33 orchestrate development and maintenance of adipose tissue-resident regulatory T cells.	Nat Immunol	16	276-285	2015	有
72		Maekawa Y, Ishifune C, Tsukumo S, Hozumi K, Yagita H, Yasutomo K.	Notch controls the survival of memory CD4+ T cells by regulating glucose uptake.	Nat Med	21	55-61	2015	有
73		Osada Y, Yamada S, Nakae S, Sudo K, Kanazawa T.	Reciprocal effects of Schistosoma mansoni infection on spontaneous autoimmune arthritis in IL-1 receptor antagonist-deficient mice.	Parasitol Int	64	13-17	2015	有
74		Obayashi N, Suzuki M, Yokokura T, Naritaka N, Nakano S, Ohtsuka Y, Sugo H, Kawasaki S, Shimizu T.	Management of tacrolimus-associated food allergy after liver transplantation.	Pediatr Int	57	1205-1207	2015	有
75		Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, Iida H, Ikeda S.	Keratinocyte progenitor cells reside in human subcutaneous tissue.	PLoS One	10	e0118402	2015	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
76		Pichler U, Hauser M, Wolf M, Bernardi ML, Gadermaier G, Weiss R, Ebner C, Yokoi H, Takai T, Didierlaurent A, Rafaiani C, Briza P, Mari A, Behrendt H, Wallner M, Ferreira F.	Pectate lyase pollen allergens: Sensitization profiles and cross-reactivity pattern.	PLoS One	10	e0120038	2015	有
77		Iikura M, Hojo M, Koketsu R, Watanabe S, Sato A, Chino H, Ro S, Masaki H, Hirashima J, Ishii S, Naka G, Takasaki J, Izumi S, Kobayashi N, Yamaguchi S, Nakae S, Sugiyama H.	The importance of bacterial and viral infections associated with adult asthma exacerbations in clinical practice.	PLoS One	10	e0123584	2015	有
78	*	Morita H, Arae K, Unno H, Toyama S, Motomura K, Matsuda A, Suto H, Okumura K, Sudo K, Takahashi T, Saito H, Matsumoto K, Nakae S.	<u>IL-25 and IL-33 Contribute to Development of Eosinophilic Airway Inflammation in Epicutaneously Antigen-Sensitized Mice.</u>	PLoS One	10	e0134226	2015	有
79	*	Yashiro T, Kubo M, Ogawa H, Okumura K, Nishiyama C.	<u>PU.1 suppresses Th2 cytokine expression via silencing GATA3 transcription in dendritic cells.</u>	PLoS One	10	e0137699	2015	有
80		Nishio J, Baba M, Atarashi K, Tanoue T, Negishi H, Yanai H, Habu S, Hori S, Honda K, Taniguchi T.	Requirement of full TCR repertoire for regulatory T cells to maintain intestinal homeostasis.	Proc Natl Acad Sci USA	112	12770-12775	2015	有
81		Itoigawa Y, Harada N, Harada S, Katsura Y, Makino F, Ito J, Nurwidya F, Kato M, Takahashi F, Atsuta R, Takahashi K.	TWEAK enhances TGF-beta-induced epithelial-mesenchymal transition in human bronchial epithelial cells.	Respir Res	16	48	2015	有
82		Seko Y, Fujimura T, Yao T, Taka H, Mineki R, Okumura K, Murayama K.	Secreted tyrosine sulfated-eIF5A mediates oxidative stress-induced apoptosis.	Sci Rep	5	13737	2015	有
83	*	Tanabe K, Kitagawa E, Wada M, Haraguchi A, Orihara K, Tahara Y, Nakao A, Shibata S.	<u>Antigen exposure in the late light period induces severe symptoms of food allergy in an OVA-allergic mouse model.</u>	Sci Rep	5	14424	2015	有
84		Iwai H, Shimada H, Nishimura S, Kobayashi Y, Itakura G, Hori K, Hikishima K, Ebise H, Negishi N, Shibata S, Habu S, Toyama Y, Nakamura M, Okano H.	Allogeneic Neural Stem/Progenitor Cells Derived From Embryonic Stem Cells Promote Functional Recovery After Transplantation Into Injured Spinal Cord of Nonhuman Primates.	Stem Cells Transl Med	4	708-719	2015	有
85		Schendzielorz G, Dippong M, Grünberger A, Kohlheyer D, Yoshida A, Binder S, Nishiyama C, Nishiyama M, Bott M, Eggeling L.	Taking control over control: Use of product sensing in single cells to remove flux control at key enzymes in biosynthesis pathways.	ACS Synth Biol	3	21-29	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
86		Fukushima A, <u>Ebihara N.</u>	Efficacy of Olopatadine versus Epinastine for Treating Allergic Conjunctivitis Caused by Japanese Cedar Pollen: A Double-Blind Randomized Controlled Trial.	Adv Ther	31	1045-1058	2014	有
87	*	Iida H, <u>Takai T</u> , Hirasawa Y, <u>Kamijo S</u> , Shimura S, Ochi H, Nishioka I, Maruyama N, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , <u>Ikeda S.</u>	<u>Epicutaneous administration of papain induces IgE and IgG responses in a cysteine protease activity-dependent manner.</u>	Allergol Int	63	219-226	2014	有
88		Aihara Y, Oh-oka K, Kondo N, Sharma J, Shrestha N, Ishimaru K, Hara M, Yamagata Z, <u>Nakao A.</u>	Residential area, birth order, and dietary habit may influence TSLP levels in colostrum: Comparative study between Japan and Nepal.	Allergol Int	63	283-285	2014	有
89		Ohta K, Ichinose M, Nagase H, <u>Yamaguchi M</u> , Sugiura H, Tohda Yuji, Yamauchi K, Adachi M, Akiyama K, Japanese Society of Allergology.	Japanese guideline for adult asthma 2014.	Allergol Int	63	293-333	2014	有
90		Nakase Y, <u>Yamaguchi M</u> , Sugimoto N, Nagase H, Ohta K.	Suppression of human basophil desensitization by acetylsalicylic Acid.	Allergol Int	63	127-128	2014	有
91		Nakase Y, <u>Yamaguchi M</u> , Sugimoto N, Nagase H, Ohta K.	Modulation of human basophil degranulation by geranylgeranyl compounds.	Allergol Int	63	49-51	2014	有
92		Nozaki Y, Kitching AR, Akiba H, <u>Yagita H</u> , Kinoshita K, Funauchi M, Matsumura I.	Endogenous Tim-1 promotes severe systemic autoimmunity and renal disease in MRL-lpr mice.	Am J Physiol Renal Physiol	306	F1210-1221	2014	有
93		Unno H, Futamura K, Morita H, Kojima R, Arae K, <u>Nakae S</u> , Ida H, <u>Saito H</u> , Matsumoto K, Matsuda A.	Silica and double-stranded RNA synergistically induce bronchial epithelial apoptosis and airway inflammation.	Am J Respir Cell Mol Biol	51	334-353	2014	有
94		Nakao A, Ito T, Han X, Lu YJ, Hisata K, Tsujiwaki A, Matsunaga N, Komatsu M, Hiramatsu K, <u>Shimizu T.</u>	Intestinal carriage of methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> in nasal MRSA carriers hospitalized in the neonatal intensive care unit.	Antimicrob Resist Infect Control	3	14	2014	有
95		Sekine C, Nanki T, <u>Yagita H.</u>	Macrophage-derived Delta-like 1 enhances interleukin-6 and matrix metalloproteinase-3 production by fibroblast-like synoviocytes in arthritic mice.	Arthritis Rheumatol	66	2751-2761	2014	有
96		Aihara Y, Oh-oka K, Kondo N, Ishimaru K, Hara M, Yamagata Z, <u>Nakao A.</u>	Comparison of colostrum TGF- β 2 levels between lactating women in Japan and Nepal.	Asian Pac J Allergy Immunol	32	178-184	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
97		Shimura E, Shibui A, Narushima S, Nambu A, Yamaguchi S, Akitsu A, Leonard WJ, Iwakura Y, Matsumoto K, Suto H, Okumura K, Sudo K, Nakae S.	Potential role of myeloid cell/eosinophil-derived IL-17 in LPS-induced endotoxin shock.	Biochem Biophys Res Commun	453	1-6	2014	有
98	*	Kamachi F, Harada N, Usui Y, Sakanishi T, Ishii N, Okumura K, Miyake S, Akiba H.	<u>OX40 ligand regulates splenic CD8(-) dendritic cell-induced Th2 responses in vivo.</u>	Biochem Biophys Res Commun	444	235-240	2014	有
99		Wakabayashi M, Hasegawa T, Yamaguchi T, Funakushi N, Suto H, Ueki R, Kobayashi H, Ogawa H, Ikeda S.	Yokukansan, a traditional Japanese medicine, adjusts glutamate signaling in cultured keratinocytes.	Biomed Res Int	2014	364092	2014	有
100	*	Kasakura K, Takahashi K, Ito T, Hosono A, Momose Y, Ito K, Nishiyama C, Kaminogawa S.	<u>Commensal bacteria directly suppress in vitro degranulation of mast cells in a MyD88-independent manner.</u>	Biosci Biotechnol Biochem	78	1669-1676	2014	有
101	*	Hattori F, Kiatsurayanon C, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S, Okamoto K, Niyonsaba F.	<u>The antimicrobial protein S100A7/psoriasin enhances expression of keratinocyte differentiation markers and strengthens the skin tight junction barrier.</u>	Br J Dermatol	171	742-753	2014	有
102		Fukushima A, Ohashi Y, Ebihara N, Uchio E, Okamoto S, Kumagai N, Shoji J, Takamura E, Nakagawa Y, Namba K, Fujishima H, Miyazaki D.	Therapeutic effects of 0.1% tacrolimus eye drops for refractory allergic ocular diseases with proliferative lesion or corneal involvement.	Br J Ophthalmol	98	1023-1027	2014	有
103		Okayama Y, Matsuda A, Kashiwakura JI, Sasaki-Sakamoto T, Nunomura S, Shimokawa T, Yamaguchi K, Takahashi S, Ra C.	Highly expressed cytoplasmic Fc ϵ RI β in human mast cells functions as a negative regulator of the FcR γ -mediated cell activation signal.	Clin Exp Allergy	44	238-249	2014	有
104		Ishida W, Harada Y, Fukuda K, Taguchi O, Yagita H, Fukushima A.	Inhibition of very late antigen-4 and leukocyte function-associated antigen-1 in experimental autoimmune uveoretinitis.	Clin Immunol	153	136-144	2014	有
105		Asada Y, Ebihara N, Funaki T, Norihiko Y, Murakami A, Matsuda A.	Vernal keratoconjunctivitis with giant papillae on the inferior tarsal conjunctiva.	Cornea	33	32-34	2014	有
106	*	Negishi N, Suzuki D, Ito R, Irie N, Matsuo K, Yahata T, Nagano K, Aoki K, Ohya K, Hozumi K, Ando K, Tamaoki N, Ito M, Habu S.	<u>Effective expansion of engrafted human hematopoietic stem cells in bone marrow of mice expressing human Jagged1.</u>	Exp Hematol	42	487-494	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
107	*	Kasakura K, Takahashi K, Ito T, Hosono A, Nunomura S, Ra C, Momose Y, Ito K, Nishiyama C, Kaminogawa S.	C/EBPalpha controls mast cell function.	FEBS Lett	588	4645-4653	2014	有
108		Motomura Y, Morita H, Moro K, Nakae S, Artis D, Endo TA, Kuroki Y, Ohara O, Koyasu S, Kubo M.	Basophil-Derived Interleukin-4 Controls the Function of Natural Helper Cells, a Member of ILC2s, in Lung Inflammation.	Immunity	40	758-771	2014	有
109		Fukumoto S, Toshimitsu T, Matsuoka S, Maruyama A, Oh-oka K, Takamura T, Nakamura Y, Ishimaru K, Fujii-Kuriyama Y, Ikegami S, Ito H, Nakao A.	Identification of a probiotic bacteria-derived activator of the aryl hydrocarbon receptor that inhibits colitis.	Immunol Cell Biol	92	460-465	2014	有
110		Tanaka Y, Nakase Y, Yamaguchi M, Sugimoto N, Ohara K, Nagase H, Ohta K.	Allergy to Formaldehyde: Basophil Histamine-Release Test Is Useful for Diagnosis.	Int Arch Allergy Immunol	164	27-29	2014	有
111	*	Nakamura Y, Nakano N, Ishimaru K, Hara M, Ikegami T, Tahara Y, Katoh R, Ogawa H, Okumura K, Shibata S, Nishiyama C, Nakao A.	Circadian regulation of allergic reaction by the mast cell clock in mice.	J Allergy Clin Immunol	133	568-575	2014	有
112		Condamine T, Kumar V, Ramachandran IR, Youn J, Celis E, Finnberg N, El-Deiry WS, Winograd R, Vonderheide RH, English NR, Knight SC, Yagita H, McCaffrey JC, Antonia S, Hockstein N, Witt R, Masters G, Bauer T, Gabilovich DI.	ER stress regulates myeloid-derived suppressor cell fate through TRAIL-R-mediated apoptosis.	J Clin Invest	124	2626-2639	2014	有
113		Ihsii S, Hasegawa T, Hirasawa Y, Tsunemi Y, Kawashima M, Ikeda S.	Acute generalized exantematous pustulosis induced by oral prednisolone.	J Dermatol	41	1135-1136	2014	有
114		Yoshihara N, Nakano H, Sawamura D, Ikeda S.	Novel missense mutation of COL 7A1 in a recessive dystrophic epidermolysis bollosa patient with mild clinical phenotype.	J Dermatol	41	939-940	2014	有
115		Hasegawa T, Ikeda S.	Surgical management with CO2 laser for pseudosyndactyly in recessive dystrophic epidermolysis bullosa.	J Dermatol	41	767-768	2014	有
116		Mabuchi T, Ota T, Manabe Y, Ikoma N, Ozawa A, Terui T, Ikeda S, Inoko H, Oka A.	HLA-C*12:02 is a susceptibility factor in late-onset type of psoriasis in Japanese.	J Dermatol	41	697-704	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
117		Amagai M, Tanikawa A, Shimizu T, Hashimoto T, Ikeda S, Kurosawa M, Niizeki H, Aoyama Y, Iwatsuki K, Kitajima Y.	Japanese guidelines for the management of pemphigus.	J Dermatol	41	471-486	2014	有
118		Fukai T, Hasegawa T, Nagata A, Matsumura M, Kudo Y, Shiraishi E, Kamiya Y, Hirasawa Y, Ikeda S.	Case of erlotinib-induced photosensitivity.	J Dermatol	41	445-446	2014	有
119		Yoshihara N, Takagi A, Ueno T, Ikeda S.	Inverse correlation between microtubule-associated protein 1A/1B-light chain 3 and p62/sequestosome-1 expression in the progression of cutaneous squamous cell carcinoma.	J Dermatol	41	311-315	2014	有
120		Fujiwara H, Maeda Y, Kobayashi K, Nishimori H, Matsuoka K, Fujii N, Kondo E, Tanaka T, Chen L, Azuma M, Yagita H, Tanimoto M.	Programmed death-1 pathway in host tissues ameliorates Th17/Th1-mediated experimental chronic graft-versus-host disease.	J Immunol	193	2565-2573	2014	有
121	*	Inage E, Kasakura K, Yashiro T, Suzuki R, Baba Y, Nakano N, Hara M, Tanabe A, Oboki K, Matsumoto K, Saito H, Niyonsaba F, Ohtsuka Y, Ogawa H, Okumura K, Shimizu T, Nishiyama C.	Critical roles for PU.1, GATA1, and GATA2 in the expression of human FcεRI on mast cells: PU.1 and GATA1 transactivate FCER1A, and GATA2 transactivates FCER1A and MS4A2.	J Immunol	192	3936-3946	2014	有
122	*	Nakamura Y, Ishimaru K, Tahara Y, Shibata S, Nakao A.	Disruption of the Suprachiasmatic Nucleus Blunts A Time of Day-Dependent Variation in Systemic Anaphylactic Reaction in Mice.	J Immunol Res	2014	474217	2014	有
123	*	Nakao A.	Temporal regulation of cytokines by the circadian clock. [Review]	J Immunol Res	2014	614529	2014	有
124	*	Akiyama T, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Nguyen TT, Ushio H, Fujimura T, Ueno T, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S.	The Human Cathelicidin LL-37 Host Defense Peptide Upregulates Tight Junction-Related Proteins and Increases Human Epidermal Keratinocyte Barrier Function.	J Innate Immun	6	739-753	2014	有
125		Nakajima S, Kitoh A, Egawa G, Natsuaki Y, Nakamizo S, Moniaga CS, Otsuka A, Honda T, Hanakawa S, Amano W, Iwakura Y, Nakae S, Kubo M, Miyachi Y, Kabashima K.	IL-17A as an Inducer for Th2 Immune Responses in Murine Atopic Dermatitis Models.	J Invest Dermatol	134	2122-2130	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
126	*	Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Smithrithee R, Akiyama T, Ushio H, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H.	Host defense (antimicrobial) peptide, human β -defensin-3, improves the function of the epithelial tight junction barrier in human keratinocytes.	J Invest Dermatol	134	2163-2173	2014	有
127		Tomita O, Iijima K, Ishibashi T, Osumi T, Kobayashi K, Okita H, Saito M, Mori T, Shimizu T, Kiyokawa N.	Sensitivity of SNX2-ABL1 toward tyrosine kinase inhibitors distinct from that of BCR-ABL1.	Leuk Res	38	361-370	2014	有
128		Kawai M, Suzuki T, Hiruma M, Ikeda S.	A retrospective cohort study of tinea pedis and tinea unguium in inpatients in a psychiatric hospital.	Med Mycol J	55	E35-41	2014	有
129	*	Takai T, Chen X, Xie Y, Vu AT, Le TA, Kinoshita H, Kawasaki J, Kamijo S, Hara M, Ushio H, Baba T, Hiramatsu K, Ikeda S, Ogawa H, Okumura K.	TSLP expression induced via Toll-like receptor pathways in human keratinocytes. [Review]	Methods Enzymol	535	371-387	2014	有
130		Faustino L, Fonseca DM, Florsheim EB, Resende RR, Lepique AP, Faquim-Mauro E, Gomes E, Silva JS, Yagita H, Russo M.	Tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand mediates the resolution of allergic airway inflammation induced by chronic allergen inhalation.	Mucosal Immunol	7	1199-1208	2014	有
131		Yokota-Nakatsuma A, Takeuchi H, Ohoka Y, Kato C, Song HY, Hoshino T, Yagita H, Ohteki T, Iwata M.	Retinoic acid prevents mesenteric lymph node dendritic cells from inducing IL-13-producing inflammatory Th2 cells.	Mucosal Immunol	7	786-801	2014	有
132		Starkey MR, Nguyen DH, Essilfie AT, Kim RY, Hatchwell LM, Collison AM, Yagita H, Foster PS, Horvat JC, Mattes J, Hansbro PM.	Tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand translates neonatal respiratory infection into chronic lung disease.	Mucosal Immunol	7	478-488	2014	有
133		Hiruma M, Cho O, Hiruma M, Kurakado S, Sugita T, Ikeda S.	Genotype analyses of human commensal scalp fungi, <i>Malassezia globosa</i> , and <i>Malassezia restricta</i> on the scalps of patients with dandruff and healthy subjects.	Mycopathologia	177	263-269	2014	有
134		Tanaka E, Asanuma K, Kim E, Sasaki Y, Oliva Trejo JA, Seki T, Nonaka K, Asao R, Nagai-Hosoe Y, Akiba-Takagi M, Hidaka T, Takagi M, Koyanagi A, Mizutani S, Yagita H, Tomino Y.	Notch2 activation ameliorates nephrosis.	Nat Commun	5	3296	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
135		Natsuaki Y, Egawa G, Nakamizo S, Ono S, Hanakawa S, Okada T, Kusuba N, Otsuka A, Kitoh A, Honda T, Nakajima S, Tsuchiya S, Sugimoto Y, Ishii K, Tsutsui H, <u>Yagita H</u> , Iwakura Y, Kubo M, Ng LG, Hashimoto T, Fuentes J, Guttman-Yassky E, Miyachi Y, Kabashima K.	Perivascular leukocyte clusters are essential for efficient activation of effector T cells in the skin.	Nat Immunol	15	1064-1071	2014	有
136		Mahmud SA, Manlove LS, Schmitz HM, Xing Y, Wang Y, Owen DL, Schenkel JM, Boomer JS, Green JM, <u>Yagita H</u> , Chi H, Hogquist KA, Farrar MA.	Costimulation via the tumor-necrosis factor receptor superfamily couples TCR signal to the thymic differentiation of regulatory T cells.	Nat Immunol	15	473-481	2014	有
137		Mori M, Ohtsuka Y, Ishida A, Yamazaki S, Jimbo K, Inage E, Aoyagi Y, Kudo T, Suzuki R, <u>Shimizu T</u> .	Outcome of infants presenting rectal bleeding: a retrospective study in a single institution.	Pediatr Int	56	884-890	2014	有
138		Jimbo K, Ohtsuka Y, Kojima Y, Hosoi K, Ohbayashi N, Ikuse T, Aoyagi Y, Fujii T, Kudo T, <u>Shimizu T</u> .	Increased expression of CXCR3 axis components and MMPs in pediatric IBD patients.	Pediatr Int	56	73-83	2014	有
139		Murata A, Yoshino M, Hikosaka M, Okuyama K, Zhou L, Sakano S, <u>Yagita H</u> , Hayashi SI.	An evolutionary-conserved function of mammalian Notch family members as cell adhesion molecules.	PLoS One	9	e108535	2014	有
140		Nakajima A, Negishi N, Tsurui H, Kadowaki-Ohtsuji N, <u>Maeda K</u> , Nanno M, Yamaguchi Y, Shimizu N, <u>Yagita H</u> , <u>Okumura K</u> , <u>Habu S</u> .	Commensal Bacteria Regulate Thymic Aire Expression.	Plos One	9	e105904	2014	有
141		Kojima R, Ohno T, Iikura M, Niki T, Hirashima M, Iwaya K, Tsuda H, Nonoyama S, Matsuda A, <u>Saito H</u> , Matsumoto K, <u>Nakae S</u> .	Galectin-9 enhances cytokine secretion, but suppresses survival and degranulation, in human mast cell line.	PLoS One	9	e86106	2014	有
142	*	Oh-oka K, Kono H, Ishimaru K, Miyake K, Kubota T, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , Shibata S, <u>Nakao A</u> .	Expressions of tight junction proteins Occludin and Claudin-1 are under the circadian control in the mouse large intestine: implications in intestinal permeability and susceptibility to colitis.	PLoS One	9	e98016	2014	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
143		Nakashima R, Imura Y, Hosono Y, Aeto M, Murakami A, Watanabe K, Handa T, Mishima M, Hirakata M, Takeuchi T, Fujio K, Yamamoto K, Kohsaka H, Takasaki Y, Enomoto N, Suda T, Chida K, Hisata S, Nukiwa T, Mimori T.	The multicenter study of a new assay for simultaneous detection of multiple anti-aminoacyl-tRNA synthetases in myositis and interstitial pneumonia.	PLoS One	9	e85062	2014	有
144		Uchiyama M, Jin X, Matsuda H, Bashuda H, Imazuru T, Shimokawa T, Yagita H, Niimi M.	An agonistic anti-BTLA mAb (3C10) induced generation of IL-10-dependent regulatory CD4+ T cells and prolongation of murine cardiac allograft.	Transplantation	97	301-309	2014	有
145	*	Zhang C, Ohno T, Kang S, Takai T, Azuma M.	<u>Repeated antigen painting and sublingual immunotherapy in mice convert sublingual dendritic cell subsets.</u>	Vaccine	32	5669-5676	2014	有
146		Shirao K, Inoue M, Tokuda R, Nagao M, Yamaguchi M, Okahata H, Fujisawa T.	"Bitter sweet": a child case of erythritol-induced anaphylaxis.	Allergol Int	62	269-271	2013	有
147		<u>Nakae S</u> , Morita H, Ohno T, Arae K, Matsumoto K, Saito H.	Role of interleukin-33 in innate-type immune cells in allergy. [Review]	Allergol Int	62	13-20	2013	有
148		Sugiyama T, Kitamura M, Sugita K, Hisamoto M, Okuda T, <u>Nakao A</u> .	Grape seed extract from "Koshu" cultivar antagonizes dioxin-induced aryl hydrocarbon receptor activation.	Am J Enol Viticult	64	146-151	2013	有
149		Luo XY, Takahara T, Kawai K, Fujino M, Sugiyama T, Tsuneyama K, Tsukada K, <u>Nakae S</u> , Zhong L, Li XK.	IFN- γ deficiency attenuates hepatic inflammation and fibrosis in a steatohepatitis model induced by a methionine and choline-deficient high fat diet.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	305	G891-899	2013	有
150		Lee H, Kashiwakura J, <u>Matsuda A</u> , Watanabe Y, Sakamoto-Sasaki T, Matsumoto K, Hashimoto N, Saito S, Ohmori K, Nagaoka M, Tokuhashi Y, Ra C, Okayama Y.	Activation of human synovial mast cells from rheumatoid arthritis or osteoarthritis patients in response to aggregated IgG through Fc γ receptor I and Fc γ receptor II.	Arthritis Rheum	65	109-119	2013	有
151	*	Chen X, Takai T, Xie Y, <u>Niyonsaba F</u> , <u>Okumura K</u> , Ogawa H.	<u>Human antimicrobial peptide LL-37 modulates proinflammatory responses induced by cytokine milieu and double-stranded RNA in human keratinocytes.</u>	Biochem Biophys Res Commun	433	532-537	2013	有
152	*	Nakazawa T, Khan AF, Yasueda H, Saito A, Fukutomi Y, <u>Takai T</u> , Zaman K, Yunus M, Takeuchi H, Iwata T, Akiyama K.	<u>Immunization of rabbits with nematode Ascaris lumbricoides antigens induces antibodies cross-reactive to house dust mite Dermatophagoides farinae antigens.</u>	Biosc Biotechnol Biochem	77	145-150	2013	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
153		Saha A, Aoyama K, Taylor PA, Koehn BH, Veenstra RG, Panoskaltzis-Mortari A, Munn DH, Murphy WJ, Azuma M, Yagita H, Fife BT, Sayegh MH, Najafian N, Socie G, Ahmed R, Freeman GJ, Sharpe AH, Blazar BR.	Host programmed death ligand-1 is dominant over programmed death ligand-2 expression in regulating graft-versus-host disease lethality.	Blood	122	3062-3073	2013	有
154		Takita E, Yokota S, Tahara Y, Hirao A, Aoki N, Nakamura Y, Nakao A, Shibata S.	Biological clock dysfunction exacerbates contact hypersensitivity in mice.	Br J Dermatol	168	39-46	2013	有
155		Ishida W, Fukuda K, Harada Y, Sumi T, Taguchi O, Tsuda M, Yagita H, Fukushima A.	Oral administration of Ag suppresses Ag-induced allergic conjunctivitis in mice: critical timing and dose of Ag.	Br J Ophthalmol	97	492-497	2013	有
156		Tamaichi H, Sato M, Porter AC, Shimizu T, Mizutani S, Takagi M.	ATM dependent regulation of Topoisomerase II alpha expression and sensitivity to Topoisomerase II inhibitor.	Cancer Sci	104	178-184	2013	有
157		Hayashi A, Sato T, Kamada N, Mikami Y, Matsuoka K, Hisamatsu T, Hibi T, Roers A, Yagita H, Ohteki T, Yoshimura A, Kanai T.	A single strain of Clostridium butyricum induces intestinal IL-10-producing macrophages to suppress acute experimental colitis in mice.	Cell Host Microbe	13	711-722	2013	有
158		Cermakian N, Lange T, Golombek D, Sarkar D, Nakao A, Shibata S, Mazzocchi G.	Crosstalk between the circadian clock circuitry and the immune system. [Review]	Chronobiol Int	30	870-888	2013	有
159		Yoon JH, Jung SM, Park SH, Kato M, Yamashita T, Lee IK, Sudo K, Nakae S, Han JS, Kim OH, Oh BC, Sumida T, Kuroda M, Ju JH, Jung KC, Park SH, Kim DK, Mamura M.	Activin receptor-like kinase5 inhibition suppresses mouse melanoma by ubiquitin degradation of Smad4, thereby derepressing eomesodermin in cytotoxic T lymphocytes.	EMBO Mol Med	5	1720-1739	2013	有
160		Shibui A, Nakae S, Watanabe J, Sato Y, Tolba ME, Doi J, Shiibashi T, Nogami S, Sugano S, Hozumi N.	Screening of novel malaria DNA vaccine candidates using full-length cDNA library.	Exp Parasitol	135	546-550	2013	有
161		Osada Y, Yamada S, Nabeshima A, Yamagishi Y, Ishiwata K, Nakae S, Sudo K, Kanazawa T.	Heligmosomoides polygyrus infection reduces severity of type 1 diabetes induced by multiple low-dose streptozotocin in mice via STAT6- and IL-10-independent mechanisms.	Exp Parasitol	135	388-396	2013	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
162		Ohyagi H, Onai N, Sato T, Yotsumoto S, Liu J, Akiba H, <u>Yagita H</u> , Atarashi K, Honda K, Roers A, Muller W, Kurabayashi K, Hosoi-Amaike M, Takahashi N, Hirokawa M, Matsushima K, Sawada K, Ohteki T.	Monocyte-derived dendritic cells perform hemophagocytosis to fine-tune excessive immune responses.	Immunity	39	584-598	2013	有
163	*	Oka A, Mabuchi T, <u>Ikeda S</u> , Terui T, Haida Y, Ozawa A, Yatsu K, Kulski JK, Inoko H.	<u>IL12B and IL23R gene SNPs in Japanese psoriasis.</u>	Immunogenetics	65	823-828	2013	有
164		Haida Y, <u>Ikeda S</u> , Takagi A, Komiyama E, Mabuchi T, Ozawa A, Kulski JK, Inoko H, Oka A.	Association analysis of the HLA-C gene in Japanese alopecia areata.	Immunogenetics	65	553-557	2013	有
165		Ohtsuki A, Hasegawa T, Komiyama E, Takagi A, <u>Ikeda S</u> .	308-nm Excimer Lamp for the Treatment of Alopecia Areata: Clinical Trial 16 cases.	Indian J Dermatol	58	326	2013	有
166		Takada E, Furuhashi M, <u>Nakae S</u> , Ichijo H, Sudo K, Mizuguchi J.	Requirement of apoptosis-inducing kinase 1 for the induction of bronchial asthma following stimulation with ovalbumin.	Int Arch Allergy Immunol	162	104-114	2013	有
167		Nakashima-Kaneda K, <u>Matsuda A</u> , Mizuguchi H, Sasaki-Sakamoto T, <u>Saito H</u> , Ra C, Okayama Y.	Regulation of IgE-dependent zinc release from human mast cells.	Int Arch Allergy Immunol	161	44-51	2013	有
168		Koketsu R, Yamaguchi M, Suzukawa M, Tanaka Y, Tashimo H, Arai H, Nagase H, Matsumoto K, <u>Saito H</u> , Ra C, Yamamoto K, Ohta K.	Pretreatment with low levels of Fc ε RI-crosslinking stimulation enhances basophil mediator release.	Int Arch Allergy Immunol	161	23-31	2013	有
169		Yamada H, Iijima K, Tomita O, Taguchi T, Miharuru M, Kobayashi K, Okita H, Saito M, <u>Shimizu T</u> , Kiyokawa N.	Effects of insulin-like growth factor-1 on B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia.	Int J Hematol	97	73-82	2013	有
170	*	Fukuda K, Ishida W, Tanaka H, Harada Y, <u>Matsuda A</u> , <u>Ebihara N</u> , Fukushima A.	<u>Alarmins from corneal epithelial cells up-regulate CCL11 and VCAM-1 in corneal fibroblasts.</u>	Invest Ophthalmol Vis Sci	54	5817-5823	2013	有
171		Kitazawa K, Kawasaki S, Shinomiya K, Aoi K, <u>Matsuda A</u> , Funaki T, Yamasaki K, Nakatsukasa M, <u>Ebihara N</u> , <u>Murakami A</u> , Hamuro J, Kinoshita S.	Establishment of a Human Corneal Epithelial Cell Line Lacking the Functional TACSTD2 Gene as an In Vitro Model for Gelatinous Drop-Like Dystrophy.	Invest Ophthalmol Vis Sci	54	5701-5711	2013	有
172	*	Iwamoto S, Asada Y, <u>Ebihara N</u> , Hori K, Okayama Y, Kashiwakura JI, Watanabe Y, Kawasaki S, Yokoi N, Inatomi T, Shinomiya K, <u>Murakami A</u> , <u>Matsuda A</u> .	<u>Interaction between conjunctival epithelial cells and mast cells induces CCL2 expression and piecemeal degranulation in mast cells.</u>	Invest Ophthalmol Vis Sci	54	2465-2473	2013	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
173		Sugimoto N, <u>Yamaguchi M</u> , Tanaka Y, Nakase Y, Nagase H, Akiyama H, Ohta K.	The basophil activation test identified carminic acid as an allergen inducing anaphylaxis.	J Allergy Clin Immunol Pract	1	197-199	2013	有
174		Kurosawa M, Takagi A, Tamakoshi A, Kawamura T, Inaba Y, Yokoyama K, Kitajima Y, Aoyama Y, Iwatsuki K, <u>Ikeda S</u> .	Epidemiology and clinical characteristics of bullous congenital ichthyosiform erythroderma (keratinolytic ichthyosis) in Japan: Results from a nationwide survey.	J Am Acad Dermatol	69	273-283	2013	有
175		<u>Ikeda S</u> , Takahashi H, Suga Y, Eto H, Etoh T, Okuma K, Takahashi K, Kanbara T, Seishima M, Morita A, Imai Y, Kanekura T.	Therapeutic depletion of myeloid lineage leukocytes in patients with generalized pustular psoriasis indicates a major role for neutrophils in the immunopathogenesis of psoriasis.	J Am Acad Dermatol	68	609-617	2013	有
176	*	<u>Kamijo S</u> , Takeda H, Tokura T, Suzuki M, Inui K, Hara M, Matsuda H, <u>Matsuda A</u> , Oboki K, Ohno T, <u>Saito H</u> , <u>Nakae S</u> , Sudo K, <u>Suto H</u> , Ichikawa S, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , <u>Takai T</u> .	<u>IL-33-mediated innate response and adaptive immune cells contribute to maximum responses of protease allergen-induced allergic airway inflammation.</u>	J Immunol	190	4489-4499	2013	有
177		Abe Y, Kamachi F, Kawamoto T, Makino F, Ito J, Kojima Y, Moustapha AE, Usui Y, <u>Yagita H</u> , <u>Takasaki Y</u> , <u>Okumura K</u> , Akiba H.	TIM-4 has dual function in the induction and effector phases of murine arthritis.	J Immunol	191	4562-4572	2013	有
178		Obinata K, Lee T, Niizuma T, Kinoshita K, Shimizu T, Hoshina T, Sasaki Y, Hara T.	Two cases of partial dominant interferon- γ receptor 1 deficiency that presented with different clinical courses of bacille Calmette-Guérin multiple osteomyelitis.	J Infect Chemothe	19	757-760	2013	有
179	*	Fukuda M, <u>Ushio H</u> , Kawasaki J, <u>Niyonsaba F</u> , Takeuchi M, Baba T, Hiramatsu T, <u>Okumura K</u> , Ogawa H.	<u>The expression and functional characterization of RIG-I-like receptors (RLRs) of mast cells in response to viral infection.</u>	J Innate Immunity	5	163-173	2013	有
180		Aoki R, Kawamura T, Goshima F, Ogawa Y, <u>Nakae S</u> , <u>Nakao A</u> , Moriishi K, Nishiyama Y, Shimada S.	Mast cells play a key role in host defense against Herpes simplex virus infection through TNF- α and IL-6 production.	J Invest Dermatol	133	2170-2179	2013	有
181	*	<u>Niyonsaba F</u> , Madera L, Afacan N, <u>Okumura K</u> , Ogawa H, Hancock RE.	<u>The innate defense regulator peptides IDR-HH2, IDR-1002, and IDR-1018 modulate human neutrophil functions.</u>	J Leukoc Biol	94	159-170	2013	有
182		Zhu Y, Ohba T, Ando T, Fujita K, Koyama K, Nakamura Y, Katoh R, Haro H, <u>Nakao A</u> .	Endogenous TGF- β activity limits TSLP expression in the intervertebral disc tissue by suppressing NF- κ B activation.	J Orthop Res	31	1144-1149	2013	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
183		Fukai T, Hiruma M, Ogawa Y, Ikeda S, Ikeda H, Sano A, Makimura K.	A case of phaeohyphomycosis caused by <i>Exophiala oligosperma</i> successfully treated with local hyperthermia.	Medical Mycology Journal	54	297-301	2013	有
184	*	Hara M, Yokoyama H, Fukuyama K, Kitamura N, Shimokawa N, Maeda K, Kanada S, Ito T, Usui Y, Ogawa H, Okumura K, Nishiyama M, Nishiyama C.	<u>Transcriptional regulation of the mouse CD11c promoter by AP-1 complex with JunD and Fra2 in dendritic cells.</u>	Mol Immunol	53	295-301	2013	有
185		Lewkowich IP, Lajoie S, Stoffers SL, Suzuki Y, Richgels PK, Dienger K, Sproles AA, Yagita H, Hamid Q, Wills-Karp M.	PD-L2 modulates asthma severity by directly decreasing dendritic cell IL-12 production.	Mucosal Immunol	6	728-739	2013	有
186		Ouchi T, Tomita T, Horie A, Yoshida A, Takahashi K, Nishida H, Lassak K, Taka H, Mineki R, Fujimura T, Kosono S, Nishiyama C, Masui R, Kiramitsu S, Albers S-V, Kuzuyama T, Nishiyama M.	Lysine and arginine biosyntheses mediated by a common carrier protein in <i>Sulfolobus</i> .	Nat Chem Biol	9	277-283	2013	有
187		Overstreet MG, Gaylo A, Angermann BR, Hughson A, Hyub YM, Lambert K, Acharya M, Billroth-Maclurg AC, Rosenberg AF, Topham DJ, Yagita H, Kim M, Lacy-Hulbert A, Meier-Schellersheim M, Fowell DJ.	Inflammation-induced interstitial migration of effector CD4 ⁺ T cells is dependent on integrin αV .	Nat Immunol	14	949-958	2013	有
188		Fujitake Y, Ohtsuka Y, Ikuse T, Ohtani K, Aoyagi Y, Fujii T, Kudo T, Ishii M, Shimizu T.	Analysis of inflammatory signals in Japanese children with Crohn's disease.	Pediatr Int	55	753-756	2013	有
189		Fujinaga S, Shimizu T.	Chronic cyclosporine-induced nephrotoxicity in children with steroid-resistant nephrotic syndrome.	Pediatr Nephrol	28	2065-2066	2013	有
190		Van der Werf N, Redpath NA, Azuma M, Yagita H, Taylor MD.	Th2 cell-intrinsic hypo-responsiveness determines susceptibility to helminth infection.	PLoS Pathog	9	e1003215	2013	有
191	*	Nakanishi W, Yamaguchi S, Matsuda A, Suzukawa M, Shibui A, Nambu A, Suto H, Saito H, Matsumoto K, Yamasoba T, Nakae S.	<u>IL-33, but not IL-25, is crucial for the development of house dust mite antigen-induced allergic rhinitis in mice.</u>	PLoS One	8	e78099	2013	有
192		Matsumoto A, Kanai T, Mikami Y, Chu PS, Nakamoto N, Ebinuma H, Saito H, Sato T, Yagita H, Hibi T.	IL-22-producing ROR γ t-dependent innate lymphoid cells play a novel protective role in murine acute hepatitis.	PLoS One	8	e62853	2013	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
193		Nei Y, Obata-Ninomiya K, Tsutsui H, Ishiwata K, Miyasaka M, Matsumoto K, Nakae S, Kanuka H, Inase N, Karasuyama H.	GATA-1 regulates the generation and function of basophils.	Proc Natl Acad Sci USA	110	18620-18625	2013	有
194		Ma J, Bang BR, Lu J, Eun SY, Otsuka M, Croft M, Tobias P, Han J, Takeuchi O, Akira S, Karin M, Yagita H, Kang YJ.	The TNF family member 4-1BBL sustains inflammation by interacting with TLR signaling components during late-phase activation.	Sci Signal	6	ra87	2013	有
195	*	Baba Y, Maeda K, Yashiro T, Inage E, Niyonsaba F, Hara M, Suzuki R, Ohtsuka Y, Shimizu T, Ogawa H, Okumura K, Nishiyama C.	Involvement of PU.1 in mast cell/basophil-specific function of the human IL1RL1/ST2 promoter.	Allergol Int	61	461-467	2012	有
196	*	Morita H, Arae K, Ohno T, Kajiwara N, Oboki K, Matsuda A, Suto H, Okumura K, Sudo K, Takahashi T, Matsumoto K, Nakae S.	ST2 Requires Th2-, but Not Th17-, Type Airway Inflammation in Epicutaneously Antigen-Sensitized Mice.	Allergol Int	61	265-273	2012	有
197	*	Takai T.	TSLP expression: cellular sources, triggers, and regulatory mechanisms. [Review]	Allergol Int	61	3-17	2012	有
198		Okayama Y, Kashiwakura J, Matsuda A, Sasaki-Sakamoto T, Nunomura S, Yokoi N, Ebihara N, Kuroda K, Ohmori K, Saito H, Ra C.	The interaction between Lyn and Fc ϵ RI β is indispensable for Fc ϵ RI-mediated human mast cell activation.	Allergy	67	1241-1249	2012	有
199		Ohno T, Morita H, Arae K, Matsumoto K, Nakae S.	Interleukin-33 in allergy. [Review]	Allergy	67	1203-1214	2012	有
200		Sharma SK, Almeida FA, Kirstein F, Hortobagyi L, Lin T, Larkin A, Peterson J, Yagita H, Zangrilli JG, Haczku A.	Systemic FasL neutralization increases eosinophilic inflammation in a mouse model of asthma.	Allergy	67	328-335	2012	有
201		Makino F, Ito J, Abe Y, Harada N, Kamachi F, Yagita H, Takahashi K, Okumura K, Akiba H.	Blockade of CD70-CD27 interaction inhibits induction of allergic lung inflammation in mice.	Am J Respir Cell Mol Biol	47	298-305	2012	有
202	*	Iwamoto S, Ebihara N, Hori K, Funaki T, Asada Y, Yokoi N, Inatomi T, Kawasaki S, Murakami A, Matsuda A.	Filaggrin mutations are not associated with chronic allergic keratoconjunctivitis.	Br J Ophthalmol	96	1272-1273	2012	有
203		Kamijo M, Nishiyama C, Takagi A, Nakano N, Hara M, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H.	Cyclooxygenase-2 inhibition restores UVB-induced downregulation of ATP2A2/SERCA2 in keratinocytes.	Br J Dermatol	166	1017-1022	2012	有
204		Shibui A, Shimura E, Nambu A, Yamaguchi S, Leonard WJ, Okumura K, Sugano S, Sudo K, Nakae S.	Th17 cell-derived IL-17 is dispensable for B cell antibody production.	Cytokine	59	108-114	2012	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
205		Ito R, Negishi N, Irie N, Matsuo K, Suzuki D, Katano I, Hayakawa E, Kawai K, Kamisako T, Eto T, Ogura T, Hozumi K, Ando K, Aiso S, Tamaoki N, <u>Habu S</u> , Ito M.	Osteosclerosis and inhibition of human hematopoiesis in NOG mice expressing human Delta-like 1 in osteoblasts.	Exp Hematol	40	953-963	2012	有
206		Ishida W, Fukuda K, Kajisako M, Sumi T, Matsuda H, <u>Yagita H</u> , Fukushima A.	B and T lymphocyte attenuator regulates the developmemnt of antigen-induced experimental conjunctivitis.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	250	289-295	2012	有
207		Elyaman W, Bassil R, BradshawEM, Orent W, Lahoud Y, Zhu B, Radtke F, <u>Yagita H</u> , Khoury SJ.	Notch receptors and Smad3 signaling cooperate in the induction of interleukin-9-producing T cells.	Immunity	36	623-634	2012	有
208		Piao JH, <u>Yagita H</u> , Okumura K, Nakano H.	Aberrant accumulation of interleukin-10-secreting netrophils in TRAF2-deficient mice.	Immunol Cell Biol	90	881-888	2012	有
209	*	Saeki M, Nishimura T, Kaminuma O, Suzuki K, <u>Takai T</u> , Mori A, Takada K, Takaiwa F, Hiroi T.	<u>Inhibition of allergen-induced airway inflammation by low-dose oral immunotherapy with transgenic rice seeds independently of immunoglobulin E synthesis.</u>	Int Arch Allergy Immunol	158	66-69	2012	有
210	*	Nunomura S, Shimada S, Kametani Y, Yamada Y, Yoshioka M, Suemizu H, Ozawa M, Itoh T, Kono A, Suzuki R, Tani K, Ando K, <u>Yagita H</u> , Ra C, <u>Habu S</u> , Satake M, Sasaki E.	<u>Double expression of CD34 and CD117 on bone marrow progenitors is a hallmark of the development of functional mast cell of Callithrix jacchus (common marmoset).</u>	Int Immunol	24	593-603	2012	有
211	*	Matsuda R, Kezuka T*, <u>Nishiyama C</u> , Usui Y, Matsunaga Y, Okunuki Y, Yamakawa N, Ogawa H, Okumura K, Goto H.	<u>Interleukin-10 gene-transfected mature dendritic cells suppress murine experimental autoimmune optic neuritis.</u>	Invest Ophthalmol Vis Sci	53	7235-7245	2012	有
212	*	Matsuda R, Kezuka T*, <u>Nishiyama C</u> , Usui Y, Matsunaga Y, Okunuki Y, Yamakawa N, Ogawa H, <u>Okumura K</u> , Goto H.	<u>Suppression of the murine experimental autoimmune optic neuritis by mature dendritic cells transfected with calcitonin gene-related peptide gene.</u>	Invest Ophthalmol Vis Sci	53	5475-5485	2012	有
213		Hori K, <u>Matsuda A</u> , Ebihara N, Imai K, Mori K, Funaki T, Watanabe Y, Nakatani S, Okada K, Matsuo O, <u>Murakami A</u> .	Involvement of Plasminogen Activator Inhibitor-1 in the Pathogenesis of Atopic Cataracts.	Invest Ophthalmol Vis Sci	53	1846-1851	2012	有
214		Inomata T, <u>Ebihara N</u> , Funaki T, <u>Matsuda A</u> , Watanabe Y, Ning L, Xu Z, <u>Murakami A</u> , Arikawa-Hirasawa E.	Perlecan-Deficient Mutation Impairs Corneal Epithelial Structure.	Invset Ophthalmol Vis Sci	53	1277-1284	2012	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
215	*	Nagaoka I, Suzuki K, Niyonsaba F, Tamura H, Hirata M.	<u>Modulation of neutrophil apoptosis by antimicrobial peptides.</u>	ISRN Microbiol	2012	345791	2012	有
216	*	Kitamura N, Yokoyama H, Yashiro T, Nakano N, Nishiyama M, Kanada S, Fukai T, Hara M, Ikeda S, Ogawa H, Okumura K, Nishiyama C.	<u>Role of PU.1 in MHC class II expression through transcriptional regulation of class II transactivator pI in dendritic cells.</u>	J Allergy Clin Immunol	129	814-824	2012	有
217		Ohtsuka Y, Jimbo K, Inage E, Mori M, Yamakawa Y, Aoyagi Y, Suzuki M, Kudo T, Suzuki R, Shimizu T.	Microarray analysis of mucosal biopsy specimens in neonates with rectal bleeding: Is it really an allergic disease?	J Allergy Clin Immunol	129	1676-1678	2012	有
218	*	Baba Y, Maeda K, Yashiro T, Inage E, Kasakura K, Suzuki R, Niyonsaba F, Hara M, Tanabe A, Ogawa H, Okumura K, Ohtsuka Y, Shimizu T, Nishiyama C.	<u>GATA2 is critical transactivator for human IL1RL1/ST2 promoter in mast cells/basophils: Opposing roles for GATA2 and GATA1 in human IL1RL1/ST2 gene expression.</u>	J Biol Chem	287	32689-32696	2012	有
219		Kawamura T, Ogawa Y, Nakamura Y, Nakamizo S, Ohta T, Nakano H, Kabashima K, Katayama I, Koizumi S, Kodama T, Nakao A, Shimada S.	Severe dermatitis with loss of epidermal langerhans cells in human and mouse zinc deficiency.	J Clin Invest	122	722-732	2012	有
220		Hasegawa T, Suga Y, Mizuno Y, Haruna K, Ikeda S.	Photodynamic therapy using intense pulsed light for cutaneous sarcoidosis.	J Dermatol	39	564-565	2012	有
221	*	Xie Y, Takai T, Chen X, Okumura K, Ogawa H.	<u>Long TSLP transcript expression and release of TSLP induced by TLR ligands and cytokines in human keratinocytes.</u>	J Dermatol Sci	66	233-237	2012	有
222	*	Nguyen TT, Niyonsaba F, Ushio H, Akiyama T, Kiatsurayanon C, Smithrithee R, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H.	<u>Interleukin-36 cytokines enhance the production of host defense peptides psoriasin and LL-37 by human keratinocytes through activation of MAPKs and NF-κB.</u>	J Dermatol Sci	68	63-66	2012	有
223	*	Suzukawa M, Morita H, Nambu A, Arae K, Shimura E, Shibui A, Yamaguchi S, Suzukawa K, Nakanishi W, Oboki K, Kajiwara N, Ohno T, Ishii A, Körner H, Cua DJ, Suto H, Yoshimoto T, Iwakura Y, Yamasoba T, Ohta K, Sudo K, Saito H, Okumura K, Broide DH, Matsumoto K, Nakae S.	<u>Epithelial Cell-Derived IL-25, but Not Th17 Cell-Derived IL-17 or IL-17F, Is Crucial for Murine Asthma.</u>	J Immunol	189	3641-3652	2012	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
224		Nakayama M, Kurokawa K, Nakamura K, Lee BL, Sekimizu K, Kubagawa H, Hiramatsu K, Yagita H, Okumura K, Takai T, Underhill DM, Aderem A, Ogasawara K.	Inhibitory receptor paired Ig-like receptor B is exploited by <i>Staphylococcus aureus</i> for virulence.	J Immunol	189	5903-5911	2012	有
225		Sawaguchi M, Tanaka S, Nakatani Y, Harada Y, Mukai K, Matsunaga Y, Ishiwata K, Oboki K, Kambayashi T, Watanabe N, Karasuyama H, Nakae S, Inoue H, Kubo M.	Role of mast cells and basophils in IgE responses and in allergic airway hyperresponsiveness.	J Immunol	188	1809-1818	2012	有
226		Ikejima A, Suga Y, Mizuno Y, Haruna K, Taneda K, Kourou K, Shimizu T, Yoshiike T, Ogawa Y, Ikeda S.	Clinical Manifestation and Classification of Japanese Patients with Inherited Keratinizing Disorders.	Juntendo Med J	58	135-142	2012	有
227	*	Potaczek DP, Kamiyo M, Hara M, Okumura K, Undas A, Nishiyama C.	A comparative search for human <i>FcεRIα</i> gene (FCER1A) 3'-UTR polymorphisms in Japanese and Polish populations.	Mol Biol Rep	39	3747-3753	2012	有
228	*	Hirota T, Takahashi A, Kubo M, Tsunoda T, Tomita K, Sakashita M, Yamada T, Fujieda S, Tanaka S, Doi S, Miyatake A, Enomoto T, Nishiyama C, Nakano N, Maeda K, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S, Noguchi E, Sakamoto T, Hizawa N, Ebe K, Saeki H, Sasaki T, Ebihara T, Amagai M, Takeuchi S, Furue M, Nakamura Y, Tamari M.	Genome-wide association study identifies eight new susceptibility loci for atopic dermatitis in the Japanese population.	Nat Genet	44	1222-1226	2012	有
229		Ouyang Y, Nakao A, Han D, Zhang L.	Transforming growth factor-β (1) promotes nasal mucosal mast cell chemotaxis in murine experimental allergic rhinitis.	ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec	74	117-123	2012	有
230		Ikuse T, Ohtsuka Y, Kudo T, Hosoi K, Ohbayashi N, Jimbo K, Aoyagi Y, Fujii T, Nagata S, Shimizu T.	Microarray analysis of gastric mucosa among children with <i>Helicobacter pylori</i> infections.	Pediatr Int	54	319-324	2012	有
231		Ohtsuka Y, Ikegami T, Izumi H, Namura M, Ikeda T, Ikuse T, Baba Y, Kudo T, Suzuki R, Shimizu T.	Effects of <i>Bifidobacterium breve</i> on inflammatory gene expression in neonatal and weaning rat intestine.	Pediatr Res	71	46-53	2012	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
232	*	Okada Y, Shimane K, Kochi Y, Tahira T, Suzuki A, Higasa K, Takahashi A, Hirota T, Atsumi A, Ishii T, Okamoto A, Fujio K, Hirakata M, Amano H, Kondo Y, Ito S, Takada K, Mimori A, Saito K, Kamachi M, Kawaguchi Y, Ikari K, Mohammed ow, Matsuda K, Terao C, Ohmura K, Myouzen K, Hosono N, Tsunoda T, Nishimoto N, Minori T, Matsuda F, Tanaka Y, Sumida T, Yamanaka H, <u>Takasaki Y</u> , Koike T, Horiuchi T, Hayashi K, Kubo M, Kamatani N, Yamada R, Nakamura Y, Yamamoto K.	<u>A Genome-Wide Association Study Identified AFF1 as a Susceptibility Locus for Systemic Lupus Eyrthematosus in Japanese.</u>	PLoS Genetics	8	e1002455	2012	有
233	*	Okada Y, Oh-Oka K, Nakamura Y, Ishimaru K, Matsuoka S, <u>Okumura K</u> , Ogawa H, Hisamoto M, Okuda T, Nakao A.	<u>Dietary resveratrol prevents the development of food allergy in mice.</u>	PLoS One	7	e44338	2012	有
234		Gotot J, Gottschalk C, Leopold S, Knolle PA, Yagita H, Kurts C, Ludwig-Portugal I.	Regulatory T cells use programmed death 1 ligands to directly suppress autoreactive B cells in vivo.	Proc Natl Acad Sci USA	109	10468-10473	2012	有
235		Yamaguchi A, Nozawa K, Fujishiro M, Kawasaki M, Takamori K, Ogawa H, Sekigawa I, <u>Takasaki Y</u> .	Estrogen inhibits apoptosis and promotes CC motif chemokine ligand 13 expression on synovial fibroblasts in rheumatoid arthritis.	Rheumatol Int	34	852-857	2012	有
236	*	Nishina T, Komazawa-Sakon S, Yanaka S, Piao X, Zheng DM, Piao JH, Kojima Y, Yamashina S, Sano E, Putoczki T, Doi T, Ueno T, Ezaki J, <u>Ushio H</u> , Ernst M, Tsumoto K, <u>Okumura K</u> , Nakano H.	<u>Interleukin-11 links oxidative stress and compensatory proliferation.</u>	Sci Signal	5	ra5	2012	有
237	*	Piao X, Komazawa-Sakon S, Nishina T, Koike M, Piao J-H, Ehlken H, Kurihara H, Hara M, Van Rooijen N, Schütz G, Ohmuraya M, Uchiyama Y, <u>Yagita H</u> , <u>Okumura K</u> , He Y-W, Nakano H.	<u>c-FLIP maintains tissue homeostasis by preventing apoptosis and programmed necrosis.</u>	Sci Signal	5	ra93	2012	有
238		Furusawa K, Hasegawa T, <u>Ikeda S</u> .	Immunosuppressant and infliximab-resistant generalized pustular psoriasis successfully treated with granulocyte and monocyte adsorption apheresis.	Ther Apher Dial	16	379-380	2012	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
239		Undas A, Potaczek DP, Nishiyama C, Okumura K.	Non-severe allergic asthma is associated with elevated plasma protein C and protein S.	Thromb Haemost	107	1000-1002	2012	有
240		Ng W, Ikeda S.	Standardized, defined serum-free culture of a human skin equivalent on fibroblast-populated collagen scaffold.	Acta Derm Venereol	91	387-391	2011	有
241		Shibui A, Nambu A, Shimura E, Yamaguchi S, Shiraishi C, Sato Y, Okumura K, Sugano S, Hozumi N, Nakae S.	Alteration of immune responses by N-acetylglucosaminyltransferase V during allergic airway inflammation.	Allergol Int	60	345-354	2011	有
242		Arae K, Oboki K, Ohno T, Hirata M, Nakae S, Taguchi T, Saito H, Nakajima T.	Cimetidine enhances antigen-specific IgE and Th2 cytokine production.	Allergol Int	60	339-344	2011	有
243	*	Takai T, Ikeda S.	Barrier dysfunction caused by environmental proteases in the pathogenesis of allergic diseases. [Review]	Allergol Int	60	25-35	2011	有
244		Sano Y, Yamada H, Ogawa C, Yamaguchi M.	Some asthmatics show elevation of the peripheral venous oxygen pressure (PvO ₂).	Allergol Int	60	109-110	2011	有
245		Oboki K, Nakae S, Matsumoto K, Saito H.	IL-33 and airway inflammation. [Review]	Allergy Asthma	3	81-88	2011	有
246		Ng W, Ikeda S.	Use of sun-protective items by Japanese pedestrians: a cross-sectional observational study.	Arch Dermatol	147	1167-1170	2011	有
247	*	Funakushi N, Yamaguchi T, Jiang J, Imamura S, Kuhara T, Suto H, Ueki R, Kase Y, Kobayashi H, Ogawa H, Ikeda S.	Ameliorating effect of Yokukansan on the development of atopic dermatitis-like lesions and scratching behavior in socially isolated NC/Nga mice.	Arch Dermatol Res	303	659-667	2011	有
248		Kawamoto T, Abe Y, Ito J, Makino F, Kojima Y, Usui Y, Ma J, Morimoto S, Yagita H, Okumura K, Takasaki Y, Akiba H.	Anti-T cell immunoglobulin and mucin domain-2 monoclonal antibody exacerbates collagen-induced arthritis by stimulating B cells.	Arthritis Res Ther	13	R47	2011	有
249	*	Nakano H, Ushio H.	An unexpected role for autophagy in degranulation of mast cells.	Autophagy	7	657-659	2011	有
250		Ito J, Harada N, Nagashima O, Makino F, Usui Y, Yagita H, Okumura K, Dorscheid DR, Atsuta R, Akiba H, Takahashi K.	Wound-induced TGF- β 1 and TGF- β 2 enhance airway epithelial repair via HB-EGF and TGF- α .	Biochem Biophys Res Commun	412	109-114	2011	有
251		Ma J, Usui Y, Takeda K, Harada N, Yagita H, Okumura K, Akiba H.	TIM-1 signaling in B cells regulates antibody production.	Biochem Biophys Res Commun	406	223-228	2011	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
252	*	Kanada S, Nishiyama C, Nakano N, Suzuki R, Maeda K, Hara M, Kitamura N, Ogawa H, Okumura K.	Critical role of transcription factor PU.1 in the expression of CD80 and CD86 on dendritic cells.	Blood	117	2211-2222	2011	有
253		Sakata-Yanagimoto M, Sakai T, Miyake Y, Saito TI, Maruyama H, Morishita Y, Nakagami-Yamaguchi E, Kumano K, Yagita H, Fukayama M, Ogawa S, Kurokawa M, Yasutomo K, Chiba S.	Notch2 signaling is required for proper mast cell distribution and mucosal immunity in the intestine.	Blood	117	128-134	2011	有
254		Itoh S, Kimura N, Axtell RC, Velotta JB, Gong Y, Wang X, Kajiwara N, Nambu A, Shimura E, Adachi H, Iwakura Y, Saito H, Okumura K, Sudo K, Steinman L, Robbins RC, Nakae S, Fischbein MP.	Interleukin-17 accelerates allograft rejection by suppressing regulatory T cell expansion.	Circulation	124	S187-196	2011	有
255	*	Ebihara N, Ohtomo K, Tokura T, Ushio H, Murakami A.	Effect of Tacrolimus on Chemokine Production by Corneal Myofibroblasts via Toll-Like Receptors, Compared With Cyclosporine and Dexamethasone.	Cornea	30	702-708	2011	有
256		Ishifune C, Maekawa Y, Nishida J, Kitamura A, Tanigaki K, Yagita H, Yasutomo K.	Notch signaling regulates the development of a novel type of Thy1-expressing dendritic cell in the thymus.	Eur J Immunol	41	1309-1320	2011	有
257		Ohwada A, Inami K, Onuma E, Matsumoto-Yamazaki M, Atsuta R, Takahashi K.	Bronchial reversibility with a short-acting β 2-agonist predicts the FEV1 response to administration of a long-acting β 2-agonist with inhaled corticosteroids in patients with bronchial asthma.	Exp Ther Med	2	619-623	2011	有
258		Takamura T, Harama D, Fukumoto S, Nakamura Y, Shimokawa N, Ishimaru K, Ikegami S, Makino S, Kitamura M, Nakao A.	Lactobacillus bulgaricus OLL1181 activates the aryl hydrocarbon receptor pathway and inhibits colitis.	Immunol Cell Biol	89	817-822	2011	有
259		Ishida W, Fukuda K, Sumi T, Ebihara N, Kajisako M, Matsuda H, Yagita H, Fukushima A.	Adjuvants determine the contribution of basophils to antigen sensitization in vivo.	Immunol Lett	136	49-54	2011	有
260	*	Aung G, Niyonsaba F, Ushio H, Kajiwara N, Saito H, Ikeda S, Ogawa H, Okumura K.	Catestatin, a neuroendocrine antimicrobial peptide, induces human mast cell migration, degranulation and production of cytokines and chemokines.	Immunology	132	527-539	2011	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
261	*	Le TA, Takai T, Vu AT, Kinoshita H, Chen X, Ikeda S, Ogawa H, Okumura K.	Flagellin induces the expression of thymic stromal lymphopoietin in human keratinocytes via Toll-like receptor 5.	Int Arch Allergy Immunol	155	31-37	2011	有
262	*	Takai T.	Missions of protease allergens in the epithelium. [Editorial]	Int Arch Allergy	154	3-5	2011	有
263		Potaczek D, Pieculewicz M, Mazur M, Branicka A, Nishiyama C, Okumura K, Undas A.	Very rare minor homozygous GG genotype of tissue factor +5466A>G mutation in a patient with two cryptogenic cerebrovascular ischemic events.	Int J Cardiol	147	e13-15	2011	有
264		Ebihara N, Matsuda A, Nakamura S, Matsuda H, Murakami A.	Role of the IL-6 classic and trans-signaling pathways in corneal sterile inflammation and wound healing.	Invset Ophthalmol Vis Sci	52	8549-8557	2011	有
265		Ishida W, Fukuda K, Sakamoto S, Koyama N, Koyanagi A, Yagita H, Fukushima A.	Regulation of experimental autoimmune uveoretinitis by anti-Delta-like ligand 4 monoclonal antibody.	Invest Ophthalmol Vis Sci	52	8224-8230	2011	有
266	*	Ushio H, Ueno T, Kojima Y, Komatsu M, Tanaka S, Yamamoto A, Ichimura Y, Ezaki J, Nishida K, Komazawa-Sakon S, Niyonsaba F, Ishii T, Yanagawa T, Kominami E, Ogawa H, Okumura K, Nakano H.	Crucial role for autophagy in degranulation of mast cells.	J Allergy Clin Immunol	127	1267-1276	2011	有
267		Nakamura Y, Harama D, Shimokawa N, Hara M, Suzuki R, Tahara Y, Ishimaru K, Katoh R, Okumura K, Ogawa H, Shibata S, Nakao A.	Circadian clock gene Period2 regulates a time-of-day-dependent variation in cutaneous anaphylactic reaction.	J Allergy Clin Immunol	127	1038-1045	2011	有
268	*	Nakano N, Nishiyama C, Yagita H, Koyanagi A, Ogawa H, Okumura K.	Notch1-mediated signaling induces MHC class II expression through the activation of class II transactivator promoter III in mast cells.	J Biol Chem	286	12042-12048	2011	有
269		Shukuya R, Hasegawa T, Niwa Y, Okuma K, Ikeda S.	Granulocyte and monocyte adsorption apheresis for generalized pustular psoriasis.	J Dermatol	38	1130-1134	2011	有
270		Aihara M, Hasegawa T, Okuyama Y, Hiruma M, Ikeda S.	Langerhans cell histiocytosis treated with narrow-band ultraviolet B.	J Dermatol	38	151-154	2011	有
271	*	Hoq MI, Niyonsaba F, Ushio H, Aung G, Okumura K, Ogawa H.	Human catestatin enhances migration and proliferation of normal human epidermal keratinocytes.	J Dermatol Sci	64	108-118	2011	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
272	*	Aung G, Niyonsaba F, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H.	<u>Elafin and secretory leukocyte protease inhibitor stimulate the production of cytokines and chemokines by human keratinocytes via MAPK/ERK and NF-kappaB activation.</u>	J Dermatol Sci	63	128-131	2011	有
273	*	Kawasaki J, Ushio H, Kinoshita H, Fukai T, Niyonsaba F, Takai T, Ogawa H, Okumura K, Ikeda S.	<u>Viral infection induces Thymic stromal lymphopoietin (TSLP) in human keratinocytes.</u>	J Dermatol Sci	62	131-134	2011	有
274	*	Aung G, Niyonsaba F, Ushio H, Hoq MI, Ikeda S, Ogawa H, Okumura K.	<u>A neuroendocrine antimicrobial peptide, catestatin, stimulates interleukin-8 production from human keratinocytes via activation of mitogen-activated protein kinases.</u>	J Dermatol Sci	61	142-144	2011	有
275	*	Potaczek DP, Nastalek M, Okumura K, Wojas-Pelc A, Undas A, Nishiyama C.	<u>An association of TLR2-16934A>T polymorphism and severity/phenotype of atopic dermatitis.</u>	J Eur Acad Dermatol Venereol	25	715-721	2011	有
276		Bassil R, Zhu B, Lahoud Y, Riella LV, Yagita H, Elyaman W, Khoury SJ.	<u>Notch ligand Delta-like 4 blockade alleviates experimental autoimmune encephalomyelitis by promoting regulatory T cell development.</u>	J Immunol	187	2322-2328	2011	有
277		Hams E, McCarron MJ, Amu S, Yagita H, Azuma M, Chen L, Fallon PG.	<u>Blockade of B7-H1 (programmed death ligand 1) enhances humoral immunity by positively regulating the generation of T follicular helper cells.</u>	J Immunol	186	5648-5655	2011	有
278		Suzukawa M, Nagase H, Ogahara I, Han K, Tashimo H, Shibui A, Koketsu R, Nakae S, Yamaguchi M, Ohta K.	<u>Leptin enhances survival and induces migration, degranulation and cytokine synthesis of human basophils.</u>	J Immunol	186	5254-5260	2011	有
279	*	Vu AT, Chen X, Xie Y, Kamijo S, Ushio H, Kawasaki J, Hara M, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H, Takai T.	<u>Extracellular double-stranded RNA induces TSLP via an endosomal acidification- and NF-kB-dependent pathway in human keratinocytes.</u>	J Invest Dermatol	131	2205-2212	2011	有
280		Penaloza-Macmaster P, Rasheed AU, Iyer SS, Yagita H, Blazar B, Ahmed R.	<u>Opposing effects of CD70 costimulation during acute and chronic viral infection.</u>	J Virol	85	6168-6174	2011	有
281		Potaczek DP, Nastalek M, Wojas-Pelc A, Okumura K, Undas A, Nishiyama C.	<u>Naturally occurring FCER1A N222K mutation - Its ethnicity-dependent distribution and a role in atopic dermatitis.</u>	Mol Immunol	48	979-980	2011	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	著者名	論文名	掲載雑誌	巻	頁	発表年	査読
282		Nakatsukasa M, Kawasaki S, Yamasaki K, Fukuoka H, <u>Matsuda A</u> , Kinoshita S.	Two novel mutations identified in three Japanese gelatinous drop-like corneal dystrophy families.	Mol Vis	17	965-970	2011	有
283		Ouyang Y, <u>Nakao A</u> , Fan E, Li Y, Zhao L, Zhang W, Han D, Zhang L.	Decreased expression of EBI3 and Foxp3 in CD4+CD25+ regulatory T cells in murine experimental allergic rhinitis.	ORL Otorhinolaryngol Relat Spec	73	313-320	2011	有
284		Kondo N, Suda Y, <u>Nakao A</u> , Oh-oka K, Suzuki K, Ishimaru K, Sato M, Tanaka T, Nagai A, Yamagata Z.	Maternal psychosocial factors determining the concentrations of transforming growth factor-beta in breast milk.	Pediatr Allergy Immunol	22	853-861	2011	有
285	*	Suzuki K, Kaminuma O, Yang L, <u>Takai T</u> , Mori A, Umezū-Goto M, Ohtomo T, Ohmachi Y, Noda Y, Hirose S, Okumura K, Ogawa H, Takada K, Hirasawa M, Hiroi T, Takaiwa F.	<u>Prevention of allergic asthma by vaccination with transgenic rice seed expressing mite allergen: induction of allergen-specific oral tolerance without bystander suppression.</u>	Plant Biotechnol J	9	982-990	2011	有
286		Otsuka A, Kubo M, Honda T, Egawa G, Nakajima S, Tanizaki H, Kim B, Matsuoka S, Watanabe T, <u>Nakae S</u> , Miyachi Y, Kabashima K.	Requirement of interaction between mast cells and skin dendritic cells to establish contact hypersensitivity.	PLoS One	6	e25538	2011	有
287		Ohno T, Oboki K, Morita H, Kajiwara N, Arae K, Tanaka S, Ikeda M, Iikura M, Akiyama T, Inoue J, Matsumoto K, Sudo K, Azuma M, <u>Okumura K</u> , Kamradt T, <u>Saito H</u> , <u>Nakae S</u> .	Paracrine IL-33 stimulation enhances lipopolysaccharide-mediated macrophage activation.	PLoS One	6	e18404	2011	有
288		Sweet RA, Ols ML, Cullen JL, Milam AV, <u>Yagita H</u> , Shlomchik MJ.	Facultive role for T cells in extrafollicular Toll-like receptor-dependent autoreactive B-cell responses in vivo.	Proc Natl Acad Sci USA	108	7932-7937	2011	有
289		Duheron V, Hess E, Duval M, Decossas M, Castaneda B, Klopper JE, Amoasii L, Barbaroux JB, Williams IR, <u>Yagita H</u> , Penninger J, Choi Y, Lezot F, Groves R, Paus R, Mueller CG.	Receptor activator of NF-kB (RANK) stimulates the proliferation of epithelial cells of the epidermo-pilosebaceous unit.	Proc Natl Acad Sci USA	108	5342-5347	2011	有

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

<図書>

No.	※	図書名	著者名	出版社名	総ページ数	発行年
1		皮膚疾患最新の治療2015-2016 (天疱瘡)	池田志孝:渡辺晋一, 古川福実(編)	南江堂, 東京	314	2015
2		今日の診断指針第7版(皮膚カン ジダ症)	池田志孝:金澤一, 永 井良三(総編集)	医学書院, 東京	2144	2015
3		EBMを活かす呼吸器診療	高橋和久, 児玉裕三 (編集)	メジカルビュー社, 東京	592	2015
4		新版 臨床免疫学 第3版(アレル ギー)	高井敏朗:山田俊幸, 大戸 齊, 渥美達也, 三 宅幸子, 山内一由(編)	講談社, 東京	336	2014
5		Cytokine Frontiers (The roles of IL-17A and IL-17F in infection and inflammatory disorders)	Ishigame H, Nakae S: Y Yoshimoto & Y Yoshimoto(ed)	Springer, Deutschland	396	2014
6		呼吸器内科診療マニュアル	高橋和久, 熱田 了(編)	日本医学館, 東京	743	2014
7		Annual Review 呼吸器2014(サブ セットからみた肺胞マクロファージ)	永井厚志, 巽浩一郎, 桑野和善, 高橋和久 (編集)	中外医学社, 東京	274	2014
8		イチから知りたいアレルギー診療 (アレルギー性結膜疾患)	海老原伸行:大久保公 裕(編)	全日本病院出版会, 東京	170	2014
9		眼科診療クオリファイ 25角膜混 濁のすべて(春季カタルにおいて 結膜と角膜の間でどのような分子 の相互作用がありますか)	海老原伸行:井上幸次 (編)	中山書店, 東京	280	2014
10		スマート栄養管理術123 栄養と スポーツの管理が重要であるこ れだけの理由(肌の健康に役立つ 食事とは)	長谷川敏男, 池田志孝, 高橋徳江:富野康日己 (編著)	医歯薬出版, 東京	272	2014
11		Handbook of Proteolytic Enzymes (Mite endopeptidase 1)	Takai T:Neil D. Rawlings and Guy S. Salvesen(ed)	Academic Press, Oxford	4101	2013
12		Handbook of Proteolytic Enzymes (Serine endopeptidase allergens from Dermatophagoides species)	Takai T:Neil D Rawlings and Guy S Salvesen (ed)	Academic Press Oxford	4101	2013
13		標準免疫学 第3版(細胞傷害性 T細胞(CTL))	八木田秀雄:谷口 克 (監修)宮坂昌之, 小安 重夫(編集)	医学書院, 東京	472	2013
14		分子腎臓病学実験操作法—腎 臓病の病態解明にむけて(4.遺 伝子発現調節の解析-レポー ターアッセイ)	西山千春	文光堂, 東京	256	2013
15		分子腎臓病学実験操作法—腎 臓病の病態解明にむけて(5.遺 伝子発現調節の解析-ゲルシフト アッセイ)	西山千春	文光堂, 東京	256	2013
16		臨床病態学 小児編(第6章消化 器疾患)	清水俊明, 遠藤文夫: 北村 聖(総編集), 鈴 木葉子, 本間 哲(編)	ヌーヴェルヒロカワ, 東京	500	2013

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	図書名	著者名	出版社名	総ページ数	発行年
17		専門医のための眼科診療クオリファイ15 メディカラオプサルモロジー眼科薬物治療のすべて(アトピー角結膜炎)	海老原伸行:村田敏規(編)	中山書店, 東京	499	2013
18		今日の治療指針(アレルギー性結膜疾患)	海老原伸行:山口 徹, 北原光夫, 福井次矢(総編集)	医学書院, 東京	1376	2013
19		内科学 第10版(アレルギーに關与する細胞・分子)	山口正雄:矢崎義雄(総編集)	朝倉書店, 東京	2872	2013
20		内科学 第10版(薬物アレルギー)	山口正雄:矢崎義雄(総編集)	朝倉書店, 東京	2872	2013
21		内科学書 改訂第8版(アナフィラキシー、血清病、薬物アレルギー)	山口正雄:小川 聡(総編集)	中山書店, 東京	3000	2013
22		今日の処方 改訂第5版(薬物アレルギー)	山口正雄:浦部晶夫, 大田健, 川合眞一, 島田和幸, 菅野健太郎(編)	南江堂, 東京	1220	2013
23		今日の小児治療指針 第15版(13章消化器疾患、腹部疾患)	清水俊明(責任編集):大関武彦, 古川 漸, 横田俊一郎, 水口 雅(総編集)	医学書院, 東京	1028	2012
24		最新ガイドライン準拠 小児科診断・治療指針(16章消化器疾患)	清水俊明(責任編集):遠藤文夫(総編集)	中山書店, 東京	1150	2012
25		今日の治療指針私はこちら治療している(乳幼児嘔吐下痢症)	清水俊明:山口徹他(総編集)	医学書院, 東京	2064	2012
26		症例から学ぶ 周産期診療ワークブック(ミルクアレルギー)	大塚宜一, 清水俊明:日本周産期・新生児医学会教育・研修委員会(編)	メジカルビュー社(東京)	472	2012
27		(第2章第4節 その他のアレルギーモデル)	森田英明, 中江 進:岩倉洋一郎(編)	株式会社エル・アイ・シー, 東京	582	2011
28		モデル動物利用マニュアル(疾患モデルの作製と利用 免疫疾患)(第3章第2節第14項 IL-25)	梶原直樹, 中江 進:岩倉洋一郎(編)	株式会社エル・アイ・シー, 東京	582	2011
29		モデル動物利用マニュアル(疾患モデルの作製と利用 免疫疾患)(第3章第節第16項 IL-31)	南部あや, 中江 進:岩倉洋一郎(編)	株式会社エル・アイ・シー, 東京	582	2011
30		モデル動物利用マニュアル(疾患モデルの作製と利用 免疫疾患)(第3章第節第17項 IL-33)	大野建州, 中江 進:岩倉洋一郎(編)	株式会社エル・アイ・シー, 東京	582	2011
31		"Th17 cells in health and disease" (The roles of IL-17A and IL-17F in mucosal infection and allergy)	Ishigame H, Nakae S, and Iwakura Y: S Jiang (ed)	Springer Science + Business Media, LLC, New York	376	2011

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

<学会発表>

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
1	**	Nakamura Y, Shibata S, Nakao A	<u>Inhibition of IgE-Mediated Allergic Reaction By Pharmacologically Targeting the Circadian Clock</u>	2016 AAAAI Annual Meeting	2016年3月	Los Angeles (USA)
2		Ihara T, Kira S, Miyamoto T, Sawada N, Nakagomi H, Mitsui T, Kobayashi H, Yoshiyama M, Takeda M, Nakamura Y, Nakao A, Shigetomi E, Shibata K, Shinozaki Y, Koizumi S	Clock genes regulate the circadian rhythm of Piezo1 and TRPV4 expressions and intracellular Ca ²⁺ influx after stretch stimulation in cultured urothelial cells	31th Annual Congress of the European Association of Urology Abstracts	2016年3月	Munich (Germany)
3	**	中野信浩, 本庄明日香, 西山千春, 大塚宜一, 清水俊明, 奥村 康, 小川 秀興	<u>Notchシグナル阻害による食物アレルギーの症状の軽減</u>	日本農芸化学会 2016年度大会	2016年3月	札幌
4	**	笠倉和巳, 八代拓也, 原むつ子, 奥村 康, 西山千春	<u>マスト細胞におけるC/EBPα 遺伝子の発現抑制の調節</u>	日本農芸化学会 2016年度大会	2016年3月	札幌
5		八代拓也, 長岡雅典, 笠倉和巳, 西山千春	<u>樹状細胞の活性化反応における核内受容体型転写因子NR4a3の機能解析</u>	日本農芸化学会 2016年度大会	2016年3月	札幌
6		山本真也, 中野信浩, 八代拓也, 笠倉和巳, 奥村 康, 西山 真, 西山千春	<u>マウスIgE抗体への結合活性が上昇したヒトFcϵRIαサブユニット改変体の作製</u>	日本農芸化学会 2016年度大会	2016年3月	札幌
7		山口昌樹, 八代拓也, 笠倉和巳, 西山千春	<u>樹状細胞においてRALDH2発現を亢進する食品成分の探索</u>	日本農芸化学会 2016年度大会	2016年3月	札幌
8		北浦次郎	The novel role of an activating receptor LMIR7 in mast cell- and IgE-dependent anaphylaxis	第4回ITAM worksho	2016年2月	鹿児島
9	**	Niyonsaba F, Okumura K, Ogawa H	<u>Effects of antimicrobial peptide derived from insulin-like growth factor-binding protein 5, AMP-IBP5, on human mast cell functions</u>	日本研究皮膚科学会第40回年次学術大会・総会	2015年12月	岡山
10	**	Nakano N, Yamazaki S, Nishiyama C, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	<u>TGF-β-induced suppression of mast cell functions is mediated by the transcription factor Ehf</u>	日本研究皮膚科学会第40回年次学術大会・総会	2015年12月	岡山
11	**	Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H	<u>Angiogenic peptide (AG)-30/5C activates human keratinocytes to produce cytokines/chemokines, migrat</u>	日本研究皮膚科学会第40回年次学術大会・総会	2015年12月	岡山
12	**	Hattori F, Ikeda S, Okumura K, Tominaga M, Takamori K, Ogawa H, Okamoto K, Niyonsaba F	<u>Host defense protein S100A7/psoriasin regulates pores in the epidermis: aquaporins and tight junctions</u>	日本研究皮膚科学会第40回年次学術大会・総会	2015年12月	岡山
13	**	Chieosilapatham P, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	<u>The novel antimicrobial peptide derived from insulin-like growth factor-binding protein 5 (AMP-IBP5) activates normal human keratinocytes</u>	日本研究皮膚科学会第40回年次学術大会・総会	2015年12月	岡山

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
14	**	Shimura S, Takai T, Iida H, <u>Kamijo S</u> , Ochi H, Maruyama N, Nishioka I, Punyada S, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Ogawa H, Okumura K, Ikeda S	<u>Murine models of epicutaneous sensitization to protease allergen, which leads to airway eosinophilia upon subsequent airway challenge</u>	日本研究皮膚科学会第40回年次学術大会・総会	2015年12月	岡山
15	**	Ochi H, Takai T, <u>Kamijo S</u> , Shimura S, Maruyama N, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	<u>Subcutaneous presensitization to protease antigen and IL-33-dependent airway responses cooperatively contribute to airway inflammation</u>	日本研究皮膚科学会第40回年次学術大会・総会	2015年12月	岡山
16	**	Umehara Y, Kamata Y, Tominaga M, Niyonsaba F, Ogawa H, Takamori K	<u>Effects of antimicrobial peptides on expression of exon guidance molecules in normal human epidermal keratinocytes</u>	日本研究皮膚科学会第40回年次学術大会・総会	2015年12月	岡山
17		Kamijo M, Wada A, Mineki Ro, Sakanishi T, <u>Ikeda S</u>	Prostaglandin E receptor4 inhibition restores UVB-induced downregulation of ATP2A2/SEARCA2 in cultures normal human keratinocytes	日本研究皮膚科学会第40回年次学術大会・総会	2015年12月	岡山
18		竹内裕美, 八代拓也, 笠倉和巳, <u>西山千春</u>	T細胞におけるCCR7発現制御機構の解析	第38回日本分子生物学会年会, 第88回日本生化学会大会	2015年12月	神戸
19		中村秀輔, 八代拓也, 笠倉和巳, <u>西山千春</u>	マウスランゲルハンス細胞においてCd207遺伝子は転写調節因子PU.1によって転写制御される	第38回日本分子生物学会年会, 第88回日本生化学会大会	2015年12月	神戸
20		太田彩花, 笠倉和巳, 八代拓也, <u>西山千春</u>	マスト細胞におけるIL-10発現制御機構の解明	第38回日本分子生物学会年会, 第88回日本生化学会大会	2015年12月	神戸
21		山口昌樹, 八代拓也, 笠倉和巳, <u>西山千春</u>	樹状細胞におけるRALDH2の発現制御機構	第38回日本分子生物学会年会, 第88回日本生化学会大会	2015年12月	神戸
22	**	<u>Niyonsaba F</u>	<u>Multifunctions of antimicrobial (host defense) proteins in the skin immunity</u>	The 2nd Indochina Conference of Dermatology	2015年11月	Phnom Penh (Cambodia)
23	**	高井敏朗, 西岡いずみ, 飯田秀雄, 上條清嗣, 清村咲子, 越智啓乃, 丸山奈津子, 奥村 康, 小川秀興, 池田志幸	<u>Epicutaneous allergic sensitization by synergy between allergen protease-activity and mechanical skin barrier damage in mice</u>	第29回表皮細胞研究会	2015年11月	佐賀
24		<u>Nakao A</u>	Allergy:From Bench to Bedside and Beyond	第44回日本免疫学会学術集会「Overview Talk」	2015年11月	札幌
25	**	Nakano N, Nishiyama C, <u>Yagita H</u> , Okumura K, Ogawa H	<u>Notch signaling enhances mast cell cytokine production through direct and indirect mechanisms</u>	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
26	**	Kamijo S, Takai T, Hara M, Matsuda H, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Ichikawa S, Ogawa H, Okumura K	Subcutaneous allergic sensitization o protease allergen is depend on mast cells but not IL-33 : Distinct mechanisms between subcutaneous and intranasal routes	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
27		Isobe M, Izawa K, Maehara A, Matsukawa T, Kaitani A, Okumura K, Kitamura T, Kitauro J	The novel role of LMIR7/CLM-3 in mast cell- and IgE-dependent anaphylaxis	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
28		Negishi N, Uchida K, Sato K, Kametani M, Okumura K, Habu S	Psooible potential of TIGIT for serial transfer of anaergy status into activated naïve T cells	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
29		Uchida K, Negishi N, Basuda H, Kawai F, Okumura K, Habu S	In vitro incuction of serial transter of allospecific suppression potential in human peripheral T cell	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
30		Motozono C, Tsuji-Kawahara S, Takamura S, Yagita H, Miyazawa M	Vaccine-elicited preferential induction of germinal center follicular helper at cells is associated with protection against retroviral infection	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
31		Matsuoka S, Yagita H, Ishii Y	Cytolytic anti-pan HLA-Class II mAb and anti-pan MHC class I mAb directly induces lymphoma cell death via large pore formation	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
32		Kondo Y, Ohno T, Bhingare AC, Yagita H, Harada K, Azuma M	Combinational immune checkpoint blockade with Vista and CTLA-4 enhances anti-tumor responses	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
33	**	Kanazawa K, Niyonsaba F, Okumura K, Ogawa H	A novel host defense peptide, AG-30/5C, activates human mast cell functions	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
34		Yashiro T, Okumura K, Nishiyama C	PU.1 is involved in migration of dendritic cells via regulating expression of CCR7	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
35		Oda Y, Kasakura K, Yashiro T, Okumura K, Nishiyama C	PU.1 regulates expression of the Syk gene in mast cells	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
36	**	Miura R, Kasakura K, Nakano N, Yashiro T, Nishiyama C	PU.1 regulates MHC class II expression by transactivation of CIITA in plasmacytoid dendritic cells	第44回日本免疫学会学術集会	2015年11月	札幌
37	**	越智啓乃, 高井敏朗, 飯田秀雄, 上條清嗣, 清村咲子, 西岡いずみ, 丸山奈津子, 奥村 康, 小川秀興, 池田志幸	プロテアーゼアレルゲンの経皮的投与による皮膚バリア機能障害および抗体産生誘導の検討	第45回日本皮膚アレルギー・接触性皮膚炎学会総会学術大会	2015年11月	島根
38	**	中村勇規, 中尾篤人, 柴田重信	薬理学的概日時計制御によるIgE依存性アレルギー反応の制御	第22回日本時間生物学会学術大会	2015年11月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
39	**	Yamazaki S, Nakano N, Honjo A, Hara M, Suzuki R, Ohtsuka Y, Okumura K, Ogawa H, Shimizu T	The transcription factor Ehf is involved in TGF- β -induced suppression of Fc ϵ RI and c-Kit expression and Fc ϵ RI-mediated activation in mast cells	23rd of the World Allergy Congress	2015年10月	Seoul (Korea)
40		Baba Y, Yamazaki S, Inage E, Mori M, Kantake M, Ohtsuka Y, Shimizu T	Antigen-specific IgA plays an important role in mucosal immune response in allergic children: Measurement of secretory IgA and antigen-specific IgA	23rd of the World Allergy Congress	2015年10月	Seoul (Korea)
41		神保圭佑, 丘 逸宏, 新井喜康, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬 圭, 青柳 陽, 藤井 徹, 工藤 孝広, 浅井宣美, 大塚宜一, 河野達夫, 清水俊明	腹部超音波ドップラー検査による新生児・乳児消化管アレルギー患児の消化管血流に関する検討	第42回日本小児栄養消化器肝臓学会	2015年10月	広島
42	**	伊沢久未, 磯部優理, 奥村 康, 北村俊雄, 北浦次郎	Disrupting ceramide-LMIR3 interaction prevents bacterial sepsis by stimulating neutrophil recruitment	第43回日本臨床免疫学会	2015年10月	神戸
43		石森絢子, 原田紀宏, 桂蓉子, 原田園子, 松野圭, 竹重智仁, 田辺悠記, 笹野仁史, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤 潤, 長島 修, 熱田 了, 高橋和久	OVA誘導性喘息モデルマウスとLPS誘導性急性肺障害モデルマウスの肺胞マクロファージにおけるPGE2産生誘導	第25回国際喘息学会日本・北アジア部会	2015年9月	横浜
44		石森絢子, 原田紀宏, 桂蓉子, 原田園子, 松野圭, 竹重智仁, 田辺悠記, 笹野仁史, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤 潤, 長島 修, 熱田 了, 高橋和久	キチン誘導性気道炎症におけるPGE2産生と肺胞マクロファージの役割	第25回国際喘息学会日本・北アジア部会	2015年9月	横浜
45		原田紀宏, 原田園子, 石森絢子, 松野 圭, 竹重智仁, 田辺悠記, 笹野仁史, 桂 蓉子, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤 潤, 熱田 了, 出原賢治, 高橋和久	気管支喘息における血清テネシシンCの解析	第25回国際喘息学会日本・北アジア部会	2015年9月	横浜
46		原田園子, 原田紀宏, 石森絢子, 桂 蓉子, 松野圭, 竹重智仁, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤 潤, 熱田 了, 千葉麻子, 出原賢治, 三宅幸子, 高橋和久	気管支喘息における末梢血中 mucosal-associated invariant T 細胞の解析	第25回国際喘息学会日本・北アジア部会	2015年9月	横浜

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
47		糸魚川幸成, 原田紀宏, 石森絢子, 原田園子, 桂蓉子, 松野圭, 竹重智仁, 田辺悠記, 笹野仁史, 牧野文彦, 伊藤潤, 長島修, 熱田了, 高橋和久	気道上皮細胞におけるTWEAKのTGF- β が誘導するEMTへの影響	第25回国際喘息学会日本・北アジア部会	2015年9月	横浜
48		伊藤潤, 原田紀宏, 牧野文彦, 桂蓉子, 石森絢子, 糸魚川幸成, 松野圭, 竹重智仁, 田辺悠記, 笹野仁史, 梶山雄一郎, 長島修, 熱田了, 高橋和久	長時間作用型抗コリン薬の長期的な臨床効果	第25回国際喘息学会日本・北アジア部会	2015年9月	横浜
49		松野圭, 原田紀宏, 桂蓉子, 原田園子, 伊藤潤, 石森絢子, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 竹重智仁, 梶山雄一郎, 長島修, 熱田了, 高橋和久	当院における気管支喘息に対するオマリズマブの長期臨床効果の検討	第25回国際喘息学会日本・北アジア部会	2015年9月	横浜
50		原田紀宏, 桂蓉子, 石森絢子, 原田園子, 松野圭, 竹重智仁, 田辺悠記, 笹野仁史, 牧野文彦, 伊藤潤, 梶山雄一郎, 長島修, 熱田了, 高橋和久	喘息モデルマウスと急性肺障害モデルマウスにおける肺胞マクロファージの解析	第25回国際喘息学会日本・北アジア部会	2015年9月	横浜
51		根岸尚子, 内田浩一郎, 垣生園子	"infectious suppression"の機序解明	第30回自己免疫研究会	2015年7月	東京
52		前田佑一郎, 長谷川敏男, 飯田秀雄, 坂本 淳, 和田章乃, 池田志孝	脂肪組織由来幹細胞による表皮再生医療の可能性	第33回日本美容皮膚科学会総会・学術大会	2015年7月	大阪
53		長谷川琴葉, 馬場洋介, 大塚宜一, 米山俊之, 林麻貴, 横倉友諒, 横田麗菜, 本庄明日香, 稲毛英介, 森 真理, 清水俊明	食物アレルギー児を対象とした栄養評価の検討	第25回台東区小児科医会	2015年6月	東京
54	**	Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H	Angiogenic peptide-30 (AG-30) activates primary human keratinocytes to produce cytokines/ chemokines via MrgX receptors	2015 Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology	2015年5月	Atlanta (USA)
55	**	Sugita J, Matsuda A, Asada Y, Ebihara N, Murakami A, Nakae S	The Role of Group 2 Innate lymphoid Cells (ILC2s) in Mouse Models of Papain-Induced Conjunctivitis	ARVO 2015 Annual Meeting	2015年5月	Denver (USA)
56	**	Asada Y, Nakae S, Hori K, Sugita J, Ebihara N, Murakami A, Matsuda A	The roles of epithelial cell derived type 2 initiating cytokines in experimental allergic conjunctivitis The roles of epithelial cell derived type 2 initiating cytokines in experimental allergic conjunctivitis	ARVO 2015 Annual Meeting	2015年5月	Denver (USA)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
57	**	Matsukawa T, Izawa K, Okumura K, Teshima T, Kitamura T, Kitaura J	Ceramide-CD300f binding suppresses experimental colitis by inhibiting ATP-mediated mast cell activation	THE AMERICAN ASSOCIATION OF IMMUNOLOGISTS IMMUNOLOGY 2015	2015年5月	New Orleans (USA)
58		Iida H, Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, Ikeda S	Keratinocyte progenitor cells in human subcutaneous adipose tissue.	The Society for Investigative Dermatology 2015 Annual Meeting	2015年5月	Atlanta (USA)
59		本間由希子, 平澤祐輔, 池田志孝, 眞野訓, 富野康日己	紅皮症を呈したIgG4関連疾患の1例	第114回日本皮膚科学会総会	2015年5月	横浜
60	**	西岡いずみ, 高井敏朗, 飯田秀雄, 上條清嗣, 清村咲子, 越智啓乃, 丸山奈津子, 奥村 康, 小川秀興, 池田志孝	パパインの経皮感作マウスモデルによるプロテアーゼ活性依存的な特異的抗体産生誘導	第114回日本皮膚科学会総会	2015年5月	横浜
61	**	越智啓乃, 高井敏朗, 飯田秀雄, 上條清嗣, 清村咲子, 西岡いずみ, 丸山奈津子, 奥村 康, 小川秀興, 池田志孝	パパイン皮下投与感作マウスのアトピーマーチにおけるIL-33の関与	第114回日本皮膚科学会総会	2015年5月	横浜
62	**	伊沢久未, 奥村 康, 北村俊雄, 北浦次郎	シンポジウム7: マウスおよびヒトLMIR3のリガンド同定と機能解析	第64回日本アレルギー学会学術大会 [シンポジウム]	2015年5月	東京
63	**	中江 進	シンポジウム18: 「アレルギー疾患とマウスモデル」レビュートーク	第64回日本アレルギー学会学術大会 [シンポジウム]	2015年5月	東京
64	**	高井敏朗, 上條清嗣, 小川秀興, 池田志孝, 奥村 康	シンポジウム18: 「アレルギー疾患とマウスモデル」マウスモデルを用いたアレルゲンの生物活性の解析	第64回日本アレルギー学会学術大会 [シンポジウム]	2015年5月	東京
65	**	北浦次郎	シンポジウム18: 「アレルギー疾患とマウスモデル」セラミドによるアレルギー性炎症の制御	第64回日本アレルギー学会学術大会 [シンポジウム]	2015年5月	東京
66	**	中野信浩, 西山千春, 八木田秀雄, 奥村 康, 小川秀興	Notchシグナルによるマスト細胞のTh2サイトカイン産生増強メカニズムの解析	第64回日本アレルギー学会学術大会	2015年5月	東京
67	**	清村咲子, 高井敏朗, 飯田秀雄, 上條清嗣, 越智啓乃, 丸山奈津子, 西岡いづみ, 齋藤博久, 中江進, 小川秀興, 池田志孝, 奥村 康	プロテアーゼ抗原塗布とテープストリッピングはIL-33非依存的に皮膚炎症および抗体産生を促進する	第64回日本アレルギー学会学術大会	2015年5月	東京
68	**	中村真浩, 牛尾博子, 三輪正人, Sharif M Hasan, 花尾麻美, 安藤 力, 原むつ子, 奥村康, 小川秀興, 中村真二, 畠山佳欧里, 神谷和作, 池田勝久	鼻粘膜におけるフィラグリンの局在と発現	第64回日本アレルギー学会学術大会	2015年5月	東京
69	**	河内貴広, 中村勇規, 中尾篤人	IL-33依存性マスト細胞応答は時計遺伝子Clockにより制御される	第64回日本アレルギー学会学術大会	2015年5月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
70	**	安藤典子, 中村勇規, 石丸かよ子, 島田眞路, 中尾篤人	スギ花粉症患者好塩基球のスギ花粉に対する反応性の日内変動	第64回日本アレルギー学会学術大会	2015年5月	東京
71	**	齋藤一步, 大岡杏子, 久本雅嗣, 奥田 徹, 中尾篤人	レスベラトロール二量体であるε-ビニフェリンによるIgE依存性アレルギー反応の抑制効果	第64回日本アレルギー学会学術大会	2015年5月	東京
72		石森絢子, 原田紀宏, 桂蓉子, 原田園子, 松野 圭, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤潤, 長島 修, 熱田了, 高橋和久	OVA誘導性喘息モデルとLPS誘導性急性肺障害モデルマウスの肺胞マクロファージにおけるPGE2産生誘導	第64回日本アレルギー学会学術大会	2015年5月	東京
73		石森絢子, 原田紀宏, 桂蓉子, 原田園子, 松野 圭, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤潤, 長島 修, 熱田了, 高橋和久	肺胞マクロファージにおけるキチン誘導性PGE2産生	第64回日本アレルギー学会学術大会	2015年5月	東京
74		Hosoi K, Kudo T, Obayashi N, Ikuse T, Jimbo K, Aoyagi Y, Fujii T, Ohtsuka Y, Shimizu T	Increased expression of interleukin-26 in the mucosa of pediatric inflammatory bowel disease	The 11th Congress of the Asian Society for Pediatric Research & the 118th Annual Meeting of the Japan Pediatric Society	2015年4月	大阪
75		山崎 晋, 本庄明日香, 森真理, 青柳陽, 鈴木光幸, 藤井 徹, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明	当院における好酸球性消化管疾患12例の検討	第118回日本小児科学会学術集会	2015年4月	大阪
76		石森絢子, 原田紀宏, 桂蓉子, 原田園子, 松野 圭, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤潤, 長島 修, 熱田了, 高橋和久	OVA誘導性喘息モデルマウスの肺胞マクロファージにおけるPGE2産生誘導	第55回日本呼吸器学会学術講演会	2015年4月	東京
77		石森絢子, 原田紀宏, 桂蓉子, 原田園子, 松野 圭, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤潤, 長島 修, 熱田了, 高橋和久	キチンによる肺胞マクロファージのPGE2産生誘導	第55回日本呼吸器学会学術講演会	2015年4月	東京
78	**	中野信浩, 山崎 晋, 西山千春, 大塚宜一, 清水俊明, 奥村 康, 小川秀興	TGF-βによるマスト細胞機能の抑制を仲介する転写因子Ehfの機能解析	日本農芸化学会2015年度大会	2015年3月	岡山
79	**	笠倉和巳, 原 むつ子, 奥村 康, 西山千春	菌体成分によるマスト細胞のFCεRI発現制御	日本農芸化学会2015年度大会	2015年3月	岡山
80	**	三浦亮介, 笠倉和巳, 中野信浩, 前田隆浩, 八代拓也, 西山千春	形質細胞様樹状細胞におけるMHC class II発現制御因子CIITAの転写調節に対するPU.1の役割	日本農芸化学会2015年度大会	2015年3月	岡山
81	**	八代拓也, 奥村 康, 西山千春	マスト細胞においてGATA3はTh2型サイトカインの発現を制御する	日本農芸化学会2015年度大会	2015年3月	岡山
82		森貞志穂, 岩永直樹, 富田武郎, 西山千春, 葛山智久, 西山 真	高度高熱菌Thermus thermophilusにおけるArgRを介した新規アルギニン生合成転写調節機構	日本農芸化学会2015年度大会	2015年3月	岡山

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
83	**	北浦次郎	Physiological roles of an inhibitory LMIR3 and an activating LMIR5	第3回ITAM workshop	2015年3月	福岡
84	**	北浦次郎	シンポジウム ペア型受容体 LMIR/CD300による敗血症の制御機構	第88回日本薬理学会年会 [シンポジウム]	2015年3月	名古屋
85		Baba Y, Yokota R, Yagisawa H, Yamazaki S, Ishida A, Inage E, Mori M, Ohtsuka Y, Shimizu T	Serum zinc and secretory IgA levels are important factors in children with food allergy	The 71th Annual Meeting of American Academy of Allergy Asthma and Immunology	2015年2月	Houston (USA)
86		Kamachi F, Harada N, Ito J, Takahashi K, Okumura K, Miyake S, Akiba H	Anti-TIM-4 mAb ameliorates allergic lung inflammation	The Multifaceted Roles of Type 2 Immunity	2014年12月	Bruges (Belgium)
87		垣生園子	次世代T細胞アナジーの文化誘導と伝承	角膜カンファランス 2015 第39回日本角膜学会総会/第31回日本角膜移植学会 [シンポジウム]	2015年2月	高知
88	**	Izawa K, Isobe M, Matsukawa T, Maehara A, Takahashi M, Kaitani A, Okumura K, Kitamura T, Kitaura J	Disrupting ceramide-LMIR3 interaction prevents bacterial sepsis by stimulating neutrophil recruitment	第43回日本免疫学会学術集会	2014年12月	京都
89	**	Kamijo S, Takai T, Hara M, Matsuda H, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Ichikawa S, Ogawa H, Okumura K	Distinct mechanisms for allergic sensitization to protease allergen between subcutaneous and intranasal routes	第43回日本免疫学会学術集会	2014年12月	京都
90	**	Matsukawa T, Izawa K, Isobe M, Takahashi M, Maehara A, Kaitani A, Okumura K, Kitamura T, Kitaura J	LMIR3/CD300f deficiency aggravates DSS-induced colitis	第43回日本免疫学会学術集会	2014年12月	京都
91	**	Kasakura K, Yashiro T, Okumura K, Nishiyama C	Regulation of soluble ST2 expression in mast cells	第43回日本免疫学会学術集会	2014年12月	京都
92		Negishi N, Sato T, Kametani Y, Hori S, Yagita H, Okumura K and Habu S	The suppression of naive T cells are required cell to cell contact by TSST-1 induced energy T cells	第43回日本免疫学会学術集会	2014年12月	京都
93		Arima K, Ohta S, Sirabashi H, Masuoka M, Ontsuka K, Suzuki S, Suto H, Ikeda S, Izuhara K	Contributes to epidermal hyperplasia in psoriasis common permatitis	第43回日本免疫学会学術集会	2014年12月	京都
94	**	Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H	AG-30 enhances the production of cytokines/chemokines in human primary keratinocytes via MAPK and NF-κB activation	日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会・総会	2014年12月	大阪
95	**	Umehara Y, Kamata Y, Tominaga M, Niyonsaba F, Takamori K	Effects of antimicrobial peptides on semaphorin 3A expression in normal human epidermal keratinocytes	日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会・総会	2014年12月	大阪

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
96	**	Nakano N, Nishiyama C, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	Maturation of mucosal mast cells is promoted by Notch signaling	日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会・総会	2014年12月	大阪
97	**	Yamada T, Ushio H, Niyonsaba F, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	Roles of autophagy in degranulation and regranulation of mast cells	日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会・総会	2014年12月	大阪
98	**	Ochi H, Takai T, Kamijo S, Shimura S, Maruyama N, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	Subcutaneous presensitization to protease antigen enhances protease-induced allergic airway inflammation	日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会・総会	2014年12月	大阪
99	**	Shimura S, Takai T, Iida H, Hirasawa Y, Kamijo S, Ochi H, Nishioka I, Maruyama N, Hara M, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	The role of protease allergens in the establishment of epicutaneous sensitization	日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会・総会	2014年12月	大阪
100		Mabuthi T, Ota T, Manabe M, Ikona N, Ozawa A, Terui T, Ikeda S, Inoko H, Oka K	HAL-C*12:02 is a susceptibility factor in late-onset type of psoriasis in Japanese	日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会・総会	2014年12月	大阪
101		Iida H, Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, Ikeda S	Keratinocyte progenitor cells in human subcutaneous adipose tissue	日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会・総会	2014年12月	大阪
102		Sakamoto A, Hasegawa T, Wada A, Fukai T, Iida H, Ikeda S	Keratinocytes progenitor cells reside in human subcutaneous adipose tissue	第28回表皮細胞研究会	2014年12月	鹿児島
103		Ikeda S	The role of Tcf3 in wound healing and cancer	第28回表皮細胞研究会	2014年12月	鹿児島
104		山崎 晋, 上田琴葉, 林 麻紀, 鈴木有里, 横倉友諒, 横田麗菜, 稲毛英介, 馬場洋介, 森 真理, 千葉幸英, 大塚宜一, 清水俊明	好酸球性消化管疾患の小児2例	第51回日本小児アレルギー学会	2014年11月	四日市市(三重県)
105		稲毛英介, 林 麻貴, 上田琴葉, 鈴木有里, 横倉友諒, 石田明日香, 山崎 晋, 馬場洋介, 森 真理, 大塚宜一, 松原知代, 清水俊明	関東近隣の有床病院における経口食物負荷試験実施状況について	第51回日本小児アレルギー学会	2014年11月	四日市市(三重県)
106	**	中尾篤人	Temporal regulation of allergic reaction by the circadian clock. アレルギーと概日時計	第21回日本時間生物学会学術大会 [シンポジウム]	2014年11月	福岡
107	**	三浦亮介, 笠倉和巳, 中野信浩, 前田隆造, 八代拓也, 西山千春	PU.1は形質細胞様樹状細胞において, CIITA第3プロモーター制御を介してMHC class II発現に寄与する	第37回日本分子生物学会年会	2014年11月	横浜
108	**	堀谷透志, 笠倉和巳, 斎藤臣雄, 長田裕之, 八代拓也, 西山千春	ベタメタゾンはマスト細胞のFcεRI発現を抑制する	第37回日本分子生物学会年会	2014年11月	横浜
109	**	松川敏大, 伊沢久未, 北村俊雄, 北浦次郎	抑制型レセプター LMIR3/CD300fの欠損はDSS腸炎を悪化させる	第37回日本分子生物学会年会	2014年11月	横浜
110		野村くるみ, 八代拓也, 笠倉和巳, 西山千春	樹状細胞におけるCCL22/MDCの発現制御機構の解析	第37回日本分子生物学会年会	2014年11月	横浜

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
111		長岡雅典, 八代拓也, 笠倉和巳, 西山千春	樹状細胞における転写制御因子NR4a3の機能解析	第37回日本分子生物学会年会	2014年11月	横浜
112	**	西岡いずみ, 高井敏朗, 飯田秀雄, 上條清嗣, 清村咲子, 越智啓乃, 丸山奈津子, 原むつ子, 奥村康, 小川秀興, 池田志孝	プロテアーゼアレルギーの経皮的投与による皮膚バリア機能低下および抗体産生誘導の検討	第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会	2014年11月	仙台
113		横田麗菜, 馬場洋介, 林麻貴, 上田琴葉, 横倉友諒, 山崎 晋, 石田明日香, 稲毛英介, 森 真理, 八木裕美, 鈴木竜洋, 大塚宜一, 清水俊明	乳幼児のアレルギー疾患におけると亜鉛欠乏の関与	第41回日本小児栄養消化器肝臓学会	2014年10月	東京
114		福留博文, 渡辺汐美, 中埜 拓, 石丸かよ子, 中尾篤人	授乳婦への乳酸菌・ビフィズス菌投与による母乳成分への影響	日本食品免疫学会設立10周年記念学術大会	2014年10月	東京
115	**	Takai T, Kamijo S, Saito H, Nakae S, Ogawa H, Okumura K	Distinct mechanisms for allergic sensitization to protease antigen between skin and airway	30th Symposium of the Collegium Internationale Allergologicum(CIA)	2014年9月	Petersberg (Germany)
116	**	Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Akiyama T, Hattori F, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H	Host defense (antimicrobial) peptides are multifunctional regulators of the skin immunity	3rd Eastern Asia Dermatology Congress	2014年9月	Jeju (Korea)
117	**	Hattori F, Kiatsurayanon C, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S, Okamoto K, Niyonsaba F	Possible roles of host defense protein S100A7/Psoriasin in regulation of skin barrier functions	3rd Eastern Asia Dermatology Congress	2014年9月	Jeju (Korea)
118	**	Takeuchi M, Ushio H, Fukuda M, Kawasaki J, Niyonsaba F, Okumura K, Ikeda S	The functional characterization of human mast cells in response to viral infection	3rd Eastern Asia Dermatology Congress	2014年9月	Jeju (Korea)
119	**	Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Akiyama T, Ushio H, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	Tight junction barrier enhancement of human β -defensin-3 in human keratinocytes	3rd Eastern Asia Dermatology Congress	2014年9月	Jeju (Korea)
120		新井喜康, 藤井 徹, 工藤孝広, 遠藤 周, 安部信平, 青柳 陽, 鈴木光幸, 春名英典, 大塚宜一, 清水俊明	メサラジン製剤のアレルギーを認めたCrohn病の1幼児例	第612回日本小児科学会東京都地方会講話会	2014年9月	東京
121		中尾篤人	アレルギー疾患発症予防と母乳中TGF- β ~母親の乳酸菌摂取の可能性~	第55回日本母性衛生学会総会〔ランチョンセミナー〕	2014年9月	千葉
122		石田明日香, 林麻貴, 上田琴葉, 横倉友諒, 山崎 晋, 稲毛英介, 馬場洋介, 神保圭佑, 森 真理, 青柳陽, 藤井 徹, 工藤孝広, 鈴木竜洋, 大塚宜一, 清水俊明	持続する腹痛を呈し, 好酸球性胃腸炎が疑われた1幼児例	第26回城東地区小児アレルギー懇話会	2014年8月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
123		Baba Y, Ohtsuka Y, Yokokura T, Yokota R, Yamazaki S, Ishida A, Inage E, Mori M, Suzuki R, Shimizu T	A retrospective study of the serum IgA levels in food allergy patients	2014 PAS & ASPR Joint Meeting	2014年5月	Vancouver (Canada)
124	**	Asada Y, Matsuda A, Hori K, Iwamoto S, Ebihara N, Murakami A, Nakae S	Interleukin(IL)-33 and Thymic Stromal Lymphopoietin (TSLP), but not IL-25, induced Allergic Conjunctivitis in Mouse Models Papain-Induced Conjunctivitis	ARVO 2014 Annual Meeting	2014年5月	Orlando, Florida (USA)
125	**	竹内瑞穂, 牛尾博子, 福田 稔, 河崎純子, François Niyonsaba, 小川秀興, 奥村 康, 池田志幸	ヒトマスト細胞におけるRIG-I様受容体(RLRs)を介した抗ウイルス免疫応答	第113回日本皮膚科学会総会	2014年5月	京都
126	**	Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Akiyama T, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H	Effects of human β -defensins on the epithelial tight junction barrier	第113回日本皮膚科学会総会	2014年5月	京都
127	**	上條清嗣, 高井敏朗, 中江 進, 齋藤博久, 奥村 康	シンポジウム3:「アレルギーにおける自然免疫応答」プロテアーゼアレルギーによるIgE産生と気道炎症の誘導	第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 [シンポジウム]	2014年5月	京都
128	**	清村咲子, 高井敏朗, 飯田秀雄, 上條清嗣, 越智啓乃, 丸山奈津子, 原むつ子, 小川秀興, 池田志幸	プロテアーゼアレルギーによる経皮的感作はプロテアーゼ活性依存的にIgE/IgG産生を誘導する	第26回日本アレルギー学会春季臨床大会	2014年5月	京都
129		森 真理, 大塚宜一, 石田明日香, 山崎 晋, 稲毛英介, 馬場洋介, 神保圭祐, 青柳 陽, 工藤孝広, 清水俊明	新生児下部消化管出血の検討 FPIPとNTECの比較	第26回日本アレルギー学会春季臨床大会	2014年5月	京都
130		稲毛英介, 松原知代, 石田明日香, 山崎 晋, 馬場洋介, 千葉幸英, 大日方薫, 大塚宜一, 清水俊明	旅行中の喘息発作による入院例の検討: 非旅行者例との比較	第26回日本アレルギー学会春季臨床大会	2014年5月	京都
131		馬場洋介, 大塚宜一, 横田麗菜, 山崎 晋, 石田明日香, 稲毛英介, 森 真理, 鈴木竜洋, 副田敦裕, 清水俊明	食物アレルギー患者の血清IgA値の検討	第117回日本小児科学会学術集会総会	2014年4月	名古屋
132		Iida H, Takai T, Kamijo S, Hirasawa Y, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	Epicutaneous Administration of Papain Induces IgE and IgG Responses in a Cysteine Protease Activity-Dependent Manner	第21回分子皮膚科学フォーラム	2014年4月	京都
133	**	桂 蓉子, 原田紀宏, 原田園子, 牧野文彦, 伊藤 潤, 糸魚川幸成, 松野 圭, 春日文子, 石森絢子, 長島修, 蒲池史卓, 秋葉久弥, 熱田 了, 高橋和久	フェノタイプからみたマウス肺胞マクロファージの解析	第54回日本呼吸器学会学術講演会	2014年4月	大阪
134	**	笠倉和巳, 八代拓也, 奥村 康, 西山千春	GATA2によるマスト細胞のST2遺伝子発現制御機構	日本農芸化学会2014年度大会	2014年3月	川崎市 (神奈川県)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
135		長谷部文人, 富田武郎, 高ひかり, 藤村務, 西山千春, 葛山智久, 西山 真	アミノ酸キャリアタンパク質を介して生合成される新規アミノ酸とその代謝産物の同定	日本農芸化学会 2014年度大会	2014年3月	川崎市 (神奈川県)
136	**	八代拓也, 奥村 康, 西山千春	樹状細胞におけるOX40L発現制御機構の解析	日本農芸化学会 2014年度大会	2014年3月	川崎市 (神奈川県)
137	**	中野信浩, 西山千春, 奥村 康, 小川秀興	粘膜型マスト細胞分化におけるNotchシグナルとIL-3シグナルの協調作用	日本農芸化学会 2014年度大会	2014年3月	川崎市 (神奈川県)
138		神保圭佑, 藤井 徹, 佐藤真教, 細井賢二, 松村成一, 大林奈穂, 幾瀬 圭, 青柳 陽, 工藤孝広, 大塚宜一, 金兼弘和, 清水俊明	Crohn病様腸炎を認めたX連鎖リンパ増殖症症候群(XLP)type2の1例	第14回日本小児IBD研究会	2014年2月	東京
139	**	Kamijo S, Takai T, Hara M, Matsuda H, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Ichikawa S, Ogawa H, Okumura K	Contribution of IL-33 to allergic airway inflammation in mice sensitized subcutaneously and challenged intranasally with cysteine protease allergen	第42回日本免疫学会学術集会	2013年12月	千葉
140	**	Oh-oka K, Nakao A	Circadian clock regulates the expression levels of tight junction proteins, permeability, and barrier function in the intestine	第42回日本免疫学会学術集会	2013年12月	千葉
141	**	Nakae S	Role of mast cells in natural helper cell-mediated innate-type allergic inflammation	第42回日本免疫学会学術集会	2013年12月	千葉
142		Kamachi F, Harada N, Nishiyama C, Izawa K, Kitaura J, Okumura K, Miyake S, Akiba H	Soluble form of TIM-4 regulates mast cell activation by binding to LMIR5 and TIM-3	第42回日本免疫学会学術集会	2013年12月	千葉
143		Kang S, Zhang C, Ohno T, Yanagisawa S, Yagita H, Azuma M	Involvement of PD-1 and B7-H1 in a Japanese cedar pollinosis	第42回日本免疫学会学術集会	2013年12月	千葉
144		Nakayama M, Underhill DM, Nakamura K, Yagita H, Okumura K, Takai T, Aderem A, Ogasawara K	Inhibitory receptor PIR-B is exploited by Staphylococcus aureus for virulence	第42回日本免疫学会学術集会	2013年12月	千葉
145		Nakajima A, Negishi N, Tsurui H, Nanno M, Yagita H, Okumura K, Habu S	Involvement of commensal bacteria in thymic Aire expression	第42回日本免疫学会学術集会	2013年12月	千葉
146		Murata A, Yoshino M, Shimoda Y, Hikosaka M, Yagita H, Hayashi S	Cell adhesion mediated by Notch ligands	第42回日本免疫学会学術集会	2013年12月	千葉
147		八代拓也, 田辺 篤, 原むつ子, 奥村 康, 西山千春	PU.1はCCR7の発現を調節することで樹状細胞の移行を制御する	第36回日本分子生物学会年会	2013年12月	神戸
148		笠倉和巳, 八代拓也, 奥村 康, 西山千春	マスト細胞における分泌型ST2の発現制御	第36回日本分子生物学会年会	2013年12月	神戸
149	**	高井敏朗, 謝 陽, 陳 雪, 原むつ子, 上條清嗣, 小川秀興, 奥村 康	TLRリガンド及びサイトカイン刺激はヒトケラチノサイトにlong TSLP mRNA発現を誘導する	第63回日本アレルギー学会秋季学術大会	2013年11月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
150	**	高井敏朗, 陳 雪, 謝 陽, ニヨンサバ フランソワ, 原むつ子, 上條清嗣, 小川秀興, 奥村 康	サイトカインおよび2本鎖RNA刺激に対するケラチノサイト応答の, ヒト抗菌ペプチドLL-37による修飾	第63回日本アレルギー学会秋季学術大会	2013年11月	東京
151	**	中野信浩, 西山千春, 奥村 康, 小川秀興	NotchシグナルはIL-3存在下において粘膜型マスト細胞の分化を促進する	第63回日本アレルギー学会秋季学術大会	2013年11月	東京
152	**	中村勇規, 中尾篤人	マスト細胞の内在時計によるIgE受容体の日内変動の調節	第63回日本アレルギー学会秋季学術大会	2013年11月	東京
153		Hasan S, 三輪正人, 塩沢晃人, 廣津幹夫, 古田陽子, 池田勝久, 原むつ子, 牛尾博子, 三輪真由美, 奥村 康	Analysis of nasal exhaled breath condensate in patients with allergic rhinitis	第63回日本アレルギー学会秋季学術大会	2013年11月	東京
154	**	Harada N, Katsura Y, Harada S, Makino F, Ito J, Itoigawa Y, Matsuno K, Kasuga F, Ishimori A, Nagashima O, Kamachi F, Akiba H, Atsuta R, and Takahash K	Characteristics of alveolar macrophages from murine model of OVA-induced and LPS-induced airway inflammation	18 th congress of the Asian Pacific Society of Respiriology	2013年11月	横浜
155		Katsura Y, Harada N, Harada S, Itoigawa Y, Matsuno K, shimori A, Nagashima O, Makino F, Ito J, Atsuta R and Takahashi K	The effect of chitin on IL-1 β production by alveolar macrophage	18 th congress of the Asian Pacific Society of Respiriology	2013年11月	横浜
156		Itoigawa Y, Harada H, Harada S, Katsura Y, Matsuno K, Ishimori A, Nagashima O, Makino F, Ito J, Atsuta R, Takahashi K	TWEAK enhances TGF- β - induced epithelial-mesenchymal transition in BEAS-2B human bronchial epithelial cells	18 th congress of the Asian Pacific Society of Respiriology	2013年11月	横浜
157	**	Nakao A	Circadian regulation of allergic reaction by the mast cell clock	2013 Asia Pacific Congress of Allergy, Asthma, and Clinical Immunology (APCAAI) [シンポジウム]	2013年11月	Taipei (Taiwan)
158	**	中村勇規, 中尾篤人, 柴田重信	マスト細胞の内在時計によるアレルギー反応の日内変動の調節	第20回日本時間生物学学会学術大会	2013年11月	大阪
159	**	鈴木光幸, 青柳 陽, 藤井徹, 大塚宜一, 清水俊明, 山高篤行, 川崎誠治	Tacrolimus誘発アレルギー症状の管理にCyclosporineへのスイッチ療法が奏功した1例	第40回日本胆道閉鎖症研究会	2013年11月	水戸
160	**	Iida H, Takai T, Hasegawa Y, Kamijo S, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	Protease allergen and mechanical barrier impairment synergistically induce skin inflammation and antibody production	第27回表皮細胞研究会	2013年11月	山梨
161	**	中尾篤人	Prevention of food allergy by dietary resveratrol	Resveratrol 2013 Regional Meeting	2013年10月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
162		馬場洋介, 大塚宜一, 横倉友諒, 横田麗菜, 山崎晋, 石田明日香, 稲毛英介, 森 真理, 鈴木竜洋, 副田敦裕, 清水俊明	アレルギー症状を呈した食物アレルギー患者の血清IgA値の検討	第50回日本小児アレルギー学会	2013年10月	横浜
163		中尾篤人	母乳中TGF- β は乳幼児アレルギー疾患の防御因子か?	第9回日本食品免疫学会[シンポジウム]	2013年10月	東京
164		Ikeda S	Regulation mechanism in gene expression of ATP2A2 and ATP2C1 (Darier disease and Hailey-Hailey disease genes)	22nd EADV Congress "Dermatology in a Changing World"	2013年10月	Istanbul (Turkey)
165		Negishi N, Ito R, Ito M and Habu S	Osteogenesis and hematopoiesis in NOG mice with bone niche expressing human Delta-like-1 and Jagged-1	The 4th International Workshop of Humanized Mice (IWHM4)	2013年9月	Seoul (Korea)
166		Hassan S, Miwa M, Hanao M, Shiozawa A, Hirtotsu M, Ono N, Sasaki D, Hara M, Ushio H, Hirose T, Miwa M, Ikeda K, Okumura K	Analyses of nasal exhaled breath condensate in patients with allergic rhinitis	16th Asian Research Symposium in Rhinology	2013年8月	東京
167	**	Niyonsaba F, Madera L, Okumura K, Ogawa H, Hancock REW	Synthetic immunomodulatory peptides IDR-HH2, IDR-1002 and IDR-1018 regulate neutrophil functions	15th International Congress of Immunology	2013年8月	Milan (Italy)
168	**	Kamijo S, Takai T, Hara M, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Sudo K, Ichikawa S, Ogawa H, Okumura K	IL-33-mediated innate response and adaptive immune cells contribute to maximum responses of protease allergen-induced allergic airway inflammation	15th International Congress of Immunology	2013年8月	Milan (Italy)
169	**	Nakano N, Nishiyama C, Yagita H, Okumura K, Ogawa H	Notch1 signaling confers antigen-presenting functions on mast cells	15th International Congress of Immunology	2013年8月	Milan (Italy)
170	**	Nishiyama C, Inage E, Kasakura K, Yashiro T, Hara M, Saito H, Shimizu T, Ogawa H, Okumura K	Involvement of transcription factors PU.1, GATA1 and GATA2 in the expression and function of human Fc ϵ RI on mast cells	15th International Congress of Immunology	2013年8月	Milan (Italy)
171		Yashiro T, Hara M, Okumura K, Nishiyama C	PU.1 regulates CCR7 expression in dendritic cells	15th International Congress of Immunology	2013年8月	Milan (Italy)
172		Kamachi F, Hara M, Harada N, Katsura Y, Kojima Y, Izawa K, Nishiyama C, Okumura K, Akiba H	Anti-TIM-4 mAb ameliorates allergic lung inflammation by inhibiting TIM-4-mediated mast cell stimulation	15th International Congress of Immunology	2013年8月	Milan (Italy)
173		Nakajima A, Negishi N, Nanno M, Okumura K and Habu S	Involvement of commensal bacteria on thymic Aire expression	15th International Congress of Immunology	2013年8月	Milan (Italy)
174		Negishi N, Sato T, Kametani Y, Hori S, Okumura K and Habu S	Serial transfer of anergy status induced by TSST-1 into newly stimulated T cells	15th International Congress of Immunology	2013年8月	Milan (Italy)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
175	**	中尾篤人	Prevention of food allergy by dietary resveratrol	Resveratrol 2013 Regional Meeting	2013年8月	東京
176	**	中尾篤人	免疫グロブリン, IgEや特異IgEを中心に—体内時計によるIgE応答の時間的制御—	第33回六甲カンファレンス[シンポジウム]	2013年7月	京都
177		Yoshihara N, Takagi A, Ueno T, Ikeda S	Autophagy is Activated in Squamous Cell Carcinomas and Correlates with Clinical Stage	9th ASIAN DERMATOLOGICAL CONGRESS2013	2013年7月	Hong Kong
178		Shimizu T	Special Situation in IBD Clinic Pediatric IBD	The 1st Annual Meeting of AOCC [Clinical Seminar]	2013年6月	東京
179		Nakajima A, Negishi N, Nanno M, Okumura K and Habu S	Involvement of commensal bacteria on thymic Aire expression	The 6th International Workshop of Kyoto T Cell Conference	2013年6月	京都
180		Negishi N, Sato T, Kametani Y, Hori S, Okumura K and Habu S	Serial transfer of anergy status induced by TSST-1 into newly stimulated T cells	The 6th International Workshop of Kyoto T Cell Conference	2013年6月	京都
181		大林奈穂, 原 聡, 松原知代, 大日方薫, 鈴木光幸, 清水俊明	アレルギー検査を契機に診断された原発性硬化性胆管炎の3歳児例	第195回日本小児科学会千葉地方会・第1269回千葉医学会分科会	2013年6月	千葉
182		馬場洋介, 大塚宜一, 副田敦裕, 清水俊明	アナフィラキシー症状を呈した患者の血清IgA値の検討	第27回日本小児救急医学会学術集会	2013年6月	沖縄
183	**	Akiyama T, Nguyen TT, Niyonsaba F, Smithrithee R, Kiatsurayanon C, Ushio H, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	IL-36 cytokines enhance the production of host defense peptides LL-37 and psoriasin by human keratinocytes through activation of MAPKs and NF- κ B	2013 International Investigative Dermatology	2013年5月	Edinburgh (Scotland)
184	**	Takeuchi M, Fukuda M, Ushio H, Kawasaki J, Niyonsaba F, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	Characterization of virus recognition receptors: RIG-1-like receptors (RLRs) of mast cells	2013 International Investigative Dermatology	2013年5月	Edinburgh (Scotland)
185	**	Smithrithee R, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Nguyen TT, Akiyama T, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H	Effects of human β -defensins on interleukin-37 production by human keratinocytes	2013 International Investigative Dermatology	2013年5月	Edinburgh (Scotland)
186	**	Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Smithrithee R, Nguyen TT, Akiyama T, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H	Human β -defensin-3 improves the epithelial tight junction (TJ) barrier through activation of glycogen synthase kinase-3 (GSK-3) and protein kinase C (PKC)	2013 International Investigative Dermatology	2013年5月	Edinburgh (Scotland)
187		Hori K, Ebihara N, Funaki T, Ohtomo K, Asada Y, Murakami A, Matsuda A	Carboxypeptidase A3 expression in intraepithelial mast cells of chronic allergic conjunctivitis	ARVO 2013 Annual Meeting	2013年5月	Seattle (USA)
188		中尾篤人	免疫療法の新たな展開—作用機序について	第25回日本アレルギー学会春季臨床大会 [教育講演]	2013年5月	横浜

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
189	**	中江 進	IL-33と気道炎症	第25回日本アレルギー学会春季臨床大会	2013年5月	横浜
190		桂 蓉子, 原田紀宏, 松野圭, 石森絢子, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤 潤, 長島修, 熱田 了, 高橋和久	キチンによる肺胞マクロファージのIL-1 β 産生の誘導	第53回日本呼吸器学会学術講演会	2013年4月	東京
191	**	中野信浩, 西山千春, 奥村 康, 小川秀興	粘膜型マスト細胞の分化・成熟におけるNotchシグナルの役割	日本農芸化学会2013年度大会	2013年3月	仙台
192	**	笠倉和己, 稲毛英介, 鈴木竜洋, 八代拓也, 馬場洋介, 原むつ子, 大塚宜一, 清水俊明, 大保木啓介, 松本健治, 斎藤博久, 小川秀興, 奥村 康, 西山千春	ヒトFc ϵ RI発現制御における転写因子の直接的な役割	日本農芸化学会2013年度大会	2013年3月	仙台
193	**	八代拓也, 原むつ子, 小川秀興, 奥村 康, 西山千春	樹状細胞においてPU.1はCCR7の発現を制御する	日本農芸化学会2013年度大会	2013年3月	仙台
194	**	中尾篤人	アレルギーの分子時計メカニズム	第86回日本薬理学会年会 [シンポジウム]	2013年3月	福岡
195		Ikeda S	Regulation mechanisms in gene expression of ATP2A2 and ATP2C1(responsible for Darier disease and Hailey-Hailey disease genes respectively)	The 23rd Annual Meeting of the Korean Society for Investigative Dermatology	2013年3月	Seoul (Korea)
196	**	中尾篤人	アレルギーと体内時計	第21回大分アレルギー講習会 [特別講演]	2013年2月	大分
197	**	Takai T, Kamijo S, Takeda H, Inui K, Suzuki M, Hara M, Matsuda A, Oboki K, Ohno T, Saito H, Nakae S, Sudo K, Ichikawa S, Ogawa H, Okumura K	Contribution of adaptive immune cells and IL-33-mediated innate response to protease allergen-dependent allergic airway inflammation	Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, Type 2 immunity: initiation, maintenance, homeostasis and pathology	2013年1月	Santa Fe (USA)
198	**	Kamijo S, Takai T, Matsuda A, Oboki K, Ohno T, Saito H, Nakae S, Sudo K, Ogawa H, Okumura K	Contribution of adaptive immune cells and IL-33-mediated innate response to protease allergen-dependent allergic airway inflammation	第41回日本免疫学会学術集会	2012年12月	神戸
199	**	Kasakura K, Hara M, Ogawa H, Okumura K, Nishiyama C	Suppression of Fc ϵ RI expression on mast cells by bacterial component	第41回日本免疫学会学術集会	2012年12月	神戸
200	**	Inage E, Nishiyama C, Suzuki R, Kasakura K, Yashiro T, Baba Y, Hara M, Ohtsuka Y, Ogawa H, Okumura K, Shimizu T	RNA interference of transcription factors suppresses expression of human Fc ϵ RI	第41回日本免疫学会学術集会	2012年12月	神戸

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
201		Kamachi F, Ito J, Harada N, Makino F, Abe Y, Kojima Y, <u>Yagita H</u> , Takahashi K, Okumura K, Akiba H	Anti-TIM-4 mAb ameliorates allergic lung inflammation by inhibiting TIM-4-mediated mast cell stimulation	第41回日本免疫学会学術集会	2012年12月	神戸
202		Murata A, Yoshino M, Shimoda Y, Hisaoka M, Okuyama K, <u>Yagita H</u> , Hayashi S	Notch ligands differentially regulate the adhesion of immune cells	第41回日本免疫学会学術集会	2012年12月	神戸
203		Matsumoto A, Kanai T, <u>Yagita H</u> , Hibi T	ROR γ t-dependent NKT Cells and Innate Lymphoid Cells Regulate Hepatic Immune Responses in a Distinct Way during the Development of the Acute Hepatitis	第41回日本免疫学会学術集会	2012年12月	神戸
204	**	<u>Niyonsaba F</u> , Madera L, Okumura K, Ogawa H, Hancock REW	Synthetic innate defense regulator peptides modulate various functions of human neutrophils	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
205	**	Nakano N, Nishiyama C, Okumura K, <u>Ikeda S</u> , Ogawa H	Notch signaling augments mast cell cytokine production by direct and indirect mechanisms	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
206	**	Iida H, Takai T, Kamijo S, Hirasawa S, Okumura K, Ogawa H, <u>Ikeda S</u>	Protease allergen and barrier injury synergistically induce skin inflammation and antibody production	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
207	**	Akiyama T, Niyonsaba F, Nguyen TT, Smithrithee R, Kiatsurayanon C, Ushio H, Okumura K, Ogawa H, <u>Ikeda S</u>	Effects of host defense peptide cathelicidin LL-37 on tight junction barrier	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
208	**	Takeuchi M, Fukuda M, Ushio H, Kawasaki J, Niyonsaba F, Okumura K, <u>Ikeda S</u> , Ogawa H	The expression and functional characterization of RIG-1-like receptors (RLRs) of mast cells in response to viral infection	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
209		Fukuda M, Baba T, Katayama Y, Itou T, Kawasaki J, Maeda K, Nishiyama C, Ushio H, Hiramatsu K, Ogawa H	Some strains of hospital-associated staphylococcus aureus (HA-MRSA) have potentiality to damage keratinocyte to induce recurrent infections	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
210	**	Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Smithrithee R, Nguyen TT, Akiyama T, Ushio H, <u>Ikeda S</u> , Okumura K, Ogawa H	Effects of host defense peptides human β -defensins on skin tight junction barrier	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
211	**	Xie Y, Takai T, Chen X, Okumura K, Vicheth C, <u>Ikeda S</u> , Ogawa H	9-cis-retinoic acid inhibits TLR ligand- and cytokine-induced TSLP production in human keratinocytes	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
212	**	Chen X, Takai T, Xie Y, Okumura K, Ogawa H, <u>Ikeda S</u>	Modulation of double-stranded RNA- and cytokine-induced responses of human keratinocytes by LL-37	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
213	**	Nguyen TT, Niyonsaba F, Akiyama T, Smithrithee R, Kiatsurayanon C, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H	Effects of IL-36 cytokines on S100A7/psoriasin and cathelicidin LL-37 expression and production by primary human keratinocytes	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
214	**	Smithrithee R, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Nguyen TT, Akiyama T, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H	Host defense peptides, human β -defensins increase interleukin-37 production in human keratinocytes	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
215	**	Hattori F, Niyonsaba F, Ueda E, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H, Okamoto K	Possible roles of host defense protein S100A7/psoriasin in skin barrier functions	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
216		Wakabayashi M, Yamaguchi T, Funakushi N, Suto H, Ueki R, Kobayashi H, Ogawa H, Ikeda S	Effects of Yokukansan on glutamate signaling in human keratinocytes	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
217		Yoshihara N, Takagi A, Ueno T, Ikeda S	The Role of autophagy in epidermal keratinocytes	日本研究皮膚科学会第37回年次学術大会・総会	2012年12月	沖縄
218	**	中尾篤人	TSLPとアレルギー	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会 [特別講演]	2012年11-12月	大阪
219	**	Niyonsaba F, Madera L, Okumura K, Ogawa H, Hancock REW	Innate defense regulator peptides modulate neutrophil functions	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会	2012年11-12月	大阪
220	**	前田啓子, 馬場洋介, 八代拓也, 稲毛英介, 鈴木竜洋, Niyonsaba Francois, 原むつ子, 小川秀興, 奥村 康, 大塚宜一, 清水俊明, 西山千春	ヒトマスト細胞, 好塩基球におけるST2遺伝子の発現調節	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会	2012年11-12月	大阪
221	**	中野信浩, 西山千春, 八木田秀雄, 奥村 康, 小川秀興	Notchシグナルによって成熟が誘導された粘膜型マスト細胞の形質と機能	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会	2012年11-12月	大阪
222	**	上條清嗣, 高井敏朗, 松田浩則, 松田 彰, 大保木啓介, 斎藤博久, 小川秀興, 奥村 康	プロテアーゼアレルギーによる気道炎症における獲得免疫細胞およびIL-33を介した自然免疫応答の役割	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会	2012年11-12月	大阪
223	**	八代拓也, 小川秀興, 奥村 康, 西山千春	マスト細胞におけるGATA3の機能解析	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会	2012年11-12月	大阪
224	**	石山健太郎, 西山千春, 八代拓也, 田村直人, 奥村 康, 小川秀興, 高崎芳成	破骨細胞における転写調節因子PU.1の役割とTGF- β 刺激の影響	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会	2012年11-12月	大阪
225	**	三輪正人, 花尾麻美, 塩沢晃人, 廣津幹夫, 小野倫嗣, 池田勝久, 原むつ子, 高井敏朗, 奥村 康	スギヒノキ花粉症患者鼻粘膜擦過細胞におけるフィラグリンの発現	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会	2012年11-12月	大阪

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
226		糸魚川幸成, 原田紀宏, 桂 蓉子, 松野 圭, 石森絢子, 牧野文彦, 伊藤 潤, 長島 修, 熱田 了, 高橋和久	気道上皮細胞におけるTGF- β が誘導するEMTへのTWEAKの関与	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会	2012年11-12月	大阪
227		桂 蓉子, 原田紀宏, 松野 圭, 石森絢子, 糸魚川幸成, 牧野文彦, 伊藤 潤, 長島 修, 熱田 了, 高橋和久	肺胞マクロファージにおけるキチンによるIL-1 β 産生誘導	第62回日本アレルギー学会秋季学術大会	2012年11-12月	大阪
228		Jimbo K, Ohtsuka Y, Aoyagi Y, Fujii T, Kudo T, Shimizu T	A study of CXCL-9 and CXCR-3 in pediatric inflammatory bowel disease in Japan	4th World Congress of Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition	2012年11月	Taipei (Taiwan)
229		Mori M, Ohtsuka Y, Inage E, Jimbo K, Kudo T, Shoji H, Shimizu T	CCL11 and CXCL13 are the key molecules in food protein-induced proctocolitis	4th World Congress of Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition	2012年11月	Taipei (Taiwan)
230		Ito R, Koinuma S, Terazawa S, Shimizu T, Arai K, Matsui A	The side effect of combination therapy with pegylated interferon(PEG-IFN)and ribavirin in childhood	4th World Congress of Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition	2012年11月	Taipei (Taiwan)
231	**	北村奈緒, 西山千春, 八代拓也, 中野信浩, 原むつ子, 金田俊介, 奥村 康, 小川秀興, 池田志孝	Role of PU1 in MHC class II expression through transcriptional regulation of class II transactivator pl in dendritic cells	第26回表皮細胞研究会	2012年11月	長野
232	**	Susumu Nakae	Role of IL-33 in allergy	29th Symposium of the Collegium Internationale Allergologica [シンポジウム]	2012年10月	Jeju (Korea)
233		Matsunaga N, Hisata K, Nakao A, Komatsu M, Obinata K, Shimizu T	A comparison of two versus one blood culture in the diagnosis and treatment in the neonatal intensive care unit	Idweek 2012	2012年10月	San Diego (USA)
234	**	Susumu Nakae	IL-33 in inflammation	International Endotoxin and Innate Immunity Society Meeting 2012 (IEIIS2012) およびthe 2nd Homeostatic Inflammation Symposium (HIS2012) [シンポジウム]	2012年10月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
235	**	ニヨンサバ フランソワ	Novel roles of host defense peptides in cutaneous biology	International Endotoxin and Innate Immunity Society Meeting 2012 (IEIIS2012) およびthe 2nd Homeostatic Inflammation Symposium (HIS2012) [シンポジウム]	2012年10月	東京
236		中江 進	関節炎とIL-17ファミリーサイトカイン: マウスモデルからの知見	第27回日本整形外科学会基礎学術集会 [シンポジウム]	2012年10月	名古屋
237		中尾篤人	関節リウマチとTGF- β	第27回日本整形外科学会基礎学術集会 [シンポジウム]	2012年10月	名古屋
238		Ikeda S	Effects of Granulocyte and Monocyte Adsorption Apheresis(GCAP) for the Treatment of Generalized Pustular Psoriasis(GDP):Results from Multicenter Clinical Trial in JAPAN	The 16th Annual Meeting The Korean society for Psoriasis	2012年9月	Seoul (Korea)
239	**	Kitamura N, Nishiyama C, Nakano N, Yashiro T, Kanada S, Hara M, Ogawa H, Okumura K, Ikeda S	A Role of transcriptional factor PU.1 in the gene expression of dendritic cells	42th Annual European Society for Dermatological Research Meeting	2012年9月	Venice (Italy)
240	**	Iida H, Takai T, Hirasawa Y, Kamijo S, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	Epidermal barrier dysfunction induced by environmental proteases	42th Annual European Society for Dermatological Research Meeting	2012年9月	Venice (Italy)
241	**	馬場洋介, 西山千春, 稲毛英介, 前田啓子, Niyonsaba Francois, 八代拓也, 原むつ子, 鈴木竜洋, 大塚宜一, 小川秀興, 奥村 康, 清水俊明	GATA2は肥満細胞/好塩基球におけるヒトIL1RL1/ST2プロモーターの重要な転写調節因子である	第49回日本小児アレルギー学会	2012年9月	大阪
242	**	稲毛英介, 鈴木竜洋, 馬場洋介, 大塚宜一, 奥村康, 小川秀興, 清水俊明	ヒトFc ϵ RI受容体発現調節	第49回日本小児アレルギー学会	2012年9月	大阪
243		森 真理, 大塚宜一, 細井賢二, 神保圭佑, 稲毛英介, 幾瀬 圭, 青柳 陽, 藤井 徹, 工藤孝広, 永田智, 清水俊明	新生児・乳児消化管アレルギーにおける粘膜組織の免疫学的検討	第49回日本小児アレルギー学会	2012年9月	大阪
244	**	中尾篤人	アレルギーと体内時計	第14回応用薬理シンポジウム [特別講演]	2012年9月	甲府
245		石山健太郎, 西山千春, 八代拓也, 田村直人, 高崎芳成	破骨細胞分化における転写調節因子PU.1とTGF- β シグナルの影響	第40回日本臨床免疫学会	2012年9月	東京
246		奥村 康	馬鹿な免疫, 利口な免疫	第35回日本母体胎児医学会学術集会 [ランチョンセミナー]	2012年8月	浦安

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
247		松田隆作, 毛塚剛司, 臼井嘉彦, 奥貫陽子, 松永芳径, 山川直之, 後藤 浩, 西山千春	CGRP遺伝子導入樹状細胞による実験的自己免疫視神経炎抑制のメカニズム解析	2012年眼炎症学会	2012年7月	横浜
248	**	Xie Y, Takai T, Chen X, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	The long form TSLP functions in the Toll-like receptor ligand- or cytokine-induced TSLP release in human keratinocytes	第42回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会	2012年7月	長野
249	**	Xie Y, Takai T, Chen X, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	The long form TSLP functions in the Toll-like receptor ligand- or cytokine-induced TSLP release in human keratinocytes	2nd Eastern Asia Dermatology Congress(EADC)	2012年6月	Beijing (China)
250	**	中江 進	IL-33 気管支喘息	第77回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会 [シンポジウム]	2012年6月	神戸
251		Matsuda R, Kezuka T, Nishiyama C, Usui Y, Matsunaga Y, Okunuki Y, Yamakawa N, Goto H	Interleukin-10 gene transfected regulatory dendritic cells suppress murine experimental autoimmune optic neuritis	ARVO国際眼科学会	2012年5月	Florida (USA)
252		山川陽子, 大塚宜一, 稲毛英介, 馬場洋介, 神保圭佑, 森 真理, 青柳 陽, 工藤孝広, 鈴木竜洋, 清水俊明	食道粘膜における好酸球浸潤の後方視的検討	第24回日本アレルギー学会春季臨床大会	2012年5月	大阪
253	**	馬場洋介, 西山千春, 前田啓子, 八代拓也, 稲毛英介, 鈴木竜洋, Niyonsaba Francois, 原むつ子, 小川秀興, 奥村 康, 大塚宜一, 清水俊明	ヒトマスト細胞, 好塩基球におけるST2遺伝子の発現調節	第24回日本アレルギー学会春季臨床大会	2012年5月	大阪
254		森 真理, 大塚宜一, 松永展明, 池野 充, 青柳 陽, 久田 研, 工藤孝広, 東海林宏道, 清水俊明	新生児・乳児消化管アレルギーの粘膜組織所見についての検討	第24回日本アレルギー学会春季臨床大会	2012年5月	大阪
255	**	高井敏朗	Th2アジュバントとしてのアレルギー: バリアと自然免疫系に対する作用	第24回日本アレルギー学会春季臨床大会 [特別講演]	2012年5月	大阪
256		松田隆作, 西山千春, 臼井嘉彦, 松永芳径, 山川直之, 毛塚剛司, 後藤 浩	IL-10遺伝子導入樹状細胞による実験的自己免疫視神経炎症抑制メカニズムの改正	第116回日本眼科学会総会	2012年4月	東京
257	**	鈴木竜洋, 大塚宜一, 清水俊明	小児アレルギー患者における総IgE値と高親和性IgE受容体発現の検討~第2報~	第115回日本小児科学会学術集会	2012年4月	福岡
258		石山健太郎, 西山千春, 頭山尚子, 田村直人, 高崎芳成	破骨細胞分化におけるTGF-βシグナルと転写調節因子PU.1	第56回日本リウマチ学会	2012年4月	東京
259	**	高井敏朗	アレルギー疾患の分子機構の新展開Symposium S3E-32. New frontiers in molecular mechanisms of allergic diseases. アレルゲンからアレルギーを考える	Allergens and their Th2 adjuvant activity 日本薬理学会 [シンポジウム]	2012年3月	京都

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
260	**	西山千春, 北村奈緒, 八代拓也, 吉田彩子, 横山北斗, 中野信浩, 原むつ子, 金田俊介, 小川秀興, 西山真, 奥村康	転写調節因子PU.1によるMHC class II発現調節機構	日本農芸化学会 2012年度大会	2012年3月	京都
261	**	中野信浩, 西山千春, 小川秀興, 奥村康	マスト細胞のIL-4産生がNotchシグナルによって増強されるメカニズムの解析	日本農芸化学会 2012年度大会	2012年3月	京都
262	**	八代拓也, 小川秀興, 奥村康, 西山千春	PU.1によるTh2サイトカイン発現抑止機構の解析	日本農芸化学会 2012年度大会	2012年3月	京都
263	**	Nakao A	Circadian clock gene Period2 regulates a time-of-day-dependent variation in cutaneous anaphylactic reaction	第89回日本生理学会 [シンポジウム]	2012年3月	松本
264	**	高井敏朗	アレルギーはなぜアレルギーになるのか?: Th2/IgE誘導アジュバントとしてのアレルギーおよび黄色ブドウ球菌	第30回日本耳鼻咽喉科アレルギー免疫学会 [教育研修会]	2012年2月	大津
265	**	松田 彰, 岡山吉道, 横井則彦, 海老原伸行	慢性アレルギー性角結膜炎の病態解明と新規治療の可能性	第36回日本角膜学会総会 [シンポジウム]	2012年2月	東京
266	**	Ushio H, Nakano H, Niyonsaba F, Okumura K, Ogawa H	Constitutive autophagy is involved in degranulation of mast cells in vitro and in vivo	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都
267	**	Niyonsaba F, Hoq MI, Ushio H, Aung G, Okumura K, Ogawa H	Neuroendocrine antimicrobial peptide, catestatin, and its variants increase keratinocyte migration and proliferation	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都
268	**	中野信浩, 西山千春, 八木田秀雄, 奥村康, 小川秀興	Antigen-presenting cell function induced in mast cells by Notch1-mediated signaling	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都
269	**	Iida H, Takai T, Hirasawa Y, Mitsuishi K, Kamijo S, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	Epidermal barrier dysfunction induced by environmental proteases	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都
270	**	Aung G, Niyonsaba F, Hoq MI, Nguyen TT, Bounmyviset B, Ushio H, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	Elafin and SLPI induce cytokine/chemokine production by human keratinocytes via MAPK/ERK and NF-kappaB	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都
271	**	Chen X, Takai T, Vu AT, Xie Y, Kamijyo S, Ushio H, Kawasaki J, Hara M, Bounmyviset B, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	Extracellular double-stranded RNA induces TSLP via an endosomal acidification- and NF-kB dependent pathway in human keratinocytes	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都
272	**	Xie Y, Takai T, Chen X, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H	TLR ligands and cytokines induce expression of the long splice form of TSLP mRNA in human keratinocytes	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都
273	**	福田 稔, 牛尾博子, 河崎純子, Niyonsaba Francois, 奥村康, 小川秀興	マスト細胞の細胞内dsRNA受容体の発現とウイルス応答における役割	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
274		Kamijo M, Nishiyama C, Takagi A, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	Cyclooxygenase-2 inhibition restores UVB-induced downregulation of ATP2A2/SERCA2 in keratinocytes	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都
275	**	Kitamura N, Nishiyama C, Nakano N, Yashiro T, Hara M, Fukai T, Kanada S, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S	Role of PU.1 in MHC class II and CD11c expression in dendritic cells	日本研究皮膚科学会第36回年次学術大会・総会	2011年12月	京都
276		Makino F, Harada N, Ito J, Abe Y, Kamachi F, Takahashi K, Okumura K, Akiba H	CD70-CD27 Interaction Regulates Asthmatic Response in a Murine Model of Asthma	XXII World Allergy Congress	2011年12月	Cancun (Mexico)
277	**	松田隆作, 西山千春, 臼井嘉彦, 松永芳径, 山川直之, 毛塚剛司, 後藤 浩	IL-10遺伝子導入樹状細胞による実験的自己免疫視神経炎の抑制	第49回日本神経眼科学会総会	2011年11月	神戸
278	**	Nakao A	The circadian clock gene Period2 regulates a daily rhythm in cutaneous anaphylactic reaction	第40回日本免疫学会学術集会 [シンポジウム]	2011年11月	千葉
279	**	Takai T, Vu AT, Chen X, Le TA, Xie Y, Kamijo S, Hara M, Suto H, Ikeda S, Ogawa H, Okumura K	Staphylococcus aureus-derived extracellular protease and membranous TLR2-TLR6 ligand induce skin barrier dysfunction and production of TSLP	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉
280	**	Niyonsaba F, Hoq MI, Ushio H, Aung G, Okumura K, Ogawa H	Human catestatin induces epidermal keratinocyte migration and proliferation	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉
281	**	中野信浩, 西山千春, 八木田秀雄, 奥村 康	Tescalcin contributes to maturation of mucosal-type mast cells	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉
282		Piao Jiang-Hu, Yagita H, Okumura K, Nakano H	Aberrant accumulation of IL-10-producing Gr1+CD11b+ neutrophils in Traf2-/- mice	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉
283		Piao Xuehua, Piao Jianghu, Yagita H, Okumura K, You-Wen H, Nakano H	An essential role for cellular FLICE inhibitory protein in the postnatal development and protection of hepatocytes from necrosis and apoptosis	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉
284		Sekine C, Koyanagi A, Koyama N, Hozumi K, Chiba S, Yagita H	Blockade of Delta-like 1 suppresses osteoclastogenesis and arthritis	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉
285		Murata A, Okuyama K, Egawa Y, Sawada A, Shimoda Y, Sakano S, Yagita H, Yoshino M, Hayashi S	Differential regulation of cell adhesion by Notch ligands	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉
286		Ishifune C, Kataoka K, Yagita H, Maekawa Y, Yasutomo K	Notch signal is required for the differentiation of CD4+CD11c+ cells in the small intestinal lamina propria	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
287		Abe Y, Kawamoto T, Kamachi F, Kojima Y, Makino F, Ito jun, Yagita H, Takasaki Y, Okumura K, Akiba H	TIM-4 has two different functions in mouse models of arthritis	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉
288		Yamazaki S, Okada K, Maruyama A, Matsumoto M, Yagita H, Seya T	TLR2-dependent induction of IL-10 and Foxp3+CD25+CD4+ regulatory T cells prevents effective anti-tumor immunity induced by Pam2 lipopeptides in vivo	第40回日本免疫学会学術集会	2011年11月	千葉
289	**	高井敏朗	免疫細胞と組織構成細胞の接点. 環境→Th2応答への橋渡し: TLRリガンドによる上皮からの TSLP産生誘導	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [シンポジウム]	2011年11月	東京
290		中尾篤人	母乳中TGF-βは、乳幼児のアレルギー疾患を予防するカギか?: 環境と体内物質のTh2アジュバント作用	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [シンポジウム]	2011年11月	東京
291	**	上條清嗣, 奥村 康, 高井敏朗	環境と体内物質のTh2アジュバント作用. プロテアーゼアレルギーおよび花粉によるTh2アジュバント作用	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [シンポジウム]	2011年11月	東京
292	**	松田 彰	慢性眼アレルギーの病態生理の解析	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [シンポジウム]	2011年11月	東京
293	**	西山千春	FcεRIの遺伝子発現とアレルギーに関わる転写調節因子の働き	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [教育講演]	2011年11月	東京
294	**	高井敏朗	アレルギーとは何か: 3つの顔	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [教育講演]	2011年11月	東京
295	**	中尾篤人	アレルギーと体内時計	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [教育講演]	2011年11月	東京
296	**	中野信浩, 西山千春, 八木田秀雄, 小川秀興, 奥村 康	マスト細胞のIL-4産生がNotchシグナルによって増強される機序の解析	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会	2011年11月	東京
297		上條麻弥, 西山千春, 中野信浩, 奥村 康, 小川秀興, 池田志孝	vitaminDがTSLPの発現動態に与える影響	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会	2011年11月	東京
298		海老原伸行, 牛尾博子, 戸倉智子, 奥村 康, 松田彰, 村上 晶	網膜色素上皮細胞における肥満細胞放出因子に対する受容体の発現とその機能	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会	2011年11月	東京
299	**	鈴木竜洋, 西山千春, 原むつ子, 大塚宜一, 清水俊明, 奥村 康	小児アレルギー疾患の末梢血好塩基球及び樹状細胞における高親和性IgE受容体(FcεRI)発現の検討(第2報)	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会	2011年11月	東京
300	**	松田隆作, 西山千春, 毛塚剛司, 後藤 浩	CGRP遺伝子導入免疫抑制細胞による実験的自己免疫性視神経炎の抑制	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [ミニシンポジウム]	2011年11月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

No.	※	発表者名	発表課題名	学会名	発表年月	開催地
301	**	馬場洋介, 西山千春, 前田啓子, 鈴木竜洋, 奥村康, 大塚宜一, 清水俊明	IL-33受容体のマスト細胞・好塩基球特異的発現制御機構の解明	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [ミニシンポジウム]	2011年11月	東京
302		稲毛英介, 鈴木竜洋, 前田啓子, 原むつ子, 馬場洋介, 大塚宜一, 清水俊明, 西山千春	TSLP遺伝子の一塩基多型が遺伝子機能に及ぼす作用の検討	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [ミニシンポジウム]	2011年11月	東京
303	**	八代拓也, 小川秀興, 奥村康, 西山千春	樹状細胞におけるTh2サイトカイン産生抑制機構の解析	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [ミニシンポジウム]	2011年11月	東京
304	**	北村奈緒, 西山千春, 中野信浩, 八代拓也, 原むつ子, 深井達夫, 金田俊介, 奥村康, 小川秀興, 池田志孝	樹状細胞のMHC class II, CD11c発現における転写調節因子PU.1の役割	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [ミニシンポジウム]	2011年11月	東京
305		牧野文彦, 伊藤潤, 原田紀宏, 蒲池史卓, 安倍能之, 高橋和久, 秋葉久弥	抗CD70抗体投与によるOVA誘発性喘息マウスの発症抑制とそのメカニズムの解析	第61回日本アレルギー学会秋季学術大会 [ミニシンポジウム]	2011年11月	東京
306	**	ニヨンサバフランソワ	ヒト抗菌物質の皮膚免疫調節機能に対する役割	第58回トキシンシンポジウム [ランチョンセミナー]	2011年11月	東京
307	**	Toshiro Takai	Allergen. Environmental allergens and their Th2 adjuvant activity	Joint Congress of Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology 2011 (APAPARI 2011)	2011年10月	福岡
308	**	馬場洋介, 西山千春, 前田啓子, 鈴木竜洋, 小川秀興, 奥村康, 大塚宜一, 清水俊明	Th2免疫応答に重要なサイトカインIL-33受容体のマスト細胞・好塩基球特異的発現制御機構解明	第48回日本小児アレルギー学会	2011年10月	福岡
309	**	鈴木竜洋, 西山千春, 原むつ子, 大塚宜一, 下高原昭廣, 加藤善史, 山高篤行, 奥村康, 清水俊明	小児アレルギー疾患における末梢血好塩基球および樹状細胞の高親和性IgE受容体(FcεRI)発現の検討(第2報)	第48回日本小児アレルギー学会	2011年10月	福岡
310	**	ニヨンサバフランソワ	上皮細胞が産生する抗菌物質の免疫調節機能	第41回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第35回日本医用エアロゾル研究会 [教育講演]	2011年9月	東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
 <既に実施しているもの>

1. 国内外の関連学会、シンポジウムでの発表:

「13 研究発表の状況・学会発表」参照

2. 評価会議開催:

毎年度末に開催している「アトピー疾患研究センター研究プロジェクト評価会議」に、学内外の研究者が一同に会し、プロジェクトの妥当性を検討している。

- ◎ 平成 23 年度アトピー疾患研究センター研究プロジェクト評価会議(平成 24 年 3 月 1 日)
場所: 順天堂大学 10 号館 1 階カンファレンスルーム
- ◎ 平成 24 年度アトピー疾患研究センター研究プロジェクト評価会議(平成 25 年 3 月 25 日)
場所: 順天堂大学 10 号館 1 階カンファレンスルーム
- ◎ 平成 25 年度アトピー疾患研究センター研究プロジェクト評価会議(平成 26 年 3 月 20 日)
場所: 順天堂大学 10 号館 1 階カンファレンスルーム
- ◎ 平成 26 年度アトピー疾患研究センター研究プロジェクト評価会議(平成 27 年 3 月 12 日)
場所: 順天堂大学 10 号館 1 階カンファレンスルーム
- ◎ 平成 27 年度アトピー疾患研究センター研究プロジェクト評価会議(平成 28 年 3 月 3 日)
場所: 順天堂大学 10 号館 1 階カンファレンスルーム

3. 学術セミナーの開催:

◎ 平成 23 年度アトピー疾患研究センター学術セミナー

開催日	平成 23 年 11 月 16 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 号室
講 師	Toshiaki Kawakami, M.D., Ph.D. (Professor, Division of Cell Biology, La Jolla Institute for Allergy and Immunology)
演題名	「IgE heterogeneity: from bench to bedside」

開催日	平成 23 年 11 月 30 日
場 所	順天堂大学 9 号館 2 階 8 番教室
講 師	Nobuhiko Kayagaki, Ph.D. (Scientist, Lab Head, Physiological Chemistry, Genetech)
演題名	「古典 vs 非古典的炎症応答経路: 新しいインフラマゾームの発見」

開催日	平成 24 年 2 月 6 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 号室
講 師	依田 成玄 先生(ダナファーマーがん研究所, ポスドク研究員)
演題名	「TSLP 受容体のガン遺伝子としての同定と解析」

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

◎平成 24 年度アトピー疾患研究センター学術セミナー

開催日	平成 24 年 10 月 24 日
場 所	順天堂大学 10 号館 1 階 105 カンファレンスルーム
講 師	Prof. Robert E.W.Hancock (Department of Microbiology and Immunology, University of British Columbia, Canada)
演 題 名	“Selectively immunomodulatory IDR peptides as a new therapeutic strategy for infectious and inflammatory diseases”

開催日	平成 25 年 3 月 25 日
場 所	順天堂大学 9 号館 2 階 8 番教室
講 師	北浦次郎 先生 (東京大学医科学研究所先端医療研究センター 細胞療法分野)
演 題 名	「ペア型免疫レセプターLMIR/CD300 とアレルギー ＜脂質セラミドを認識する抑制型レセプターLMIR3/CD300f＞」

◎平成 24 年度免疫学・アトピー疾患研究センター合同学術セミナー

開催日	平成 24 年 4 月 27 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	久保允人 先生 (東京理化学研究所 生命科学研究所 分子病態研究部門)
演 題 名	「濾胞型ヘルパーT 細胞(T _H 細胞)による抗体産生制御」

開催日	平成 24 年 7 月 3 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	眞貝洋一 先生 (理化学研究所 基幹研究所 眞貝細胞記憶研究室)
演 題 名	「ヒストンリジンメチル化による生命機能制御」

開催日	平成 24 年 9 月 25 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	原 英二 先生 (財団法人癌研究会 がん生物部)
演 題 名	「細胞老化の調節機構とその生体内での役割」

◎平成 25 年度アトピー疾患研究センター学術セミナー

開催日	平成 26 年 1 月 17 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	松岡(中村)悠美 先生 (千葉大学大学院医学研究科 皮膚科学)
演 題 名	「アトピー性皮膚炎における黄色ブドウ球菌の新規病原因子の同定」

開催日	平成 26 年 3 月 2 日
場 所	順天堂大学 10 号館 2 階 203 カンファレンスルーム
講 師	村上 誠 先生 (公益財団法人東京都医学総合研究所 生体分子先端研究分野)
演 題 名	「リン脂質代謝酵素ホスホリパーゼ A ₂ による生命応答制御の新基軸」

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

◎平成 26 年度アトピー疾患研究センター学術セミナー

開催日	平成 26 年 6 月 20 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	椛島健治 先生 (京都大学大学院医学研究科 皮膚科学)
演 題 名	「皮膚アレルギーの可視化と経皮感作のメカニズム」

開催日	平成 27 年 3 月 12 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	荒瀬 尚 先生 (大阪大学微生物病研究所免疫化学分野)
演 題 名	「ミスフォールド蛋白質/MHC クラス II 分子複合体による新たな自己免疫疾患発症機構」

◎平成 26 年度アトピー疾患研究センター・病理腫瘍学合同学術セミナー

開催日	平成 26 年 11 月 13 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	藤田恭之 先生 (北海道大学遺伝子病制御研究所 分子腫瘍分野)
演 題 名	「EDAC (Epithelial Defense Against Cancer)」

◎平成 27 年度アトピー疾患研究センター学術セミナー

開催日	平成 27 年 8 月 31 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	河合達郎 先生 (Professor of Surgery, Harvard Medical School Massachusetts General Hospital /A.Benedict Cosimi Chair in Transplant Surgery)
演 題 名	「臓器移植における免疫寛容の臨床」

開催日	平成 27 年 9 月 18 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	原 英二 先生 (大阪大学微生物病研究所 遺伝子生物学分野)
演 題 名	「癌と老化を制御する細胞老化の仕組みと役割」

開催日	平成 27 年 10 月 5 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	中江 進 先生 (東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センター)
演 題 名	「IL-33 による炎症誘導・制御機構」

開催日	平成 27 年 11 月 30 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 621 カンファレンスルーム
講 師	DAVID M. ROTHSTEIN 先生 (Pittsburgh Steelers Chair in Transplantation; Professor of Surgery, Medicine, and Immunology, Thomas E. Starzl Transplantation Institute, University of Pittsburgh)
演 題 名	“A Tale of Two TIMs: Modulation of the Immune Response by Regulatory and Inflammatory B cells”

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

開催日	平成 28 年 1 月 13 日
場 所	順天堂大学 11 号館 7 階 701 教室
講 師	本田賢也 先生 (慶應義塾大学医学部 微生物学・免疫学教室)
演題名	「腸内細菌による免疫系への影響」

開催日	平成 28 年 2 月 2 日
場 所	順天堂大学 10 号館 1 階 105 カンファレンスルーム
講 師	伊藤 喜久治 先生 (前・東京大学農学生命科学科)
演題名	「ノトバイオート動物の利用と有用性」

開催日	平成 28 年 3 月 3 日
場 所	順天堂大学 11 号館南 7 階 701 番教室
講 師	竹田 潔 先生 (大阪大学大学院医学研究科免疫制御学)
演題名	「腸管炎症の制御機構」

◎ 平成 27 年度アトピー疾患研究センター・乳酸菌生体機能研究講座合同学術セミナー

開催日	平成 27 年 6 月 15 日
場 所	順天堂大学 8 号館 6 階 603 カンファレンスルーム
講 師	Dr. Amir Horowitz Ph. D. (Departments of Structural Biology and Microbiology & Immunology/ Parham Laboratory/Stanford University School of Medicine)
演題名	“Expanding knowledge of <i>KIR</i> and <i>HLA</i> immunogenetics and NK cell function in human health and disease with mass cytometry”

4. アトピー疾患研究センターHP 作成:

http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/atopy_center/
(順天堂大学 HP より)

<これから実施する予定のもの>

該当無し

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

14 その他の研究成果等

●和文総説・記事等

1. 高井敏朗：専門医のためのアレルギー講座：アレルゲンとその修飾因子. アレルギー (in press)
- *2. 高井敏朗：家塵ダニアレルゲンの性状と標準化. 喘息・アレルギー (in press)
3. 高井敏朗：環境アレルゲン. 日本医師会雑誌特別号「アレルギー疾患の全て」(in press)
- *4. Niyonsaba F: Novel insight into the role of antimicrobial (host defense) peptides/proteins in human skin diseases. Juntendo Med J (in press)
- *5. Niyonsaba F: What's New from Juntendo University, Tokyo. Antimicrobial peptides: an essential component of the skin defensive barrier. Juntendo Med J (in press)
- *6. 中尾篤人：Clock による IL-33/ST2 シグナルの時間依存的な制御. 臨床免疫・アレルギー科, 65(3): 229-232, 2016
- *7. 安藤典子, 島田眞路, 中尾篤人：スギ花粉症患者好塩基球反応性の日内変動. 臨床免疫・アレルギー科, 64(5): 464-467, 2015
- *8. 中尾篤人：時計遺伝子 Clock により制御されるマスト細胞活性化. 臨床免疫・アレルギー科, 64(5): 442-446, 2015
- *9. 北浦次郎, 北村俊雄, 奥村 康, 伊沢久未：アトピー性皮膚炎におけるセラミドと LMIR3. 臨床免疫・アレルギー科, 63(2): 151-155, 2015
- *10. 中尾篤人：アレルギーと時計遺伝子. 臨床免疫・アレルギー科, 63(1): 68-72, 2015
11. 馬場洋介, 大塚宜一, 清水俊明：「アレルギー疾患の疫学」に寄せる 小児アレルギー疾患における IL-33 と ST2 遺伝子発現. アレルギーの臨床, 35:1066-1069, 2015
- *12. 高井敏朗, 上條清嗣：IL-33 とアレルゲン. 医学のあゆみ, 252(12): 1226-1232, 2015
- *13. Nakae S: Emerging roles of IL-33 in inflammation and immune regulation. Inflammation and Regeneration, 35: 69-77, 2015
- *14. 中尾篤人：時計遺伝子とアレルギー性炎症. 呼吸と循環, 63(10): 951-956, 2015
15. 原間大輔, 中尾篤人：敗血症の概念, 疫学, 診断, 治療. 山梨医科学雑誌, 30(2): 37-45, 2015
16. 中尾篤人：アレルゲン免疫療法の作用機序の基礎. アレルギー・免疫, 21(7): 1044-1049, 2014
17. 中尾篤人, 久保允人：TSLP を介したアレルギー性炎症のメカニズム. 実験医学増刊 炎症, 32(17): 2791-2795, 2014
18. 高井敏朗：環境アレルゲン解析の進歩. 小児科診療, 77(10): 1241-1247, 2014
- *19. 中尾篤人：体内時計は花粉症を制御するカギの一つ. Medical View Point, 35(3): 12, 2014
20. 山口正雄：薬物によるアナフィラキシー. アレルギー・免疫, 20(8): 86-91, 2013
- *21. 高井敏朗：ダニアレルゲンによる経皮感作のメカニズム. アレルギー・免疫, 20(6): 854-860, 2013
22. 中尾篤人：TSLP とアレルギー. 臨床免疫・アレルギー科, 60(1): 28-31, 2013
23. 山口正雄：生物製剤・分子標的療法の将来展望. アレルギーの臨床, 33(12): 47-51, 2013
- *24. 森田英明, 海野浩寿, 新江 賢, 大野建州, 斎藤博久, 松本健治, 中江 進：新規サイトカインとアレルギー. アレルギー, 62(8): 924-935, 2013
25. 中尾篤人：TSLP とアレルギー. アレルギー, 62(5): 555-559, 2013

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

26. 中尾篤人：アレルギーに対する免疫療法. 実験医学増刊, 31(17): 2885-2889, 2013
- *27. 海野浩寿, 森田英明, 新江 賢, 大野建州, 斎藤博久, 松本健治, 中江 進：細胞死によるアレルギー疾患への影響-IL-33、HMGB-1 などの DAMPs による免疫応答. 実験医学増刊, 31(17): 2791-2795, 2013
- *28. 高井敏朗：アレルギーはなぜアレルギーになるのか？：アレルギーが引き起こすバリア破壊と自然免疫応答. 実験医学増刊, 31(17): 2713-2719, 2013
- *29. 斎藤博久, 森田英明, 松本健治, 中江 進：慢性アレルギー炎症のメカニズム-好酸球性症を導くメカニズムの最新知見. 実験医学増刊, 31(17): 2706-2712, 2013
30. 中尾篤人：食物アレルギーの理解と治療法の将来展望. 最新医学 6 月増刊号, 68(6): 1466-1473, 2013
31. 山口正雄：薬物アレルギー. 最新医学 6 月増刊号, 68(6): 1457-1465, 2013
- *32. 新江 賢, 森田英明, 大野建州, 松本健治, 中江 進：IL-33 とアレルギー. 最新医学 3 月増刊号, 68(3): 552-567, 2013
33. 中尾篤人：蕁麻疹とアナフィラキシー. 日本臨床, 71(12): 2153-2157, 2013
34. 山口正雄：難治性喘息で期待される薬剤：現状と近未来. 呼吸器内科, 23(2): 228-232, 2013
35. 清水俊明：小児の消化器疾患のピットホール. 東京小児科医会, 31: 34-39, 2013
- *36. 高井敏朗：アレルギーの持つアジュバント作用と抗原感作機構. アレルギー・免疫, 19(1): 12-19, 2012
- *37. 中尾篤人：アレルギーと体内時計. 臨床免疫・アレルギー科, 57(6): 681-685, 2012
- *38. 新江 賢, 大野建州, 森田英明, 松本健治, 中江 進：IL-33 によるマスト細胞の活性化マスト細胞の活性化. 臨床免疫・アレルギー科, 57(6): 625-633, 2012
- *39. 西山千春：マスト細胞, 樹状細胞を制御する転写調節因子-GATA1, GATA2, PU.1, FOG1 の機能-. アレルギーの臨床, 32(434): 924-929, 2012
40. 西山千春：特集「アレルギーの最先端研究-治療と予防への応用-」-特集に寄せて-アレルギー研究の最近の話題. アレルギーの臨床, 32(434): 892, 2012
- *41. 大野建州, 森田英明, 新江 賢, 松本健治, 中江 進：IL-33 による慢性アレルギー炎症. アレルギーの臨床, 32(434): 42-47, 2012
- *42. 中尾篤人：アレルギー疾患における体内時計の役割. アレルギーの臨床, 32(434): 32-36, 2012
43. 中尾篤人：食物アレルギーとその動物モデル. アレルギーの臨床, 32(433): 48-52, 2012
- *44. 高井敏朗：私は思う：アレルギーとは何か. アレルギーの臨床, 32(432): 739-741, 2012
- *45. 高井敏朗：アレルギーの 3 つの顔. アレルギー, 61(7): 930-940, 2012
46. 山口正雄：薬剤アレルギー（専門医のためのアレルギー学講座）. アレルギー, 61(6): 753-759, 2012
- *47. 大野建州, 東みゆき, 中江 進：IL-25, IL-33 と自然リンパ球. 実験医学, 30(19): 3062-3071, 2012
- *48. 大野建州, 東みゆき, 中江 進：IL-33 と慢性アレルギー炎症. 実験医学, 30(6): 918-925, 2012
- *49. 森田英明, 新江 賢, 大野建州, 松本健治, 中江 進：IL33 によるマスト細胞・好塩基球の活性化とアレルギー疾患. 炎症と免疫, 20(4): 339-350, 2012
- *50. 中尾篤人：肥満細胞によるアレルギー反応の体内時計遺伝子を介する日内変動調節. 炎症と免疫, 20(4): 3-7, 2012

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

- *51. 中尾篤人：体内時計によるアレルギー反応の時間的制御. 感染・炎症・免疫, 42(3): 58-61, 2012
52. 高井敏朗, 池田志孝：ダニアレルギーとアレルゲン. 週刊日本医事新報, 4582: 57-59, 2012
- *53. 高井敏朗：Th2 アジュバントとしての環境アレルゲンと黄色ブドウ菌：経皮的 Th2 感作におけるバリア破壊と自然免疫応答. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌, 6: 8-13, 2012
- *54. 中尾篤人：体内時計とアレルギー. 治療, 94(11): 1859-1864, 2012
55. 山口正雄：気管支喘息（特集：最近 10 年で最も進歩した研究分野を検証する）. 呼吸, 31(10): 939-941, 2012
- *56. 中尾篤人：アレルギーと体内時計. FOOD STYLE21, 16(7): 24-26, 2012
57. 松田 彰, 海老原伸行：アレルギー性結膜疾患. 臨床眼科(増刊号), 66(11): 156-160, 2012
58. 志村絵理, 中江 進：接触皮膚炎と IL-17. JEDCA (Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergology), 6(5): 417-426, 2012
- *59. 大野建州, 森田英明, 新江 賢, 松本健治, 中江 進：気管支喘息における IgE 産生の抑制とインターロイキンを標的とした治療戦略（シリーズ第 4 回 IL-33 とアレルギー）. IgE practice in asthma, 6(2): 11-17, 2012
60. 久田 研, 清水俊明：【新生児医療-up to date】 プロバイオティクス. 小児科診療, 75601578-1585, 2012
61. 清水俊明：小児消化器疾患診療の注意点. 日本医師会雑誌, 141: s 332-333, 2012
62. 清水俊明：新生児医療におけるプロバイオティクスの有用性. 医学のあゆみ, 240(3): 228-31, 2012
63. 鈴木竜洋, 清水俊明：【Q&A で学ぶお母さんと赤ちゃんの栄養】 Q&A 小児科編 母乳 最初の子どもは母乳で育てましたが、それでも牛乳アレルギーがありました。今度は大豆乳で育てたいのですが、問題はありますか？ 周産期医学, 42(増): 174-175, 2012
64. 須藤 一：知っておかなければならないアレルギー疾患の基礎的知識 IgE と遅延型アレルギー. アレルギー・免疫, 18(7): 1046-1055, 2011
- *65. 牛尾博子：マスト細胞と殺菌. アレルギー・免疫. 18(1): 126-129, 2011
- *66. 牛尾博子：マスト細胞の脱顆粒とオートファジー. 臨床免疫・アレルギー科, 55(6): 612-616, 2011
- *67. 中野信浩：マスト細胞機能と Notch. 臨床免疫・アレルギー科, 55(6): 589-594, 2011
- *68. 高井敏朗：表皮ケラチノサイトにおける TSLP 産生誘導. 臨床免疫・アレルギー科, 55(3): 365-370, 2011
69. 志村絵理, 中江 進：IL-17 と接触過敏症. アレルギーの臨床, 207(3): 202-207, 2011
- *70. 高井敏朗：アレルゲンはなぜアレルゲンになるのか. アレルギー, 60(7): 809-816, 2011
71. 中江 進：Th17 細胞依存的なアレルギー疾患の発症機構の解明. アレルギー, 49: 83-86, 2011
72. 南部あや, 中江 進：M2 マクロファージの分化機構の発見. 実験医学, 29(16): 2657-2658, 2011
- *73. 中尾篤人：体内時計は、アレルギー反応を制御するカギの 1 つである. 化学と生物, 49(11): 740-742, 2011
74. 南部あや, 中江 進：IL-17 と疾患. 化学と生物, 49(7): 454-460, 2011

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

75. 中尾篤人：アレルギー疾患と母乳中の TGF- β 。化学と生物, 49(6)：392-397, 2011
- *76. 中野信浩：抗原提示細胞としての機能をもつマスト細胞と好塩基球。化学と生物, 49(4)：224-226, 2011
77. 中尾篤人：乳幼児アレルギー疾患の発症抑制と母乳中 TGF- β 。日本小児アレルギー学会誌, 25(1)：69-74, 2011
78. 高村武之, 原間大輔, 下川直美, 北村正敬, 中尾篤人：Aryl hydrocarbon receptor 経路の活性化によるデキストラン硫酸ナトリウム誘導性大腸炎の抑制。消化器と免疫, 47：76-79, 2011
79. 臼井嘉彦, 後藤 浩, 西山千春：脈絡膜悪性黒色腫におけるモノソミー 3。臨床眼科増刊号, 65(11)：441-443, 2011
- *80. 中尾篤人：アレルギーと体内時計。FOOD STYLE21, 16(7)：24-26, 2012
81. 中江 進：インターロイキン 17：肺及び皮膚免疫における役割。表面, 49：96-109, 2011

●講演

- 池田志孝：iPS 細胞などの各種幹細胞を用いた皮膚再生医療の現状と展望—特に脂肪組織幹細胞中に存在する表皮角化細胞前駆細胞の可能性—。平塚市医師会皮膚科部会第 70 回例会, 2016 年 1 月 20 日, 平塚
- 高井敏朗：アレルギー疾患の修飾因子「アレルギーとその修飾因子」。第 2 回総合アレルギー講習会(日本アレルギー学会), 2015 年 12 月 12 日, 横浜
- *3. Niyonsaba F: Antimicrobial peptides: an essential component of the skin defensive barrier. Peking University - Juntendo University Joint Symposium on Brain and Skin Diseases. 2015 年 11 月 19 日, Beijing (China)
- *4. ニヨンサバ フランソワ：抗菌ペプチドのマスト細胞に対する活性化作用の光と影。第 2 回公開シンポジウム：難治性かゆみの発症機構解明と予防・治療法開発の研究基盤構築, 2015 年 10 月 10 日, 東京
- *5. 高井敏朗：アレルギーの生物活性とアジュバント作用：なぜアレルギーになるのか（ランチョンセミナー）。第 36 回日本眼薬理学会, 2015 年 9 月 6 日, 東京
- *6. 伊沢久未：マスト細胞に発現するヒト LMIR3/CD300f による脂質認識と皮膚の炎症制御機構。第 17 回（平成 26 年度）花王（医学・生物学分野）研究助成発表会, 平成 27 年 6 月 4 日, 東京
- *7. Niyonsaba Francois: Antimicrobial (Host Defense) Proteins in the Skin Immunity: Friends or Foes? 2nd Xi' an International Forum on Psoriasis: 38, 2015 年 5 月 15 日, 西安（中国）
- *8. 北浦次郎：Physiological roles of an inhibitory LMIR3 and an activating LMIR5. 第 3 回 ITAM workshop, 2015 年 3 月 14 日, 博多
- *9. 北浦次郎：抑制型受容体 LMIR3/CD300f によるアレルギー・炎症性疾患の制御メカニズム。第 143 回御茶ノ水木曜会, 2015 年 3 月 12 日, 東京
10. 須藤 一：「アナフィラキシー新ガイドラインについて」～薬物・食品・虫などのアレルギー～。南陽市東置賜郡医師会学術講演会, 2015 年 3 月 4 日, 山形
- *11. 北浦次郎：セラミドを認識する抑制型受容体 LMIR3/CD300f によるアレルギー・炎症の制御機構。第 10 回順天堂眼アレルギー研究会, 平成 27 年 3 月 4 日, 東京
- *12. 高井敏朗：アレルギーが引き起こすバリア破壊と自然免疫応答。ABC の会, 2015 年 1 月, 東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

- *13. 高井敏朗：アレルギー疾患の修飾因子：1. アレルゲンとその修飾因子. 第1回総合アレルギー講習会(日本アレルギー学会), 2014年12月20日, 横浜
- *14. ニヨンサバ フランソワ：皮膚の自然免疫における抗菌物質の役. ペプチド研究所, 2014年12月11日, 大阪
- *15. 北浦次郎：脂質を認識する免疫受容体ファミリーCD300/LMIRによるアレルギー・炎症の制御. 東京大学平成26年度冬学期全学体験ゼミナール「医科学研究最前線」, 平成26年12月6日, 東京
- *16. 中尾篤人：アレルギーのトピック「体内時計とアレルギー」. 新潟薬科大学第8回薬剤師生涯教育講座, 2014年11月9日, 新潟
- *17. 北浦次郎：ペア型受容体LMIR/CD300ファミリーとアレルギー・炎症. 御茶ノ水がん学アカデミア第106回集会, 2014年10月22日, 東京
- *18. ニヨンサバ フランソワ：宿主防御免疫における抗菌物質の免疫調節の役割. 日本女子大学理学部, 2014年10月1日, 東京
- *19. 中野信浩：Notchシグナルによって誘導される粘膜型マスト細胞の分化. 平成26年度山梨大学免疫学セミナー, 2014年9月17日, 山梨
20. 中尾篤人：病原体から体を守るしくみ. サイエンスフォーラム for 高校生 in 山梨大学医学部, 2014年8月11日, 山梨
- *21. ニヨンサバ フランソワ：抗菌物質の皮膚免疫調節機能. 中央臨床研究会, 2014年7月23日, 東京
- *22. 高井敏朗：アレルギー診療に役立つ免疫講座1. アレルゲンが引き起こすバリア破壊と自然免疫応答. 日本アレルギー学会, 2014年5月10日, 京都
23. 奥村 康：「不良」長寿のすすめ. 林医院(福井県)：創立100周年記念市民公開講座, 2014年3月21日, 福井
- *24. 高井敏朗：アレルゲンが引き起こすバリア破壊と自然免疫応答. 第22回大分アレルギー講習会, 2014年2月1日, 大分
25. 須藤 一：スキンケアと褥瘡管理. 第7回日本褥瘡学会山形県在宅褥瘡セミナー, 2013年12月7日, 山形
26. 池田志孝：皮膚疾患の遺伝子解析法概略. 第127回浦安皮膚臨床懇話会, 2013年11月21日, 千葉市
- *27. ニヨンサバ フランソワ：抗菌ペプチド：皮膚の自然免疫に重要な物質. 御木本製薬株式会社, 2013年8月, 三重
28. 池田志孝：アトピー性皮膚炎のかゆみ～なぜ抗ヒスタミン薬が効きづらいのか～. 日本皮膚科学会新潟地方会第370回例会, 2013年8月3日, 新潟市
- *29. ニヨンサバ フランソワ：抗菌(宿主防御)物質と皮膚の自然免疫. 皮膚基礎研究クラスターフォーラム第8回教育セミナー, 2013年8月1日, 東京
- *30. 中尾篤人：免疫グロブリン, IgEや特異IgEを中心に -体内時計によるIgE応答の時間的制御-. 第33回六甲カンファレンス, 2013年7月27日, 京都市
31. 奥村 康：不良長寿. 北海道士別市健康づくり講演会, 2013年7月19日, 士別市
- *32. 中野信浩：マスト細胞におけるNotchシグナルの役割 -マスト細胞の未知の機能を探る-. 平成25年度免疫学セミナー(山梨大学), 2013年5月27日, 甲府市
33. 中江 進：皮膚炎とサイトカイン up-to-date. 第79回金沢皮膚研究会, 2013年4月4日, 金沢市
- *34. ニヨンサバ フランソワ：皮膚の自然免疫：抗菌(宿主防御)物質の役割(シンポジウム). 第12回皮膚・アレルギーセミナー, 2013年3月, 東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

35. 中尾篤人：「融合研究の推進」～共同研究や臨床応用への可能性～. 山梨大学 融合研究臨床応用推進センター第2回講演会, 2013年3月5日, 甲府市
36. 奥村 康：免疫と長生き. 東京都品川区区民公開講座, 2013年2月16日, 東京
- *37. 高井敏朗：アレルギーの持つアジュバント作用と抗原感作機構（特別講演）. 第10回九州耳鼻科薬物治療研究会, 2013年2月16日, 福岡
38. 奥村 康：馬鹿な免疫, 利口な免疫. 福井県内科医会講演会, 2012年12月15日, 福井
39. 奥村 康：馬鹿な免疫, 利口な免疫. 生命科学シンポジウム in 東洋大学, 2012年11月30日, 群馬
40. 奥村 康：腎臓と免疫. 第10回腎と免疫フォーラム, 2012年11月15日, 東京
41. Shimizu T: Food Sensitive Enteropathy -Pathophysiology & Current Therapy-. 4th WCPGHAN Post Graduate Course, 2012年11月14-18日, Taipei, Taiwan
42. 須藤 一：アトピー性皮膚炎：奇妙な病気の秘密とその治し方. 平成24年度日本臨床皮膚科医会主催市民公開講座「皮膚の健康セミナー」, 2012年11月11日, 山形
- *43. 高井敏朗：アレルギーの持つアジュバント作用と抗原感作機構. 茨城県小児アレルギー研究会, 2012年11月, つくば市
- *44. Niyonsaba Francois: Novel roles of host defense peptides in cutaneous biology (Symposium). IEIIS2012 Homeostatic Inflammation Symposium, 2012年10月23日, 東京
45. 奥村 康：健康は笑いから～日常を変えるちょっとしたヒント～. 千葉県船橋市：健康づくり公開講座, 2012年9月26日, 船橋市
46. 須藤 一：在宅でよく見られる治療に注意を要する皮膚疾患. 南陽市東置賜群医師会介護保険委員会主治医研修会, 2012年9月26日, 山形
- *47. 高井敏朗：アレルギー研究の最前線. 関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会, 2012年9月9日, 東京
- *48. 須藤 一：アトピー性皮膚炎と漢方. 第30回都民公開講座, 2012年6月23日, 東京
- *49. 高井敏朗：TSLP および IL-33 の産生誘導とアレルギー. 喘息治療セミナー21:ロイコトリエン研究会, 2012年5月26日, 名古屋
- *50. 中尾篤人：アレルギーと体内時計. ifia JAPAN2012 (第17回国際食品素材/添加物展・会議, HFE JAPAN2012 (第10回ヘルスフードエキスポ), 2012年5月25日, 東京
51. 西山千春：アレルギーについて. 順天堂大学医学部附属練馬病院公開講座, 2012年2月25日, 東京
52. 奥村 康：免疫を学び, 健康な生活を. 東京新聞健康フォーラム, 東京, 2012年2月18日
53. 須藤 一：皮膚疾患に対する対処法. 平成24年度日整公認私的研究会山形おにへい倶楽部公開講座, 2012年1月27日, 山形
- *54. 高井敏朗：アレルギーの持つアジュバント作用と抗原感作機構（特別講演）. 第8回大阪皮膚アレルギーネットワーク (ODAN), 2012年1月21日, 大阪
- *55. Nakao A: The biological clock regulates allergic reaction. The 1st University of Yamanashi Global COE Meeting 2011, 2011年9月6日, 甲府市
56. 奥村 康：馬鹿な免疫, 利口な免疫. 第4回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会, 2011年12月17日, 島根
57. 中尾篤人：「アレルギーとは何か？」（記念講演）. エコチル山梨 フォーラム 2011 秋, 2011年11月5日, 山梨
58. 奥村 康：免疫と長生き. 熊本県内科医会, 2011年11月2日, 熊本
59. 奥村 康：馬鹿な免疫と利口な免疫. 千葉市医師会学術講演会, 2011年10月19日, 千葉
60. 奥村 康：「若返りはおなかから！」. 日本健康・栄養食品協会 トクホフォーラム, 2011年9月29日, 東京
- *61. 西山千春：Topics of Allergy Research in Juntendo. Charité Universitätsmedizin Berlin-Juntendo University joint symposium (ドイツ-日本国交150周年 第2回シヤ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

- リテ医科大学-順天堂大学ジョイント・シンポジウム), 2011年9月27日, 東京
- *62. 西山千春: アレルギーに関わる遺伝子発現と転写調節因子の機能. 第3回順天堂眼アレルギー研究会, 2011年9月14日, 東京
- *63. ニヨンサバ フランソワ: 上皮細胞が産制する抗菌物質の免疫調節機能(教育講演). 第41回日本耳鼻咽喉科感染症研究会・第35回日本エアロゾル研究会, 2011年9月2日, 東京
64. 中江 進: 接触性皮膚炎とサイトカイン Up-to-date. 第10回LRI研究報告会, 2011年8月26日, 東京
- *65. 西山千春: どうしてアレルギーになるのでしょうか? アレルギーの科学と不思議. 順天堂大学オープンキャンパス, 2011年8月20日, 東京
- *66. 高井敏朗: アレルゲンを考える: アレルゲンはなぜアレルゲンになるのか? 那須ティーン, 2011年7月30日, 東京
- *67. ニヨンサバ フランソワ: ヒト抗菌物質の皮膚免疫調節機能に対する役割(ランチョンセミナー). 第58回トキシシンポジウム, 2011年7月7日, 東京
68. 中江 進: サイトカインとアレルギー疾患. 東京医科歯科大学大学院特別講義, 2011年6月27日, 東京
69. 奥村 康: 免疫と長生き-馬鹿な免疫と利口な免疫-. 第11回日本健康・栄養システム, 2011年6月25日, 神奈川
70. 奥村 康: 免疫学の進歩とその臨床応用. 練馬医学会基調講演, 2011年6月19日, 東京
- *71. 西山千春: アレルギー疾患関連分子の発現制御機構とアレルギー治療・予防への応用. 山梨大学医学部免疫学講座セミナー, 2011年6月13日, 甲府
- *72. 西山千春: アレルギーが起こる仕組みと遺伝子. 山梨大学医学部免疫学講座特別講義, 2011年6月13日, 甲府
- *73. 西山千春: 転写調節因子 PU.1 による樹状細胞遺伝子発現制御機構. 第7回麒麟塾(血液学若手勉強会), 2011年6月4日, 東京
74. 奥村 康: 馬鹿な免疫と利口な免疫. 福井県内科医会, 2011年4月2日, 福井
75. 中江 進: アレルギー疾患におけるサイトカイン Up-to-date. 第2回順天堂眼アレルギー研究会, 2011年2月23日, 東京
76. 奥村 康: 「不良長寿とNK活性」. 栄養士向けセミナー 女子栄養大学駒込校舎, 2011年2月18日, 東京
- *77. 中江 進: IL-33 とアレルギー. 第19回関東アレルギークラブ, 2011年2月12日, 東京
- 報道等
1. 中尾篤人: 「[取材協力] 体内時計を利用したアレルギーの新治療」Newton 3月号 36(3)13, 2016
2. ニヨンサバ フランソワ: 「国境を越えたコミュニケーションと健康の追求」朝日新聞, 2015年12月27日
- *3. 中江 進: 「気管支喘息抑える新たなメカニズム」科学新聞(週間・科学新聞社), 2015年7月31日
- *4. 中江 進: 「東大など、「気管支ぜんそく」抑える生体内の忙しい仕組み発見」日刊工業新聞, 2015年7月22日
- *5. 中江 進: 「東大など、気管支喘息を抑える新しい免疫応答を解明」日経プレスリリース, 2015年7月22日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

- *6. 北浦次郎, 奥村 康:「炎症性腸疾患の発症・進展を抑制する仕組みを解明～脂質セラミドを認識する抑制型受容体 LMIR3 を標的とした新しい治療の可能性～」 順天堂大学 News & Information (医療・健康), 2015年2月13日
- *7. 北浦次郎, 奥村 康:「炎症性腸疾患の発症・進展を抑制する仕組みを解明」 朝日新聞 DIGITAL, 2015年2月13日
- *8. 北浦次郎, 奥村 康:「炎症性腸疾患の発症・進展を抑制する仕組みを解明」 楽天ニュース, 2015年2月13日
- *9. 北浦次郎, 奥村 康:「炎症性腸疾患の発症・進展を抑制する仕組みを解明-順大」 QLife Pro, 医療ニュース, 2015年2月13日
- *10. 北浦次郎, 奥村 康:「炎症性疾患を抑える生体内の仕組みを明らかに」 株式会社科学新聞社, 2015年3月5日
- *11. 高井敏朗, 奥村 康:「ぜんそく悪化 仕組み解明. ダニが含むタンパク質 順大, マウス実験」 日経産業新聞, 2014年12月12日
- 12. 中尾篤人:「母乳の免疫力を解明」 夕刊フジ, 2014年10月31日
- 13. 中尾篤人:「雑菌には触れた方がいい! 専門家が教える、知らずに免疫を下げる”悪習慣”」 ウレぴあ総研 ハピママ (2), 2014年10月20日
- 14. 中尾篤人:「我が子をアレルギーにさせないためには? 「原因・対策・対処法」を専門家に聞いた」 ウレぴあ総研 ハピママ (1), 2014年10月20日
- *15. 中尾篤人:「アレルギー症状 夜にひどくなる理由解明」 日本経済新聞, 2013年10月28日
- *16. 中尾篤人:「体内時計で症状変化」, 朝日新聞, 2013年10月8日
- *17. 中尾篤人:「明け方悪化の花粉症 時計遺伝子が影響」 毎日新聞, 2013年10月1日
- *18. 中尾篤人:「花粉症 時計遺伝子が影響」 山梨日日新聞, 2013年9月27日
- *19. 中尾篤人:「花粉症 夜悪化の仕組み解明」 読売新聞, 2013年9月27日
- 20. 奥村 康:「夢の治療が始まった～免疫を制御する“医療革命”～」 NHK クローズアップ現代, 2013年3月14日
- 21. 奥村 康:「R-1 乳酸菌 毎日飲めば風邪予防効果」 毎日新聞, 2012年11月30日
- 22. 奥村 康:「NK 細胞の働きの重要性」 読売新聞朝刊, 2012年9月9日
- 23. 奥村 康:「NK 細胞活性化」 東京新聞朝刊, 2012年9月6日
- *24. 高井敏朗:「花粉症特集:花粉のアジュバント作用-花粉粒子の“新しい顔”生理活性物質」 Medical Tribune, 44(51): 94, 2011年12月22日
- 25. 奥村 康:「健康な生活を送りたいと願う現代人にとって気をつけたいこととは?」 産経新聞全国紙, 2011年7月15日

●企業との連携

- *1. 北浦次郎: [共同研究] 花王株式会社 「アレルギーの病態における脂質の分析」, 平成27年9月1日～現在
- 2. 中尾篤人: [共同研究] 株式会社明治 「芳香族炭化水素受容体活性化が及ぼす生理効果の検討」, 平成27年9月～平成28年8月
- *3. ニヨンサバ フランソワ: [共同研究] 御木本製薬株式会社 「角化症研究」, 平成18年10月～現在
- *4. 中尾篤人: [共同研究] 鳥居薬品株式会社 「概日時計がアレルギー免疫療法の効果に及ぼす影響についての解析」, 平成26年8月～平成28年7月
- 5. 中尾篤人: [共同研究] ビーンスターク・スノー株式会社 「授乳婦に対する乳酸菌含有食品の摂取効果の研究」, 平成25年3月～平成26年9月
- 6. 中尾篤人: [共同研究] 株式会社明治 「アレルギー反応の概日リズムに対するプロバイオティクスの影響検討」, 平成25年9月～平成26年3月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1101010

7. 中尾篤人：[共同研究] 株式会社明治 「芳香族炭酸水素受容体の活性化による炎症性腸疾患抑制機構の解析」，平成 22 年 9 月～平成 25 年 3 月

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

研究者の数が多いため、研究成果の集約に留意されたい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

- ・ 臨床の各科との協力体制にあるため研究者の数は多いが、研究プロジェクトはアトピー疾患研究センターの専任の研究者を中心とし、バリアあるいは環境因子を中心とした方向性に集約した。
- ・ 本報告書概要の「4. 研究成果の概要」では、【Ⅰ】環境要因、【Ⅱ】遺伝的要因と細胞応答、【Ⅲ】治療・予防との関連、という3つの観点で分類することにより、各研究課題の成果を集約し、よりわかりやすい記載となるよう努めた。

<「中間評価時」に付された留意事項>

(審査員1)

- ・ 組織構造理解のために、実質的な研究体制組織図を提出してもらいたい。多くの研究員を並べるのは、かえって活動状況が見えにくくなる。

(審査員2)

- ・ 中間報告書概要の「2. 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要」での11項目のうち9以降が、中間報告書の(4)の中の「現在までの進捗状況及び達成度」の中で記載が無いがその理由は何か。
- ・ 多人数の成果の集合体としては評価に値するが、研究成果の集約に留意すべき。
- ・ 下半期でのより一層の努力が必要である。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

(審査員1の留意事項への対応)

- ・ 本報告書概要では、研究員・研究グループの活動状況の把握を容易にする目的で、コメントに従い実質的な研究体制組織図を作成し、「(2)研究組織」の欄に示した。

(審査員2の留意事項への対応)

- ・ 中間報告書概要で記載した計画の項目数が11項目と多かった理由は、申請時の構想調書の概要項目からなるべく忠実に採取したためである。一部の項目の内容記載がなかった理由は、中間報告書本文では重要性の高いものから記載した結果、書式の枚数制限のため割愛せざるを得なかったためである。今回の研究報告概要においては、「11研究の概要」の、「(1)研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要」の項目と「(4)研究成果の概要」の項目が対応するように記載した。
- ・ 研究拠点として当センターを媒介とした交流により、共通の問題意識の下で相互支援が行われた。“バリア”をめぐる各参加者の視野拡大と研究手法の共有によりプロジェクトが発展しており、成果は単純な集合体ではない。研究の多様性を保持しつつも互いの連携を密接に強めることによって研究テーマの集約に努めた。例えば環境因子側からと生体側(遺伝子、細胞機能)からの2つのアプローチで共通して重要性が明らかとなったターゲットについて、より集中して解析を行った。
- ・ その結果、下半期には上半期以上にインパクトの大きい成果について掲載受理とすることができた。投稿中および投稿準備中の成果にも重要なものが含まれている。

法人番号	13125
プロジェクト番号	S1101010

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成23年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	59,640	29,820	29,820	0	0	0	0
	設備	13,499	4,500	8,999	0	0	0	0
	研究費	120,412	62,654	57,758	0	0	0	0
平成24年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	34,114	11,374	22,740	0	0	0	0
	研究費	118,059	60,791	57,268	0	0	0	0
平成25年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	19,000	6,333	12,667	0	0	0	0
	研究費	109,647	60,531	49,116	0	0	0	0
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	113,874	59,756	54,118	0	0	0	0
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	114,340	60,938	53,402	0	0	0	0
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	59,640	29,820	29,820	0	0	0	0
	設備	66,613	22,207	44,406	0	0	0	0
	研究費	576,332	304,670	271,662	0	0	0	0
総計	702,585	356,697	345,888	0	0	0	0	

法人番号

13125

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 23 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	70,072	解析、分析用消耗品	70,072	試薬、実験器具、実験動物
光 熱 水 費	0	水道、ガス、電気代	0	
通 信 運 搬 費	213	郵便、宅配便	213	実験動物輸送費、試薬運搬費
印 刷 製 本 費	396	冊子作成	396	報告書、別刷印刷
旅 費 交 通 費	219	交通費、宿泊費	219	学会等研究成果発表
報 酬・委 託 料	5,961	業務委託費	5,961	研究補助員委託(1名、@2,700)、英文校正
(そ の 他)	1,470	修繕費、参加費	1,470	機器修繕費、施設修繕費、学会参加費、各種手数料
計	78,331		78,331	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	0		0	
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0	
計	0		0	
設 備 関 係 支 出 (1 個 又 は 1 組 の 価 格 が 5 0 0 万 円 未 満 の も の)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	19,346	実験、教育機器	19,346	バイオメディカルフリーザー、PCRシステム
図 書				
計	19,346		19,346	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	9,200	研究補助	9,200	学内8人、学外0人、外国0人
ポスト・ドクター	13,535	共同研究	13,535	学内5人、学外0人、外国0人、学振0人
研究支援推進経費				学内0人、学外0人、外国0人
計	22,735		22,735	学内13人、学外0人、外国0人、学振0人

法人番号	13125
------	-------

(千円)

年 度	平成 24 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	74,111	解析、分析用消耗品	74,111
光 熱 水 費	0	水道、ガス、電気代	0
通 信 運 搬 費	407	郵便、宅配便	407
印 刷 製 本 費	181	冊子作成	181
旅 費 交 通 費	510	交通費、宿泊費	510
報 酬・委 託 料	8,934	業務委託費	8,934
(その他)	1,560	修繕費、参加費	1,560
計	85,703		85,703
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	3,149	研究補助員	3,149
			月給 250,000円、年間時間数 約2,000時間(休憩含)、交通費他 実人数 1人
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0
計	3,149		3,149
設 備 関 係 支 出 (1 個 又 は 1 組 の 価 格 が 5 0 0 万 円 未 満 の も の)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	11,406	実験、教育機器	11,406
図 書	0		0
計	11,406		11,406
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	8,200	研究補助	8,200
ポスト・ドクター	9,601	共同研究	9,601
研究支援推進経費	0		0
計	17,801		17,801

法人番号	13125
------	-------

(千円)

年 度	平成 25 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	55,214	解析、分析用消耗品	55,214
光 熱 水 費	0	水道、ガス、電気代	0
通 信 運 搬 費	990	郵便、宅配便	990
印 刷 製 本 費	323	冊子作成	323
旅 費 交 通 費	1,099	交通費、宿泊費	1,099
報 酬・委 託 料	16,626	業務委託費	16,626
(その他)	2,667	修繕費、参加費	2,667
計	76,919		76,919
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	3,584	研究補助員	3,584
			月給 260,000円、年間時間数 約2,000時間(休憩含)、交通費他 実人数 1人
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0
計	3,584		3,584
設 備 関 係 支 出 (1 個 又 は 1 組 の 価 格 が 5 0 0 万 円 未 満 の も の)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	19,729	実験、教育機器	19,729
図 書	0		0
計	19,729		19,729
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	6,058	研究補助	6,058
			学内5人、学外0人、外国0人、学振0人
ポスト・ドクター	3,357	共同研究	3,357
			学内1人、学外0人、外国0人、学振0人
研究支援推進経費		研究補助	0
			学内0人、学外0人、外国0人
計	9,415		9,415
			学内6人、学外0人、外国0人、学振0人

法人番号	13125
------	-------

(千円)

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	47,229	解析、分析用消耗品	47,229	試薬、実験器具、実験動物
光 熱 水 費	0	水道、ガス、電気代	0	
通 信 運 搬 費	1,632	郵便、宅配便	1,632	実験動物輸送費、試薬運搬費
印 刷 製 本 費	1,620	冊子作成	1,620	報告書、別刷印刷
旅 費 交 通 費	406	交通費、宿泊費	406	学会等研究成果発表
報 酬・委 託 料	25,902	業務委託費	25,902	研究補助員委託(3名)、英文校正
(その他)	1,432	修繕費、参加費	1,432	機器修繕費、施設修繕費、学会参加費、各種手数料
計	78,221		78,221	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼務職員)	3,675	研究補助員	3,675	時給1,800円、年間時間数 約2,000時間(休憩)、交通費他 実人数 1人
教 育 研 究 経 費 支 出				
計	3,675		3,675	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	18,168	実験、教育機器	18,168	FACSアップグレード、ルミノイメージアナライザー
図 書				
計	18,168		18,168	
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	9,136	研究補助	9,136	学内9人、学外0人、外国0人
ポスト・ドクター	4,437	共同研究	4,437	学内2人、学外0人、外国0人、学振0人
研究支援推進経費	237	研究補助	237	学内1人、学外0人、外国0人
計	13,810		13,810	学内12人、学外0人、外国0人、学振0人

法人番号	13125
------	-------

(千円)

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	57,365	解析、分析用消耗品	57,365	試薬、実験器具、実験動物
光 熱 水 費	0	水道、ガス、電気代	0	
通 信 運 搬 費	580	郵便、宅配便	580	実験動物輸送費、試薬運搬費
印 刷 製 本 費	237	冊子作成	237	論文印刷
旅 費 交 通 費	60	交通費、宿泊費	60	学会等研究成果発表
報 酬・委 託 料	34,123	業務委託費	34,123	研究補助員委託(2名)、動物繁殖飼育
(そ の 他)	641	修繕費、参加費	641	機器修繕費、学会参加費、各種手数料
計	93,006		93,006	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	0		0	
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0	
計	0		0	
設 備 関 係 支 出 (1 個 又 は 1 組 の 価 格 が 5 0 0 万 円 未 満 の も の)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品	7,218	実験、教育機器	7,218	ゼータサイザーナノZS90、微量高速遠心機 他
図 書				
計	7,218		7,218	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	6,645	研究補助	6,645	学内7人、学外0人、外国0人
ポスト・ドクター	7,471	共同研究	7,471	学内2人、学外0人、外国0人、学振0人
研究支援推進経費	0		0	学内0人、学外0人、外国0人
計	14,116		14,116	学内9人、学外0人、外国0人、学振0人